

平成 30 年度 病 院 年 報



当院全景

三浦市立病院

三 浦 市 立 病 院 憲 章

基 本 理 念

三浦市立病院とその職員は、健康啓発、疾病の予防と治療、そして社会復帰に至るまでの医療全般にわたり、当院の持ち得る資源を最大限に活用して市民皆様に貢献します。

基 本 方 針

1 患者様中心の医療の実践

患者様の声を尊重し、相互の信頼関係に基づいた医療サービスを提供するとともに、患者様の医療に関する権利を確保します。

2 救急医療への対応

地域中核病院として本市救急医療体制の中心的役割を担います。

3 安全で安心な医療の推進

安全かつ安心して医療を受けられる環境を整備します。

4 医療技術の向上

常に適切な医療技術を提供します。

5 人材の育成・確保

病院職員としての倫理を遵守し、患者様の生命を尊重した安全で安心の医療を提供できる職員づくりに取り組みます。

6 地域連携の強化

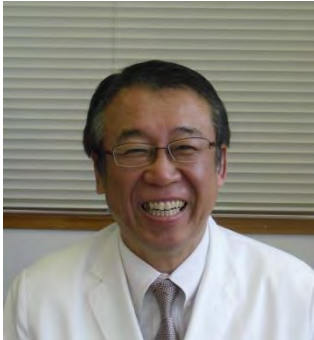
地域医療機関と連携し、地域医療体制を強化します。

7 療養環境の向上

快適な入院生活が送れるよう、医療行為はもちろんその他の部分も含めてきめ細やかな対応を図ります。

8 経営改善と安定経営

公共性を確保するとともに、合理的かつ効率的な病院経営に努め、健全で自立した経営基盤を確保します。



はじめに

三浦市立病院総病院長 小澤幸弘

私としては、病院事業管理者として3期目の任命を受け新たな病院運営のスタートとなり、心機一転の一年であります。結果的には、わずかではありますが赤字を計上してしまい3年連続の赤字経営となってしまうしました。しかし、将来に向けて、「三浦ならではの地域医療」の確立のための基盤づくりが少しは出来たのかなという年でもありました。

まず、整形外科の医師を一名確保できたことです。高齢者の転倒による骨折は地域ですっかり対応していきたい領域の一つですが、整形外科医が3名になることで将来的にリハビリによる予防も含め充実した対応ができることとなりました。理学療法士2名、看護師7名も新たに確保できたことも医療スタッフの当院に対する高評価の結果と考えています。また、毎年行われる神奈川県国保診療施設部会研修会（小田原）で「看護処置コスト漏れに関する実態調査」が最優秀研究発表賞を受賞したことは院内の看護教育体制の充実の現れであると思います。

病棟体制としては地域包括ケア病床を40床に増床し三浦市の地域包括ケアシステムの充実にあわせて対応しています。地域に密着した中小病院の役割として、急性期機能とともにいわゆる回復期機能も併せ持った診療体制が必要であり、平成19年の病院長就任以来求めてきた「三浦ならではの地域医療」の確立の過程と思っています。更なる急性期病床からの変換が必要になることが予測されます。

また、全ての職場の職員からなるリバイバルチームⅡを再度発足させ病院経営改善に寄与する改革を推進していくこととしました。

当院としては負担が大きいのですが、MRI装置の入れ替えも実施することができました。将来に向けての設備投資もできています。

加えて、私が今年度の救急功労者表彰総務大臣表彰を受賞したことは、三浦半島地区における救急医療体制における三浦市立病院の貢献によるものと思っています。

まだまだ、安定した病院運営とはなっていませんが、病院職員の奮闘の軌跡として一読いただければ幸いです。

三浦市立病院年報（平成 30 年度） 目次

三浦市立病院憲章

はじめに

I 病院の概況	- 1 -
1 位置	- 1 -
2 沿革	- 3 -
3 施設の概要	- 9 -
(1) 土地・建物	- 9 -
(2) 設備	- 9 -
4 配置図	- 10 -
5 現況	- 13 -
6 施設基準	- 14 -
(1) 基本診療料	- 14 -
(2) 特掲診療料	- 14 -
7 組織及び職員配置状況	- 16 -
(1) 組織図	- 16 -
(2) 職員の状況	- 17 -
II 各科の活動状況	- 18 -
1 診療部	- 18 -
(1) 医局	- 18 -
(2) 内科	- 19 -
(3) 神経内科	- 21 -
(4) 外科	- 22 -
(5) 整形外科	- 26 -
(6) 産婦人科	- 28 -
(7) 眼科	- 29 -
(8) 小児科	- 31 -
(9) 耳鼻いんこう科	- 32 -
(10) 麻酔科	- 33 -
(11) 脳神経外科	- 34 -
(12) 泌尿器科	- 35 -
(13) 皮膚科	- 36 -
(14) 研修医	- 37 -

2	診療支援部.....	- 38 -
	(1) 薬剤科.....	- 38 -
	(2) リハビリテーション科	- 41 -
	(3) 放射線科	- 46 -
	(4) 臨床検査科.....	- 49 -
	(5) 地域医療科.....	- 51 -
	(6) 医療安全管理室	- 55 -
3	看護部	- 67 -
	(1) 看護部.....	- 67 -
	(2) 2階病棟	- 70 -
	(3) 3階病棟	- 73 -
	(4) 4階病棟	- 75 -
	(5) 手術室.....	- 78 -
	(6) 外来	- 81 -
	(7) 看護教育室.....	- 84 -
4	事務局	- 94 -
	(1) 総務課.....	- 94 -
	(2) 医事課.....	- 97 -
	(3) 栄養課.....	- 99 -
Ⅲ	委員会の状況.....	- 101 -
1	三浦市立病院リスクマネジメント委員会	- 101 -
2	三浦市立病院感染対策委員会（I C C）	- 106 -
3	三浦市立病院褥瘡対策委員会.....	- 119 -
4	三浦市立病院接遇向上委員会.....	- 124 -
5	三浦市立病院N S T委員会	- 129 -
6	三浦市立病院C S 向上委員会.....	- 133 -
7	三浦市立病院糖尿病疾病管理委員会.....	- 138 -
8	三浦市立病院薬事委員会	- 143 -
9	三浦市立病院情報処理委員会.....	- 145 -
Ⅳ	経営状況.....	- 149 -
1	決算概要	- 149 -
	(1) 経常収益比較.....	- 149 -
	(2) 損益計算書.....	- 150 -
	(3) 貸借対照表.....	- 151 -
2	三浦市立病院改革プラン及び実施状況	- 153 -
3	財務分析	- 155 -

V	各種統計資料.....	- 156 -
1	入院患者数実績	- 156 -
2	外来患者数実績	- 157 -
3	救急患者数実績	- 158 -
VI	スタッフ一覧.....	- 160 -
VII	編集後記.....	- 163 -

I 病院の概況

1 位置



※神奈川県ホームページ及びわが街が！より画像転載

本市は、首都 60km 圏内にあたる三浦半島の最南端に位置し、三方を海に囲まれて気候温暖、農耕に適している。海岸線は 42.9km に及び、漁業のみならず、海洋レクリエーションなども盛んである。城ヶ島を天然護岸とし、昔から遠洋、近海及び沿岸漁業の基地として発展した全国的に有名な三崎漁港を有している。

市域面積	東西	南北	北緯	東経
32.16 k m ²	6.8 k m	9.4 k m	35° 08' 27"	139° 37' 24"



病院屋上からの景色

2 沿革

昭和26年（1951年）	三崎町町議会にて、三崎町立国民健康保険病院の開設を議する
昭和26年（1951年）12月	初代院長 継 茂 就任
昭和27年（1952年）1月	旧三崎町立伝染病院「南岬院」の建物を診療管理棟に増改築、病棟（30床）新築工事着工
昭和27年（1952年）6月	『三崎町国民健康保険直営病院』開設 内科・外科・産婦人科・眼科4科
昭和28年（1953年）2月	第2病棟（28床）看護婦宿舎（15人）医師住宅（5戸）新築工事着工
昭和30年（1955年）1月	『三浦市国民健康保険直営病院』と改称
昭和32年（1957年）2月	第3病棟（35床）伝染病棟（27床）医師住宅（3戸）新築第1・第2病棟、看護婦宿舎増改築工事着工
昭和32年（1957年）10月	小児科新設 5科
昭和38年（1963年）5月	基準寝具制度の実施
昭和38年（1963年）9月	整形外科新設 6科
昭和39年（1964年）4月	『国民健康保険三浦市立病院』と改称
昭和39年（1964年）10月	診療管理棟（鉄筋コンクリート地下1階、地上3階）新築工事着工
昭和40年（1965年）8月	診療管理棟完成（完成後の病床数 一般65床、結核18床、伝染病27床、計110床）
昭和41年（1966年）6月	国民健康保険三浦市立病院運営委員会設置
昭和42年（1967年）4月	『三浦市立病院』と改称 地方公営企業法の財務規程を適用
昭和42年（1967年）9月1日	未熟児指定養育医療機関となる
昭和43年（1968年）10月	第2次整備事業として、病棟（地下1階、地上3階150床）伝染病隔離病舎（27床）看護婦宿舎（32人）医師住宅3棟（10戸）新築工事着工
昭和44年（1969年）10月	病棟・伝染病隔離病舎完成（完成後の病床数 一般136床、結核14床、伝染病27床、計177床）
昭和45年（1970年）3月	看護婦宿舎、医師住宅完成
昭和47年（1972年）3月	初代院長 継 茂 退職
昭和47年（1972年）4月	初代院長 継 茂 名誉院長に就任

	2代院長 丸山 理一 就任
昭和47年（1972年） 6 月	病院開設 20 周年記念行事実施
昭和49年（1972年）	石油ショックによる人件費・材料費高騰、医療費改定の幅が小さく、赤字増大する
昭和50年（1975年） 6 月20日	三浦市救急医療体制「三浦方式」が発足し、当番制実施
昭和54年（1979年）	病院事業経営健全化開始（5 か年継続事業） 不良債務 3 億 7,150 万円の解消をはかる
昭和55年（1980年） 7 月29日	救急指定病院 認可される
昭和55年（1980年）12月 1 日	基準看護特 2 類 承認される（保険第 3062 号）
昭和56年（1981年） 4 月 1 日	耳鼻いんこう科新設 7 科
昭和56年（1981年） 5 月 1 日	総合病院の認可（神奈川県指令医整第 70 号）
昭和57年（1982年） 4 月 1 日	三浦半島広域病院群輪番制開始
昭和57年（1982年） 6 月	開設 30 周年となる
昭和59年（1984年） 3 月	病院事業経営健全化終了（5 か年継続事業）
昭和59年（1984年） 9 月 3 日	病院売店オープン
昭和60年（1985年） 9 月	全身用 C. T. 設置される
昭和62年（1987年） 3 月31日	名誉院長 継 茂 退任
昭和62年（1987年） 7 月 1 日	三浦市立病院運営審議会設置
昭和62年（1987年）10月19日	三浦市立病院運営審議会へ諮問「三浦市立病院の将来のあり方について」
昭和63年（1988年） 3 月31日	2代院長 丸山 理一 退任
昭和63年（1988年） 4 月 1 日	3代院長 五十嵐 捷介 就任
昭和63年（1988年） 7 月	病棟に冷暖房機器整備される。
平成元年（1989年） 3 月29日	三浦市立病院運営審議会より「三浦市立病院の将来のあり方について」中間のまとめが報告される
平成元年（1989年） 4 月 1 日	坂本理事就任
平成元年（1989年）11月17日	病院の経営診断を実施し、経営診断等結果報告書及び経営改善事業計画策定に関する報告書が完了
平成 2 年（1990年） 1 月 8 日	院内に病院改善推進委員会を設置
平成 2 年（1990年） 2 月23日	三浦市立病院運営審議会より「三浦市立病院の将来のあり方について」答申される
平成 2 年（1990年） 4 月 1 日	二次診療までを主体に救急 24 時間 365 日応需体制を開始する
平成 2 年（1990年） 5 月25日	三浦市立病院運営審議会へ再諮問 「三浦市立病院の経営改善の進行について意見を伺う」
平成 3 年（1991年） 8 月19日	三浦市立病院運営審議会より、「三浦市立病院の経営改

	善の進行について意見を伺う」中間のまとめが報告される
平成4年（1992年）2月29日	病院の再整備計画を実施し、三浦市立病院再整備計画策定業務に関する報告書が完了
平成4年（1992年）3月31日	看護婦宿舎1棟（6戸）完成
平成5年（1993年）3月31日	三浦市立病院運営審議会より、「三浦市立病院の経営改善の進行について意見を伺う」答申される
平成5年（1993年）12月2日	三浦市立病院運営審議会へ諮問 1 新病院建設までの間における、当面の現施設のリニューアル及び効率的な病院運営について意見を伺う 2 新病院建設に向けてのプロセスについて意見を伺う（保健・福祉との連携、新病院建設場所の選定も含む） 3 日常の病院経営・病院運営について審議会より常時建議して頂く
平成7年（1995年）3月10日	付属棟完成
平成7年（1995年）3月23日	坂本理事退職
平成7年（1995年）7月21日	小児科外来を診療管理棟3階旧会議室に移転
平成7年（1995年）8月25日	診療管理棟2階旧小児科に内科救急診療室及び内視鏡室新設
平成7年（1995年）11月29日	三浦市立病院運営審議会より、平成5年12月2日付諮問に対する中間のまとめが報告される
平成8年（1996年）3月6日	病院敷地内に三浦藤沢信用金庫現金自動設備及び附帯施設の整備
平成8年（1996年）4月1日	神経内科新設 8科
平成8年（1996年）12月2日	病院へ京浜急行バスの運行
平成9年（1997年）12月5日	CT更新
平成9年（1997年）3月31日	3代院長 五十嵐 捷介 退任
平成9年（1997年）4月1日	4代院長 佐藤 實 就任
平成9年（1997年）4月	整形外科・午後予約診療開始
平成9年（1997年）6月	内科外来・膠原病の午後外来開始
平成9年（1997年）7月	救急24時間365日応需体制の一部委託化（預り金制度廃止）
平成9年（1997年）9月	薬局薬袋氏名のラベル化導入
平成9年（1997年）12月	会計処理のシステム化（ポスシステム導入）
平成10年（1998年）2月10日	三浦市立病院運営審議会より、「新病院建設に向けてのプロセスについて意見を伺う」答申される

平成10年（1998年） 3 月	適時適温給食の開始
平成10年（1998年） 3 月31 日	4 代院長 佐藤 實 退任
平成10年（1998年） 4 月 1 日	5 代院長 大塚 尚之 就任
平成10年（1998年） 6 月 1 日	新看護 2.5：1（A）看補 6：1 採用
平成10年（1998年） 8 月14 日	耐震診断調査委託実施
平成10年（1998年） 10月23 日	病院建替えに係る基本調査委託実施
平成11年（1999年） 2 月 1 日	新看護 2：1（A）採用
平成11年（1999年） 6 月	消化器、肝臓病の午後外来診療開始
平成11年（1999年） 8 月	ペースメーカー移植術
平成11年（1999年） 12月	内科外来予約診療開始
平成12年（2000年） 3 月	三浦市立病院基本計画策定
平成12年（2000年） 4 月	医療相談室設置
平成12年（2000年） 5 月	検体・検査管理加算（1）認可（検 1）第 86 号
平成12年（2000年） 7 月	S P D（診療材料）システム導入
平成12年（2000年） 11月	インフルエンザ予防接種出張接種（施設）
平成13年（2001年） 3 月	院外処方箋発行へ移行（全科）
平成13年（2001年） 5 月	内科に第 5 診療室を設置
平成14年（2002年） 3 月	第 1 病棟休止
平成14年（2002年） 5 月	ウィン号マイクロ無料送迎バスの運行開始
平成14年（2002年） 7 月	人間ドック無料送迎サービスの運行開始
平成14年（2002年） 9 月	新病院（地下 1 階、地上 4 階）新築工事着工
平成15年（2003年） 3 月31 日	5 代院長 大塚 尚之 退任
平成15年（2003年） 4 月 1 日	6 代院長 五十嵐 俊久 就任
平成15年（2003年） 5 月	小児救急試行開始
平成16年（2004年） 3 月17 日	新病院開院（免震構造、病床数 136 床） オーダーリング・システム導入
平成16年（2004年） 4 月 1 日	リハビリテーション科新設 9 科
平成16年（2004年） 8 月16 日	運営懇話会 発足
平成16年（2004年） 9 月30 日	新病院完成（地上 4 階地下 1 階、免震構造、病床数 136 床、駐車場 約 170 台分）
平成17年（2005年） 2 月22 日	ドクターヘリ・シミュレーション実施
平成17年（2005年） 4 月 1 日	麻酔科新設 10 科
平成17年（2005年） 8 月25 日	経営懇話会 発足
平成19年（2007年） 3 月31 日	6 代院長 五十嵐 俊久 退任
平成19年（2007年） 4 月 1 日	7 代院長 小澤 幸弘 就任
平成20年（2008年） 4 月 1 日	病院給食業務の民間委託開始

平成20年（2008年）10月1日	脳神経外科新設 11 科
平成21年（2009年）3月	三浦市立病院改革プラン策定
平成21年（2009年）3月1日	SPD システム業務委託開始
平成22年（2010年）4月1日	地方公営企業法全部適用 総病院長（病院事業管理者） 小澤 幸弘 就任
平成22年（2010年）4月	地域医療科設置
平成22年（2010年）5月	訪問診療開始
平成23年（2011年）7月	皮膚科新設 12 科
平成23年（2011年）7月	泌尿器科新設 13 科
平成24年（2012年）1月	来院者駐車場用地の貸付開始
平成25年（2013年）9月	介護保険指定居宅サービス事業者及び指定介護予防サービス事業者の指定訪問リハビリテーション開始
平成25年（2013年）10月	入院患者対象土曜リハビリテーション開始
平成25年（2013年）10月1日	16 列型マルチスライスCTへ更新
平成26年（2014年）1月13日	電子カルテシステム導入
平成26年（2014年）3月15日	「在宅看取りを考える」シンポジウム開催
平成26年（2014年）4月1日	医療安全管理室設置
平成26年（2014年）6月22日	レスパイト健診開始
平成26年（2014年）9月1日	地域包括ケア病棟 24 床開始
平成27年（2015年）1月1日	横須賀共済病院、衣笠病院、聖ヨゼフ及び三浦市立病院による四病院連携会議発足
平成27年（2015年）3月7日	「在宅療養を考える集い」シンポジウム開催
平成27年（2015年）3月27日	タブレット端末により、院外にあって電子カルテシステムにアクセスする訪問診療等電子カルテ参照・記入システム導入
平成27年（2015年）10月4日	三浦市民健康大学を 12 月まで開催
平成28年（2016年）3月5日	「在宅療養を考えるつどい～地域で支える在宅療養を考える～」シンポジウム開催
平成28年（2016年）3月10日	地域包括医療・ケア認定施設の認定
平成28年（2016年）3月20日	三浦市民健康大学オープンキャンパス開催
平成28年（2016年）3月27日	奈良県西和医療センターとの病院相互連携に関する包括協定締結
平成28年（2016年）3月31日	デジタルラジオグラフィーへ更新
平成28年（2016年）3月31日	総務省が作成する「公立病院経営改革事例集」に当院の事例が掲載
平成28年（2016年）4月1日	地域包括ケア病棟 28 床へ増床

平成28年（2016年） 7 月 1 日	三浦市派遣型救急ワークステーション開始
平成28年（2016年） 9 月30日	災害資機材倉庫設置
平成28年（2016年）10月	小児を対象とした外来リハビリテーション開始
平成28年（2016年）10月23日	三浦市民健康大学オープンキャンパス開催
平成28年（2016年）11月 1 日	「みうらホームケアネット」供用開始
平成29年（2017年） 4 月	三浦市立病院運営懇話会発足
平成29年（2017年） 6 月 1 日	健康未来予想図～ブライダルチェック～開始
平成29年（2017年）10月	三浦市立病院改革プラン策定
平成30年（2018年） 4 月	地域包括ケア病床 40 床へ増床
平成30年（2018年） 6 月	ハートフルマーケット開始
平成30年（2018年） 6 月	リバイバルチームⅡ活動開始
平成31年（2019年） 3 月29日	1.5 テスラMR I へ更新
平成31年（2019年） 3 月29日	X線骨密度測定装置導入

3 施設の概要

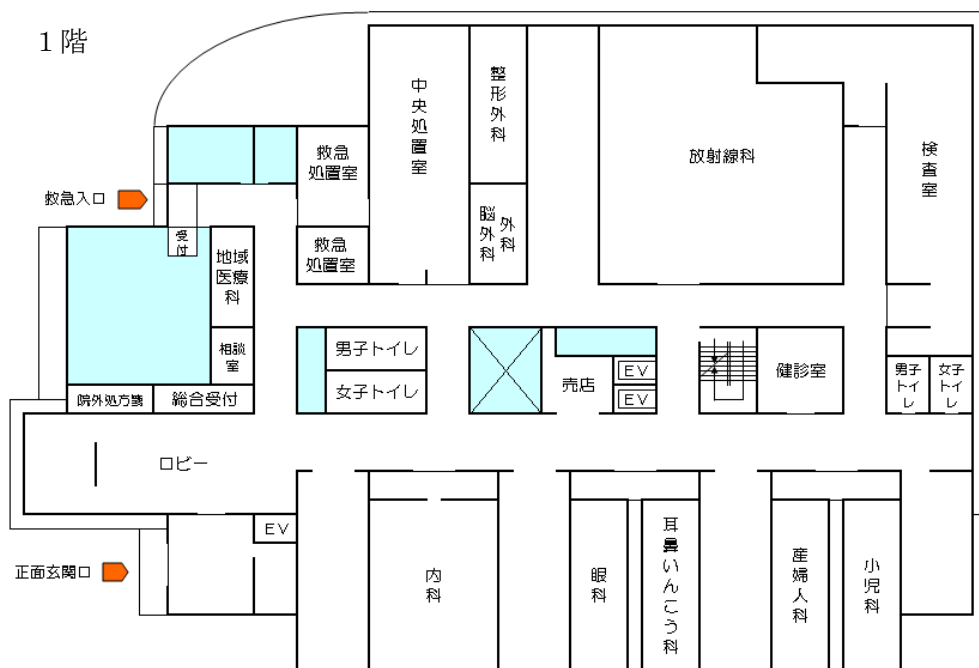
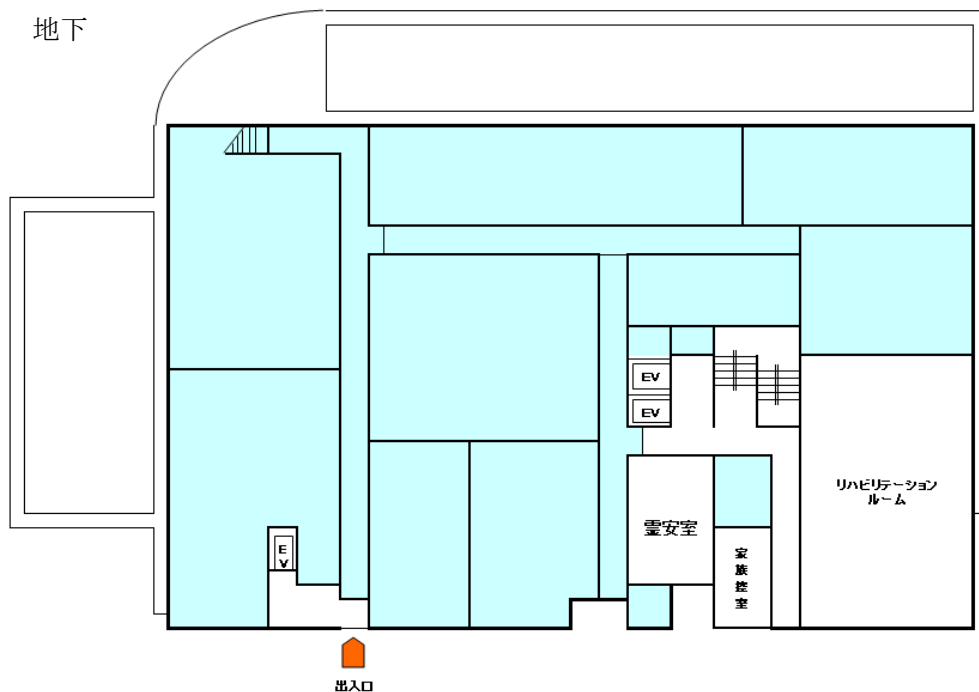
(1) 土地・建物

＜土地＞	13,756.53 m ²
＜建物＞	3,080.96 m ²
病院（地下1階、地上4階、免震構造）	2,870.32 m ²
キャノピー（1）	92.89 m ²
キャノピー（2）	12.98 m ²
ブロー室（地上1階）	15.91 m ²
マニホールド室（地上1階、空気機械室）	18.80 m ²
付属棟（地上2階、作業室、図書室）	70.06 m ²

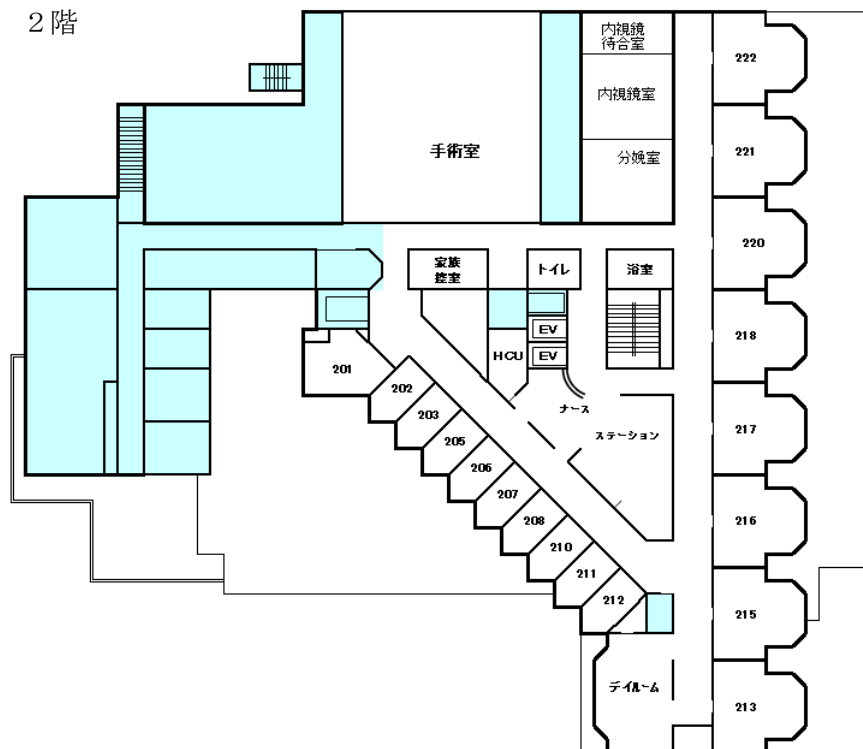
(2) 設備

＜電気設備＞	845KW 受電、負荷容量 2,000KVA
＜蓄電池設備＞	10 分間蓄電池
＜無停電設備＞	瞬断バックアップ方式（手術室、HCU、乳児室）
＜弱電設備＞	インターホン、ナースコール、ITV 設備、TV 共聴設備電気時計設備、院内 LAN
＜電話設備＞	蓄積プログラム方式、一般内線 162 台、院内 PHS72 台、ナースコール対応 PHS12 台
＜自家用発電機＞	自動始動発電機、開放保護形自己通風三相交流発電機 500 KVA カスタムエンジン発動機、単純開放サイクル軸式、自己空冷式、灯油、燃料、燃料オイルタンク 30,000ℓ
＜消火設備＞	消火器設備 10 型 40 箇所、20 型 6 箇所、スプリンクラー設備、特殊消火設備電気室、発電機室、ボイラー室
＜医療ガス設備＞	酸素、笑気、窒素、圧縮空気、吸引、余剰ガス排出
＜昇降機設備＞	5 基（寝台用 3 基、乗用 1 基、配膳・荷物用 1 基）
＜給水設備＞	上水入水槽 55 m ³ 、雑用水入水槽 144 m ³ 、緊急用浄水ろ過装置
＜自動火災報知設備＞	自動火災報知設備、防火扉閉鎖設備、ガス漏れ警報設備
＜空調設備＞	冷暖房、水熱源ヒートポンプシステム（補助熱源貫流ボイラー） ファンコイルユニット 188 基、パッケージ方式 55 基
＜消毒設備＞	オートクレーブ 2 基、簡易滅菌装置 3 基
＜給排水衛生設備＞	給水設備、給湯設備、浄化槽設備
＜免震設備＞	南関東地震対応、国土交通大臣認定 鋼材型ダンパー 3 基・鉛ダンパー 6 基・オイルダンパー 12 基

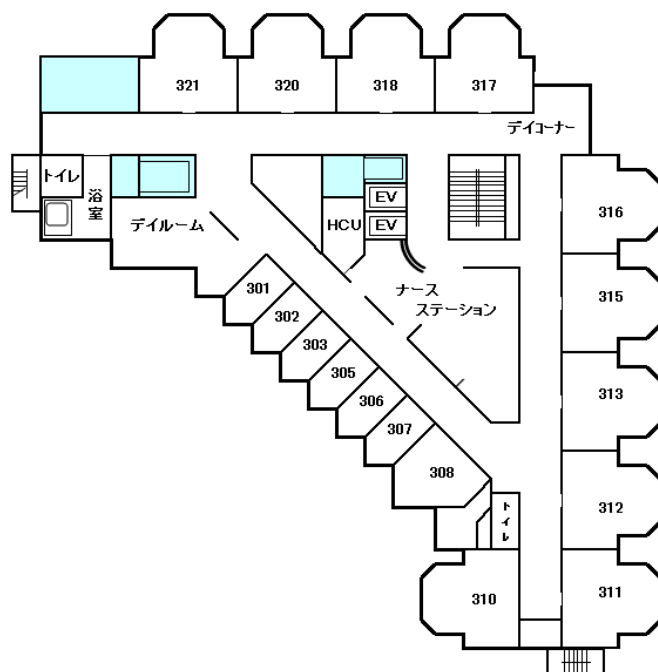
4 配置図

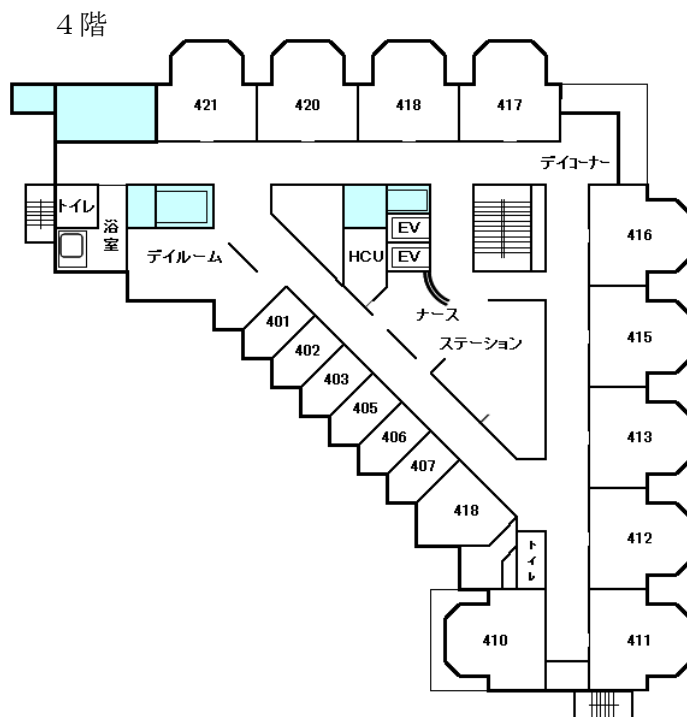


2階



3階





5 現況

施 設 名	三浦市立病院
開 設 者	三浦市長 吉田 英男
管 理 者	総病院長 小澤 幸弘
所 在 地	神奈川県三浦市岬陽町4番33号
開 設 年 月 日	昭和27年6月4日
診 療 科 目	13科（内科、神経内科、外科、整形外科、産婦人科、眼科、小児科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、麻酔科、脳神経外科、泌尿器科、皮膚科）
病 床 数	一般病床 136 床
地方公営企業法全部適用	平成22年4月1日
敷 地 面 積	13,756.53 m ²
建 物 面 積	建築面積 3,080.96 m ² 延べ床面積 9,392.75 m ² （附属棟 136.08 m ² 含む）
指 定 等	保険医療機関、生活保護法指定医療機関、感染症法指定、労災指定、船員保険法指定、救急告示病院、身体障害者福祉法指定医、母体保護法指定医等

6 施設基準

平成 31 年 3 月 31 日現在

(1) 基本診療料

機能強化加算
急性期一般入院基本料 5
急性期看護補助体制加算 (50 対 1)
一般病棟看護必要度評価加算 2
救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算
診療録管理体制加算 2
医師事務作業補助体制加算 2 (75 対 1)
療養環境加算
退院支援加算 1
地域包括ケア病棟入院医療管理料 I
データ提出加算 1
感染防止対策加算 (1)
感染防止対策地域連携加算
患者サポート体制充実加算
医療安全対策加算 1
地域加算 6 級地
病棟薬剤業務実施加算
A D L 維持向上等体制加算
認知症ケア加算 2

(2) 特掲診療料

がん性疼痛緩和指導管理料
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
H P V 核酸検出及び H P V 核酸検出 (簡易ジェノアタイプ判定)
検体検査管理体制加算 (II)
無菌製剤処理料
脳血管疾患等リハビリテーション料 (II)
運動器リハビリテーション料 (I)
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術
輸血管理料 2
輸血適正使用加算

在宅療養支援病院（「第 14 の 2」の 1 の（1）に規定する在宅療養支援病院
〔機能強化〕）

在宅時医学総合管理料及び特定施設入居時等医学総合管理料

在宅がん医療総合診療料

病院勤務医の負担の軽減及び処遇の改善に対する体制

遠隔画像診断

糖尿病合併症管理料

がん患者指導管理料 1

外来リハビリテーション診療料

夜間休日救急搬送医学管理料

院内トリアージ実施料

C T 撮影及びMR I 撮影（C T 16 列：MR I 1.5 テスラ）

人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算

在宅患者訪問看護・指導料

在宅緩和ケア充実加算

同一建物居住者訪問看護・指導料

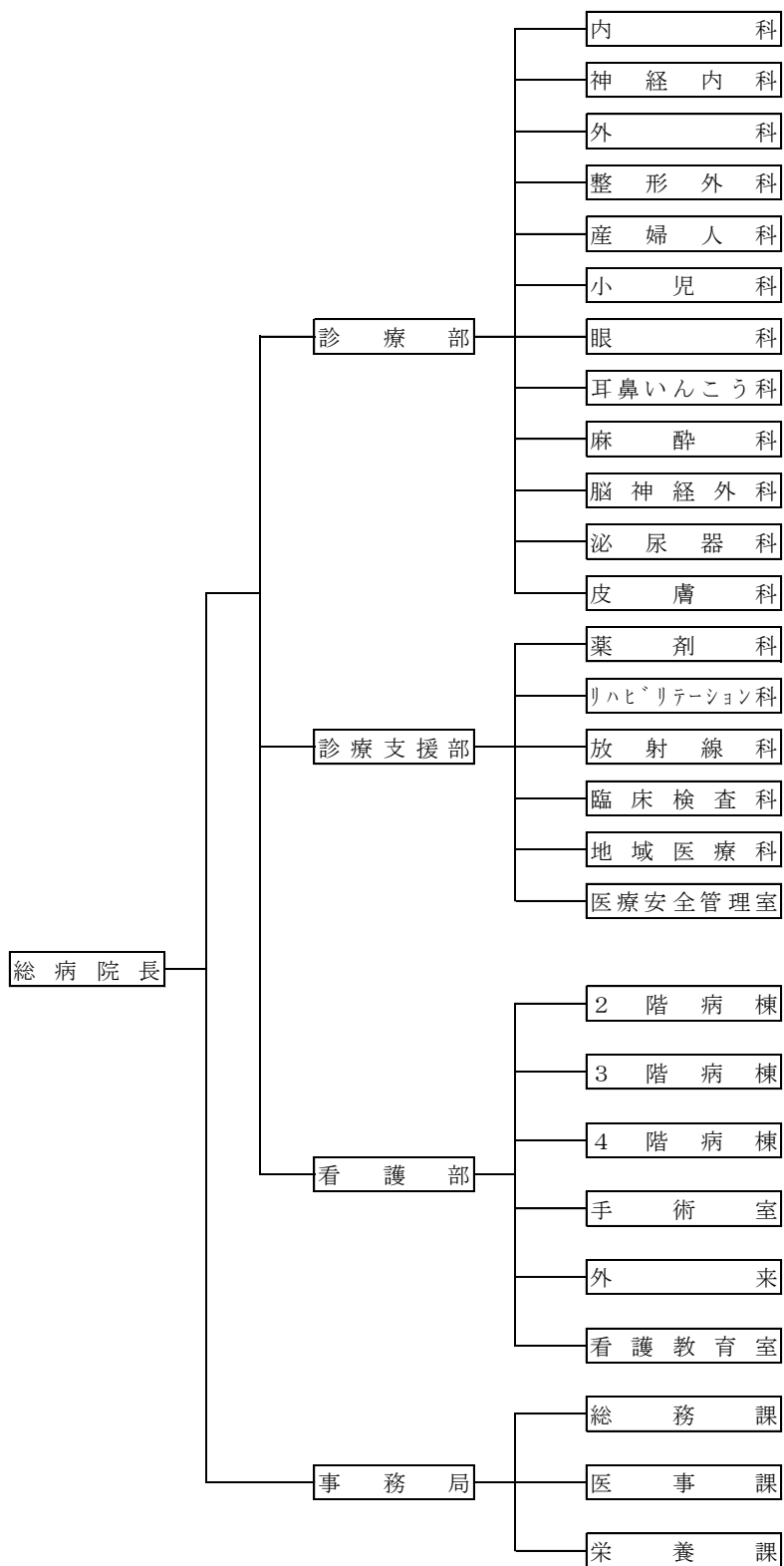
胃瘻造設術

造血器腫瘍遺伝子検査

廃用症候群リハビリテーション料（Ⅱ）

7 組織及び職員配置状況

(1) 組織図



(2) 職員の状況

(単位：人)

職 名	平成 29 年 3 月 31 日 現 在 職 員 数	平成 30 年 3 月 31 日 現 在 職 員 数	平成 31 年 3 月 31 日 現 在 職 員 数
管 理 者	1	1	1
医 師	14	14	15
看 護 師 准 看 護 師	78	79	76
医 療 技 術 員	(1) 30	(0) 29	(0) 31
事 務 員	9	10	10
そ の 他	(1) 0	(0) 0	(0) 0
計	(1) 132	(0) 133	(0) 133

() は、外書きで、再任用短時間勤務職員

Ⅱ 各科の活動状況

1 診療部

(1) 医局



診療部長 木谷 勇一

○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

医局内の人事異動は、平成 31 年 3 月より当院呼吸器内科非常勤職員の井上哲兵先生が内科常勤として赴任していただけるようになった。また、内科兒玉康史先生と地域医療科兒玉末先生が平成 31 年 3 月に退職となった。

(2) 年代別医局構成員

区分	H26	H27	H28	H29	H30
内科	齊藤 真	齊藤 真	齊藤 真	齊藤 真	齊藤 真
	来田 亮二	兒玉 康史	兒玉 康史	兒玉 康史	兒玉 康史
	兒玉 康史	堀内 俊治	堀内 俊治	堀内 俊治	堀内 俊治
	堀内 俊治	森 琢磨	森 琢磨	森 琢磨	森 琢磨
	森 琢磨				井上 哲兵
(地域医療科)	兒玉 末	兒玉 末	兒玉 末	兒玉 末	兒玉 末
			林 路子	林 路子	
外科	木谷 勇一	木谷 勇一	木谷 勇一	木谷 勇一	木谷 勇一
	佐々木 一嘉	和田 博雄	和田 博雄	和田 博雄	和田 博雄
	和田 博雄	川邊 泰一	川邊 泰一	渥美 陽介	村川 正明
整形外科	内川 健	内川 健	内川 健	内川 健	内川 健
	石田 良太	石田 良太	石田 良太	石田 良太	石田 良太
					堀口 元
小児科	五味渕 一三	五味渕 一三	五味渕 一三	五味渕 一三	五味渕 一三
眼科	望月 至	望月 至	望月 至	望月 至	望月 至
産婦人科	大庭 信彰	大庭 信彰	大庭 信彰	大庭 信彰	大庭 信彰
麻酔科	欠	欠	欠	欠	欠

(2) 内科



医長 齊藤 真

○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

ア 外来診療

午前は新患及び予約のない再診外来と予約一般外来を行っている。午後の外来は主に専門医による専門外来を行っている。平成 30 年度は引き続き循環器外来、呼吸器外来、糖尿病外来及び健診結果外来を設け診療にあたった。

イ 入院患者の疾患分類

平成 30 年度の入院患者数は前年度に比べ増加した。当院の特徴として、入院患者の半数以上が高齢者であるため、肺炎の入院頻度が他の地域と比べて極端に多くなっている。

(2) 業務実績

ア 外来業務

(ア) 業務実績

平成 30 年度は平成 29 年度に比べ外来患者数が減少した。今後も専門外来に力を入れ、様々な疾患に対応していきたい。

(イ) 外来患者数

(単位：人)

区分	平成 29 年度	平成 30 年度
外来	31,338	30,761

イ 入院患者

(ア) 業務実績

平成 30 年度は平成 29 年度と比べ入院患者数が増加した。肺炎の入院頻度が他の地域と比べて極端に多いので、疾患分類に対応した診療をしていきたい。

(イ) 入院患者

(単位：人)

区分	平成 29 年度	平成 30 年度
入院	21, 229	21, 838

(3) 神経内科



○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

当院では毎週月曜・火曜・木曜・金曜日の午後に横浜市立大学の応援を得て、パーキンソン病、脳血管疾患及び神経難病の患者の診療にあたっている。

(2) 業務実績

ア 外来業務

平成 30 年度の外来患者数は 1,606 人、平成 29 年度の外来患者数は 1,609 人、平成 28 年度は 1,772 人であった。

イ 外来患者数

(単位：人)

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
外来	1,772	1,609	1,606

(4) 外科



診療部長 木谷 勇一

○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

平成 30 年度は 5 月に下部消化管を得意とする渥美陽介医師が退職された。6 月に肝胆脾を得意とする村川正明医師が入職された。その他は和田外科医師と私（木谷勇一）の 3 人体制で診療を行った。今年度は腹腔鏡下結腸切除の導入を開始した。また、看護師との意志疎通を緊密にするため、外科カンファを開始した。

(2) 業務実績

ア 年度別外科手術件数

(単位：件)

区分	術式	平成 28 年 度	平成 29 年 度	平成 30 年 度
甲状腺	甲状腺切除	0	0	0
	甲状腺切除＋頸部リンパ節廓清	0	0	0
	頸部リンパ節廓清	0	0	0
乳腺	B t＋Ax	4	5	5
	B p＋Ax	3	0	0
	B p	1	0	1
	B t	1	1	3
肺	開胸肺葉切除	0	0	0
	開胸肺部分切除	0	0	0
	開胸ブラ切除	0	0	0
	胸腔鏡下肺部分切除	0	0	0
	胸腔鏡下ブラ切除	0	0	0

(単位：件)

区分	術式	平成 28 年 度	平成 29 年 度	平成 30 年 度
食道	胸部食道切除術	0	0	0
	食道バイパス術	0	0	0
	アカラシア手術	0	0	0
胸壁	胸壁腫瘍摘出術	0	0	0
胃	幽門側胃切除	4	3	5
	胃全摘術	1	3	2
	単開腹	1	0	0
	残胃全摘	1	0	0
	胃空腸吻合	1	0	0
	局所切除	0	0	1
	腹腔鏡審査	0	0	1
	腹腔鏡下胃部分切除	0	1	0
	N i s s e n 噴門形成術	0	0	0
十二指腸	穿孔部閉鎖、大網被覆	0	0	0
	N i s s e n 噴門形成術	0	1	1
肝臓	経皮ラジオ波焼灼術	0	1	0
	開腹ラジオ波焼灼術	0	0	0
	区域切除	0	0	0
	葉切除	0	1	0
	部分切除	1	0	0
	腹腔鏡下肝嚢胞開窓術	0	0	0
胆管	総胆管切除	0	0	0
	肝管空腸吻合術	0	0	0
	腹腔鏡下胆嚢摘出術	5	6	11
	開腹胆嚢摘出術	5	4	1
	総胆管結石採石術	2	0	2
膵	幽門輪温存膵頭十二指腸切除術	0	0	0
	膵体尾部切除	0	0	0
小腸	イレウス解除術	2	1	1
	開腹小腸部分切除	1	4	2
	腹腔鏡下小腸切除	0	0	1

(単位：件)

区分	術式	平成 28 年 度	平成 29 年 度	平成 30 年 度
結腸	腸吻合・腸縫合	0	0	1
	開腹結腸切除	15	15	12
	腹腔補助下結腸切除	0	0	3
	開腹人工肛門造設	3	1	3
	人工肛門閉鎖術	1	2	1
虫垂	開腹虫垂切除	15	4	1
	腹腔鏡下虫垂切除	0	0	1
直腸	高位前方切除	2	1	1
	低位前方切除	4	1	2
	腹腔鏡下低位前方切除	0	0	2
	直腸切断術	1	3	0
	ハルトマン手術	0	0	1
	経肛門的直腸局所切除	0	5	2
	G a n t－三輪法	0	1	0
	痔核根治術	0	0	0
ドレナージ	開腹ドレナージ	0	0	0
	腹腔鏡下ドレナージ	0	0	1
ヘルニア	そけいヘルニア根治術	23	18	11
	大腿ヘルニア根治術	2	0	1
	腹腔鏡下ヘルニア修復術	0	0	0
	小児そけいヘルニア根治術	0	0	1
	臍ヘルニア根治術	0	0	1
	腹壁癒痕ヘルニア根治術	1	0	1
	横隔膜ヘルニア	0	0	1
	閉鎖孔ヘルニア根治術	0	2	0
体表	植皮	1	1	0
	C Vポート	21	24	29
	C Vポート抜去	0	0	4
	リンパ節生検	0	0	2
	皮下腫瘍	4	3	1
その他	その他	3	3	3

イ 年度別外科インターベンション数

(単位：件)

区分	術式	平成 28 年 度	平成 29 年 度	平成 30 年 度
EMR	食道癌	0	0	0
	胃癌	2	4	4
	大腸癌	5	7	1
ステント	食道ステント	2	2	3
	十二指腸ステント	3	5	1
	大腸ステント	3	9	3
	胆道ステント	3	1	1
経皮経肝ドレナージ	P T C D	3	4	1
	P T G B D	2	0	0
	P T A D	0	0	0
	P T C S	0	0	1
	経皮経肝乳頭ブジー	0	0	1
	肝嚢胞ドレナージ	0	0	0
血管造影	腹部血管造影	0	0	0
	T A C E	0	0	0
	T I A	0	0	1
	血管内異物摘出術	0	0	1
食道静脈瘤	E V L	1	0	1
	硬化療法	1	0	0
ブジー	G F バルーンブジー	0	5	2
	C F バルーンブジー	3	2	0
その他内視鏡的 治療	P E G	7	7	6
	G F 止血術	2	0	1
	G F A P C 焼灼術	1	0	0
	G F エタノール注入	0	0	0
	G F 異物除去	1	4	1
	C F 異物除去	0	0	0
	C F S 状結腸捻転解除	0	1	2
	E R C P / E S T	0	0	0

(5) 整形外科



科部長 内川 健

○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

三浦市立病院整形外科は 4 月より上肢外傷を得意とする堀口医師が入職された。そのため医師 3 名にて外来診療、病棟業務、救急対応及び手術を行っている。ひとつひとつのことを丁寧に確実に誠意をもって診療にあたりたいと考えている。

(2) 業務実績

ア 手術実績

(単位：件)

区分	計
難治性骨折超音波治療法（一連につき）	2
骨折観血の手術（下腿）	6
骨折観血の手術（下腿）	1
骨折観血の手術（大腿）	51
骨折観血の手術（大腿）	1
骨折観血の手術（前腕）	5
骨折観血の手術（上腕）	3
骨折観血の手術（足）	2
骨折非観血の整復術（前腕）	17
(幼)骨折非観血の整復術（前腕）	1
(休)骨折非観血の整復術（前腕）	1
(深)骨折非観血の整復術（前腕）	1
関節脱臼非観血の整復術（肩）	5
(時)関節脱臼非観血の整復術（肩）	2
関節脱臼非観血の整復術（肘）	2
(幼)関節脱臼非観血の整復術（小児肘内障）	1
(幼)関節脱臼非観血の整復術（小児肘内障）	3
(幼)(時)関節脱臼非観血の整復術（小児肘内障）	2
(幼)(休)関節脱臼非観血の整復術（小児肘内障）	1

(単位：件)

区分	計
(幼)(深)関節脱臼非観血的整復術（小児肘内障）	1
関節脱臼非観血的整復術（指・手）	1
腱縫合術（指）	1
腱縫合術（指）	1
鋼線等による直達牽引	1
難治性骨折電磁波電気治療法（一連につき）	1
足底異物摘出術	1
骨内異物（挿入物）除去術（大腿）	1
骨内異物（挿入物）除去術（前腕）	1
骨内異物（挿入物）除去術（下腿）	4
骨内異物（挿入物）除去術（膝蓋骨）	2
関節滑膜切除術（指・手）	1
腱鞘切開術（指）	3
骨折非観血的整復術（鎖骨）	2
骨折非観血的整復術（手）	4
骨折非観血的整復術（足，その他）	2
関節内骨折観血的手術（肘）	1
関節内骨折観血的手術（手）	1
関節内骨折観血的手術（足）	2
関節内骨折観血的手術（指・手）	1
人工骨頭挿入術（股）	16
人工関節置換術（膝）	11
靱帯断裂縫合術（その他の靱帯）	1
骨折経皮的鋼線刺入固定術（指（手，足））	1
腱縫合術（切創等の創傷により）	1
関節鏡下手根管開放手術	1
腱鞘切開術	1

イ 患者数実績

(単位：人)

区分	一日平均患者数	合計
外来患者数	86	21,037
入院患者数	38	13,975

(6) 産婦人科



科部長 大庭 信彰

○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

ア 外来診療

平日午前中は新患・一般外来・ドック検診を行っている。火曜・金曜日の午後は三浦市のがん検診を、それ以外の曜日の午後は婦人科予約患者の診療を行っている。当院は原則として土曜は休診であるが、毎月第 2 土曜日は婦人科外来で三浦市の子宮がん検診とドック検診を行っている。

イ 婦人科外来休診日

年間 12～14 回の市役所合同庁舎など市内各所を会場にして行われる集団健診や、介護施設入居者の健診、流行シーズン到来前の成人ワクチン接種は当科医師が担当して行っている。したがってこれらの日は婦人科外来を休診としている。

(2) 業務実績

ア 子宮がん検診業務

(ア) 業務実績

平成 30 年度の子宮がん検査受診者は 754 人であった。平成 29 年の 760 人より少なかった。

(イ) 分類

(単位：人)

区分	受診者
一般	332
市がん	359
ドック	63
合計	754

(7) 眼科



医師 望月 至

○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

ア 外来診療

平成 28 年 2 月より不在であった視能訓練士が 5 月より勤務。その結果外来診療での検査項目及び内容が向上した。

イ 手術

白内障手術が主体である。睫毛乱生症に対する睫毛電気分解術を開始した。睫毛乱生症の根治が期待できるようになった。

(2) 業務実績

ア 外来業務

(ア) 外来・入院患者数

外来患者数は減少しているが、入院患者数は増加している。昨年同様、待ち時間を減らすことが、今後の課題である。

(イ) 入院・外来患者数

(単位：人)

区分	平成 29 年度	平成 30 年度
外来	5,806	5,679
入院	152	183

イ 手術業務

(ア) 白内障手術件数

手術件数は増加傾向である。理昨年同様、待ち時間を減らし、白内障手術希望者を獲得する事が、今後の課題である。

(イ) 手術件数

(単位：件)

区分	平成 29 年度	平成 30 年度
白内障手術	400	457
その他	4	5
合計	404	462

(8) 小児科



科部長 五味渕 一三

○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

ア 外来業務

平成 24 年 4 月、小児科常勤医として、五味渕が着任。今までの診療体制を引き継ぎ、午前中は一般外来、午後は予約外来として、月曜日及び木曜日はぜんそく外来、火曜日及び水曜日は予防接種外来を行っている。また、行政機関の依頼による結核接触者健診並びに福島県外避難者県民健康管理調査も受諾している。

イ 地域との連携

現在、常勤医 1 名であり、小児の入院受入れは行っていないため、周辺の医療施設との連携が必須となる。そこで、市内の医院からの患者紹介を受け、そこで入院適応のある場合には、横須賀市立市民病院、横須賀市立うわまち病院、神奈川県立こども医療センター、横浜市立大学付属病院などに紹介するようにしている。

(2) 業務実績

ア 院外活動

院外活動として、三浦市の児童虐待対策や乳児健診などにも携わっている。特に児童虐待対策については、神奈川県、鎌倉保健福祉事務所三崎センター、三浦市の児童虐待対策会議に参加している。児童虐待対策は、早期発見が重要な社会的な課題であるため、今後は地域で児童虐待対策チームなどを立ち上げ、活動していく必要性を感じている。

(9) 耳鼻いんこう科



○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

当院では、毎週月曜・火曜・水曜・木曜日の午後に横浜市立大学及び横須賀共済病院の応援を得て、耳鼻いんこう科外来を実施している。

(2) 業務実績

ア 外来業務

外来患者数は、平成 28 年度は 3,175 人、平成 29 年度の外来患者数は 2,922 人、平成 30 年度は 3,225 人であった。平成 29 年度から平成 30 年度にかけて外来患者数は減少した。

イ 外来患者数

(単位：人)

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
外来	3,175	2,922	3,225

(10) 麻酔科



○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

当院では、毎週月曜・火曜・金曜日の午後に横須賀共済病院及び横浜南共済病院の応援を得て、麻酔科を実施している。手術前の患者に手術の説明から術中覚醒までの麻酔管理を行っている。

(2) 業務実績

ア 平成 30 年度麻酔実施状況

平成 30 年度は局所麻酔の件数が 507 件、全身麻酔が 130 件、全麻・硬麻は 45 件、腰椎麻酔が 27 件、伝達麻酔 0 件、硬膜外 0 件、という実績であった。

イ 麻酔件数表

(単位：件)

区分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
全麻・硬麻	5	3	5	7	5	3	6	4	3	3	1	0	45
全身麻酔	10	14	15	13	8	9	8	11	8	8	11	15	130
硬膜外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腰椎麻酔	3	3	0	3	2	2	1	3	3	2	4	1	27
伝達麻酔	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
局所麻酔	36	38	62	52	31	39	41	49	41	46	35	37	507
計	54	58	82	75	46	53	56	67	55	59	51	53	709

(11) 脳神経外科



○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

当院では、毎週水曜・金曜日の午後に、横須賀共済病院の応援を得て、脳神経外科外来を実施している。また脳ドックの読影についても実施している。

(2) 業務実績

ア 外来業務

外来患者数は平成 28 年度 1,773 人、平成 29 年度 1,858 人、平成 30 年度 1,782 人であった。平成 29 年度から平成 30 年度にかけて外来患者数は減少した。

イ 外来患者数

(単位：人)

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
外来	1,773	1,858	1,782

(12) 泌尿器科



○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

当院では、毎週月曜・水曜・木曜日の午後に、横須賀共済病院の応援を得て、泌尿器科外来を実施している。

(2) 業務実績

ア 外来業務

平成 29 年度から平成 30 年度にかけて外来患者数は減少した。

イ 外来患者数

(単位：人)

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
外来	2,565	2,901	2,823

(13) 皮膚科



○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

当院では、毎週火曜日・木曜日・金曜日午後に横須賀共済病院の応援を得て、皮膚科外来を実施している。また、病棟における入院患者の皮膚疾患管理も担っている。

(2) 業務実績

ア 外来業務

平成 28 年度の外来患者数は 2,534 人で、平成 29 年度の外来患者数は 2,762 人、平成 30 年度の外来患者数は 3,003 人であった。今後も三浦市ならではの診療ができるようにしていきたいと思う。

イ 外来患者数

(単位：人)

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
外来	2,534	2,762	3,003

(14) 研修医



診療部長 木谷 勇一

○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

平成 30 度は、横須賀共済病院より 9 名、横浜市大附属病院より 2 名、横浜市立大学附属市民総合医療センターより 3 名、奈良県の西和医療センターより 5 名の研修医の方々が、それぞれ約 1 か月程度当院で地域医療を研修された。派遣元の病院と異なり医療資源が少ない当院で医療を行うに当たり、いかに知恵を絞り医療を行っているかを実感できたかと思われる。当院での研修が、その後の医者としての医療において少しでも役立てれば幸いである。

(2) 平成 30 年度研修医一覧

平成 30 年度	大久保 理沙	竹田 悠希子		
	以上横浜市立大学附属病院より			
	松原 譲二	佐藤 佑	永井 康貴	
	以上横浜市立大学附属市民総合医療センターより			
	渡部 一貴	溝畑 英樹	小田 侑希	曾我 真弘
	大西 将央			
	以上奈良県西和医療センターより			
	窪田 硫富人	坂口 祐介	小林 圭	沖野 礼一
	中川 結衣	志賀 輝	金子 友紀	佐藤 理穂
	益子 悠			
	以上横須賀共済病院より			

2 診療支援部



(1) 薬剤科

科長 今村 里絵

○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

ア 病棟薬剤業務加算算定

月平均 434 件、434,000 円の算定となった。薬物療法の有効性・安全性向上のため医師・看護師等との連携を図り、適切な薬物治療の推進に努めている。

イ 薬剤管理指導業務

今年度は算定件数が 10%減となったが、昨年度に引き続き、化学療法の患者の指導はすべて介入し、退院時指導はほぼ全員に行うことができた（地域包括ケア病床の患者も含む。）。

ウ 院内医薬品在庫管理

棚卸資産減耗費はここ数年、毎年十数パーセントの削減となり経費削減に繋がっている。次年度も引き続き、各科定数配置薬の品目、数量の見直しを図り、更なる在庫管理を進めていく所存である。また後発医薬品の導入推進を行い、医療費削減と医療資源の有効活用に努めていきたい。

エ 6 年生薬学生実務実習（11 週間）

横浜薬科大学より 1 名受け入れた。薬学生を指導することにより職員の更なる知識及び技術の向上並びに意識改革に繋がっていると考えている。

(2) 業務実績

ア 調剤業務

区分	処方箋枚数			調剤数		院外処方
	外来		入院	外来	入院	疑義照会
	院内処方	院外処方				件数
年間	2,288	55,287	20,389	3,630	50,253	2,540

イ 薬剤管理指導業務

区分		内科	外科	整形外科	産婦人科	眼科	小児科	耳鼻科	計
服薬指導患者数		537	546	215	0	13	0	0	1,311
総服薬指導件数		1,269	1,252	744	0	13	0	0	3,278
算定件数	380点	429	456	297	0	4	0	0	1,488
	325点	383	295	209	0	9	0	0	924
麻薬加算件数									102
退院時薬剤情報加算件数									847

ウ 注射剤混合業務

区分	無菌調剤処方件数		無菌調整件数（中心静脈）	調整本数
年間	1,864		783	868
	化学療法調整	入院	229	566
		外来	0	

エ 麻薬管理業務

区分	処方箋枚数		
	内服	外用	注射
年間	248	114	1,721

オ 血液製剤管理業務

区分	件数
年間	45

カ 院内製剤業務

区分	件数
年間	120

キ 持参薬管理業務

区分	件数
年間	2,069

ク 病棟薬剤業務

区分	件数
年間	5,214

(2) リハビリテーション科



技師長 清水 隆人

○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

ア 地域包括ケア病床の増床に向けた対応について

平成 30 年 4 月より地域包括ケア病床が 28 床から 40 床へ増床し、リハビリテーション介入がより必要となる患者へ対応できるよう関係各部署と調整を図った。

イ 介護予防啓発事業「三浦市民健康大学オープンキャンパス」の開催について

平成 30 年 11 月 4 日、介護予防啓発事業として「みうら市民健康大学オープンキャンパス」を三浦 YMC A グローバル・エコヴィレッジヒルサイドにて開催した。

市内外より 90 名の参加があり、医療・保健・福祉に関わる専門職種が「健康」をテーマにした指導や相談を行った。また、マジックショーや落語講座、懐かしい遊び道具の展示なども併設し、楽しみながら健康について考える機会となるよう企画・運営を行った。

(2) 業務実績

ア 入院

(ア) 業務実績

新患者数は 828 件と昨年度よりも増加し、延べ患者数、実施単位数及び 1 件当たりの平均実施単位数は、同程度であった。(前年比 新患者数 1.07 倍、延べ患者数 1.21 倍、単位数 1.16 倍)。

(イ) 実績表

		平成29年度	平成30年度	前年度比
新患数 [件]	理学療法	622	682	1.10
	作業療法	155	146	0.94
	計	777	828	1.07
延べ件数 [件]	理学療法	16,276	19,445	1.19
	作業療法	2,992	3,790	1.27
	計	19,268	23,235	1.21
単位数 [単位]	理学療法	27,857	32,190	1.16
	作業療法	5,120	5,936	1.16
	計	32,977	38,126	1.16
平均単位数 [単位]	理学療法	1.7	1.7	0.97
	作業療法	1.7	1.6	0.92
	計	1.7	1.6	0.96
退院前訪問実施件数 [件数]		59	98	0.00
摂食嚥下対応患者数 [患者数]		108	96	0.89
摂食嚥下延件数 [件数]		2,036	2,292	1.13

イ 外来

(ア) 業務実績

外来の新患数は 233 件、実施延べ患者数は 3,996 件、実施単位数は 4,677 単位であった（前年比 新患数 0.83 倍、延べ患者数 0.053 倍、単位数 0.47 倍）。また、1 件当たりの平均単位数は、1.2 単位であった（前年比 0.88 倍）。

(イ) 実績表

		平成29年度	平成30年度	前年度比
新患数 [件]	理学療法	165	137	0.83
	作業療法	155	96	0.62
	計	320	233	0.73
延べ件数 [件]	理学療法	4,559	2,428	0.53
	作業療法	2,992	1,568	0.52
	計	7,551	3,996	0.53
単位数 [単位]	理学療法	4,925	2,578	0.52
	作業療法	5,120	2,099	0.41
	計	10,045	4,677	0.47
平均単位数 [単位]	理学療法	1.1	1.1	0.98
	作業療法	1.7	1.3	0.78
	計	1.3	1.2	0.88

ウ 地域包括ケア病床

(ア) 業務実績

平成 30 年度より地域包括ケア病床は 28 床より 40 床に増床し、月平均のリハ

実施患者数、年間の総実施単位数とも昨年度より増加を認めた。月平均の実施単位数は昨年と同程度であった。

(イ) 実績表

	平成29年度	平成30年度	前年度比
月平均患者数 [人]	53.2	68.5	1.29
総実施単位数 [単位]	19,585	27,659	1.41
平均実施単位数 [単位]	2.07	2.07	0.99

エ 小児を対象とした外来リハビリテーション

(ア) 業務実績

作業療法士が疾患別リハビリテーションとして算定した年間実施件数は 114 件、単位数は 344 単位であった。

また、担当作業療法士が下記の通り地域の幼稚園や保育園、小中高等学校、放課後等デイサービスなど各施設にて活動し、当該児及びその家族が関わる様々な施設やサービスとの連携を図った。

日程	実施場所	参加・活動内容
4月2日	名向小学校	担任教諭・情報収集、挨拶
5月16日	三浦合同庁舎	教育委員会、福祉型児童発達支援・会議
6月11日	暖館	放課後等デイサービスとの連携、挨拶
6月13日	武山養護学校	家族、養護学校校長、保育士・情報共有
6月15日	名向小学校	担任教諭、家族・進路相談、面談
6月21日	三浦合同庁舎	対象児、家族、担任教諭・巡回リハビリ
7月4日	ソレイユの丘	市内小学生、家族・外部講師
9月22日	油壺幼稚園	対象児、家族・運動会
10月23日	剣崎小学校	担任教諭・相談、支援
12月13日	対象児宅	対象児、家族、他施設 PT、OT・住宅改修
12月14日	三浦合同庁舎	保育士、保健師、行政・Xmas 会
日	三浦合同庁舎	児童精神科医、行政・発達検査
2月15日	三浦合同庁舎	対象児、家族、担任教諭・巡回リハビリ
2月21日	三浦合同庁舎	家族・保護者総会
3月7日	三浦合同庁舎	対象児、家族、行政、保育士・お別れ会
3月18日		

オ 訪問リハビリテーション

(ア) 業務実績

訪問リハビリテーションの実施延べ件数は 1,640 件、実施単位数は 4,831 単位であった（前年比 延べ患者数と単位数は同程度、新規件数と終了件数は半数程度であった）。

(イ) 実績表

	平成29年度	平成30年度	前年度比
件数 [件]	1,640	1,534	0.94
単位数 [単位]	4,831	4,418	0.91
新規件数 [件]	14	8	0.57
終了件数 [件]	10	16	1.60

カ 実習生の受入れ

本年度の実習生は、下記の理学療法士養成校 1 校より 2 名を受け入れた。

学校名	テーマ	期間	実習生
神奈川県立保健福祉大学	臨床実習（4 年生）	4 月 9 日～5 月 25 日	1 名
横浜リハビリテーション専門学校	臨床実習（4 年生）	6 月 11 日～8 月 4 日	1 名
	見学実習（1 年生）	9 月 3 日～9 月 7 日	5 名

キ 研修会・学会等での発表

本年度は、下記の内容を外部にて発表した。

演者	テーマ	学会等	期日
作業療法士 後藤健太郎	小児リハビリテーションの開設に係る経過と今後の課題	第 68 回国保診療施設部会研修会	5 月 26 日
	小児リハビリテーションの開設までの経過と今後の課題	第 58 回全国国保地域医療学会	10 月 5 ～6 日
理学療法士 藤井 伸行	理学療法の研究方法論	平成 30 年度第 3 回新人教育プログラム研修会	12 月 2 日

ク 介護予防啓発事業（三浦市民健康大学オープンキャンパス）の開催

本事業は、地域在住高齢者への介護予防や未病を治す取組などの健康意識の啓発を図ることを目的とし、平成 27 年度より神奈川県立保健福祉大学、三浦市高齢介護

課、三浦市社会福祉協議会、市内外の事業所とともに実行委員会を編成して企画・運営しており、YMCA三浦ふれあいの村にて実施している事業である。平成30年度は11月4日（日）に実施し、体操を実践する教室、健康や栄養・尿漏れ等についての個別相談ブース、福祉用具の展示ブースを開設した。各ブースや運営スタッフとして、当院リハビリテーション科スタッフや事務局・管理栄養士が担当した。また、参加者に楽しみながら健康について考えてもらう機会となるよう特別企画として落語独演会やマジックショーを開催した。

当日は、市内外より90名程度の10歳未満から90代までの幅広い年齢層の方々に参加していただいた。開催後、報告書を作成し関係各所へ配布するとともに病院ホームページに掲載した。

(3) 放射線科



診療支援部長（H31 3. 31 現在） 五味 潤 一三

○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

平成 30 年 12 月に MR I の老朽化により更新を行った。既存装置 1 テスラから新装置 1.5 テスラへの導入が決まった。平成 31 年 1 月～3 月の 3 ヶ月間の工事期間を経て、平成 31 年 4 月より運用開始の予定である。また同じく 4 月より、新規導入として X 線骨密度装置（DXA）の運用も決まっており、モダリティーが一つ増える事となった。これを機に、診断能の向上並びに検査数の増加につなげていきたい。放射線科全体での検査人数は前年度比 0.99 と僅かに減少したが、MR I の入替工事で 3 ヶ月間検査ができなかった為と考えられる。

(2) 業務実績

ア 一般撮影

(ア) 前年度と比較し、入院・外来患者の減少もあり、胸部・腹部、MMG 等で減少傾向であったが、整形外科の患者数が増え前年度比 1.04 につながった。

(イ) 一般撮影実績

(内数)

区分	外来患者人数	入院患者人数	総患者人数	総部位件数
胸部	7,282	703	7,985	7,985
腹部	1,590	721	2,311	2,311
骨部・他	5,629	2,908	8,537	10,797
(体幹)	(3,077)	(2,411)	(5,488)	(7,279)
(四肢)	(2,552)	(497)	(3,049)	(3,518)
(ポータブル)	(284)	(1,535)	(1,819)	(2,437)
乳房	930	2	932	832
合計	15,431	4,334	19,765	21,925

イ X 線 TV 検査

(ア) 血管造影検査は倍ほどに増加。消化器検査は、人間ドック等健診での胃バリウム検査は若干増加。その他の検査では、外来で行う検査（胃瘻交換・ED-tube 交

換等)及び、入院で行う各種検査(PTCD・ED-tube等)が半数に減少。X線TV検査全体では、前年度比0.92と減少。

(イ) X線TV検査実績

	外来患者人数	入院患者人数	総患者人数	総部位件数
心 血管	0	15	15	15
消化器	468	81	549	549
泌尿・生殖器	2	0	0	2
その他	23	60	83	83
合計	493	156	647	649

ウ X線CT検査

(ア) 撮影後の各種画像処理出力(MPR・3D等)は大幅に増加。四肢撮影が2.78と増加し、躯幹撮影も1.21の増加となったが、躯幹造影検査は0.88と減少。CT検査全体では、1.17の増加であった。

(イ) X線CT検査実績

		外来患者人数	入院患者人数	総患者人数	総部位件数
単純	頭部	1,182	146	1,328	1,423
	躯幹	2,292	489	2,781	3,400
	四肢	212	43	255	267
	小計	3,686	678	4,364	5,090
造影	頭部	4	1	5	5
	躯幹	462	119	581	662
	四肢	1	2	3	4
	小計	467	122	589	617
合計		4,153	800	4,953	5,707

エ MRI検査

(ア) 検査人数・件数ともに0.94の減少であったが、1月～3月は入替工事により検査数0であった。本来ならばプラス400件の見込みと考えられる。次年度、新MRIの件数に期待したい。

(イ) MR I 検査実績

		外来患者人数	入院患者人数	総患者人数	総部位件数
単純	頭部	698	63	761	762
	躯幹	513	226	739	790
	四肢	85	46	131	131
	小計	1,296	335	1,631	1,683
造影 (単+造含)	頭部	6	0	6	6
	躯幹	23	6	29	29
	四肢	3	0	3	3
	小計	32	6	38	38
合計		1,328	341	1,669	1,721

(4) 臨床検査科



技師長 鈴木 正芳

○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

ア 検体検査

(ア) 平成 30 年 7 月に市内在住の中学生に対する H.ピロリ検査を実施する。

＊受診者は、290 人（受診率 84%）

＊陽性率は、1 %（他地区での陽性率は 3 ～ 5 %）

(イ) 平成 30 年 11 月から全自動血液凝固測定装置を導入する。

＊sysmex CA650 を導入

イ 生理検査

(ア) 平成 31 年 3 月より終夜睡眠時ポリソムノグラフィー (PSG) 検査を実施する。

(2) 業務実績

ア 検体検査部門

区分	一般	血液	細菌	生化学	血清	輸血	外注検査	合計
件数	27,507	50,485	4,855	67,581	19,253	1,753	16,192	187,626
点数	877,006	1,011,547	366,920	5,422,495	1,640,184	62,019	2,837,225	12,217,396

	H28 年度		H29 年度		H30 年度	
	件数	点数	件数	点数	件数	点数
院内検査	181,792	10,370,751	176,620	10,116,507	171,434	9,380,171
外注検査	13,594	2,518,560	13,701	2,418,440	16,192	2,837,225
合計	195,386	12,889,311	190,321	12,534,947	187,626	12,217,396

・平成 27 年度をピークに、2 年連続で検体検査数及び点数が減少している。

イ 生理機能検査部門

	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度
件数	16,228	16,164	16,257	15,962	15,920
点数	4,190,948	4,181,520	3,964,504	4,190,948	3,973,686

- ・昨年度と比べると若干ではあるが検査数は減少したが、点数は微増する結果となった。

ウ 検査部門総評

- ・臨床検査科総収入は、診療報酬点数の減額や入院数減少等による厳しい状況が続き、昨年度に続き連続で減収となり、収益は1億 9,512 万円（昨年度－1.9%）となった。しかしながら下記に示すとおり、検査数減少に伴う試薬使用量の減や検査機器の減価償却の終了等に伴い、利益率は上昇し、効率的な検査運営は図られた結果となっている。

- ・利益率は55%となり、昨年と比べて2%増となった。

＊総収入に占める経費の内訳

- ・試薬代・保守点検代を含めた経費率＝20%（昨年度と比べて－15%）
- ・人件費率＝22%（昨年度と比べて－1%）

- ・高齢化率の高い三浦市は、これから人口減に伴う患者数の減少が考えられる。

今後検査数の増加のみを求めていくことは厳しいと思われる中、「三浦ならではの地域医療の確立」という病院の方針の基、地域のニーズにあった検査の提供を更に進めていく方針の中、今年度は昨年を引き続き三浦市在住の中学生に対するH.ピロリ検査を実施することできた。これにより臨床検査科では成人だけでなく中学生の検査結果も一元管理ができる仕組みが確立され、検査データの更なる蓄積を重ねていきたい。又、今年度特筆すべきことでは、新たに終夜睡眠ポリソノグラフィー検査が導入できたことである。導入に当って指導していただいた内科の井上先生や検査の様子等を見学させていただいた国立病院機構静岡医療センターの臨床検査技師の皆様方には、この場でお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

(5) 地域医療科



科長 嘉山 静子

○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

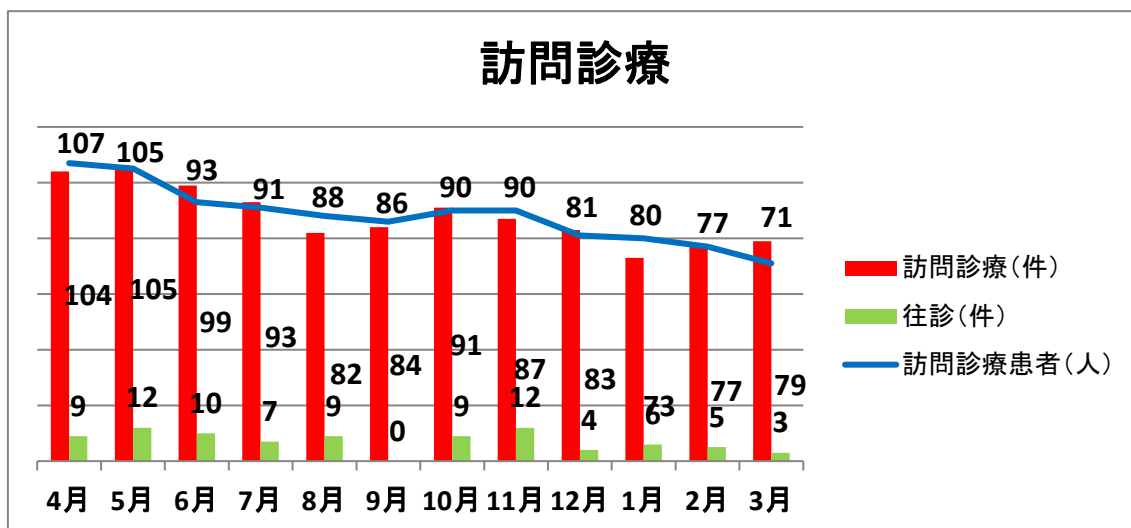
当院の役割である高度急性期からの後方支援や地域の開業医からの後方支援、在宅患者の急性増悪時のバックベッド機能及び医療依存度の高い患者のレスパイト入院機能があり、連携・支援・調整の強化を図った。

平成 28 年度よりスタートした入退院支援加算 1 に関する多職種連携の定着を図り、より充実した入退院支援を展開し、地域へ移行することができた。同時に、院内外問わず「こころのわかる関係」の構築にも繋がり、今後も継続していきたい。

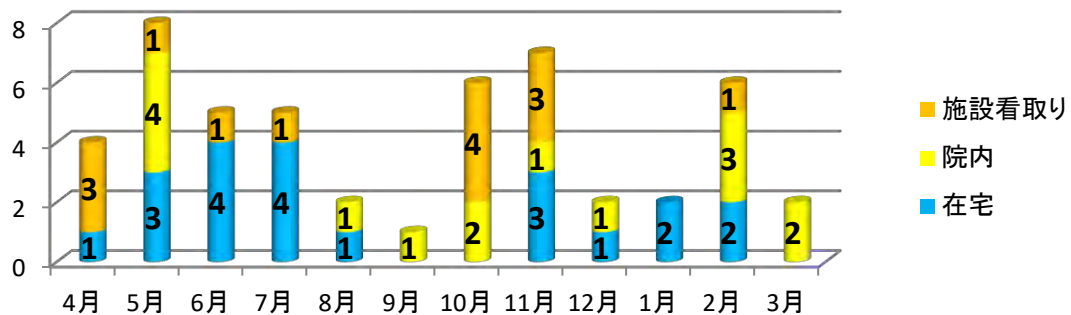
(2) 業務実績

ア 在宅医療

機能強化型在宅療養支援病院として訪問診療を実施した。30 年度の訪問診療件数 1,059 件、往診 86 件、訪問看護 35 件、在宅看取りは 21 件、施設看取り 14 件であり、いずれも昨年度より下回った。これらは、平成 30 年 6 月に緩和ケアを中心とした訪問診療体制の変更等によるものであり、今後訪問診療と共に訪問看護に力を入れ、地域が必要としている医療を提供していきたい。



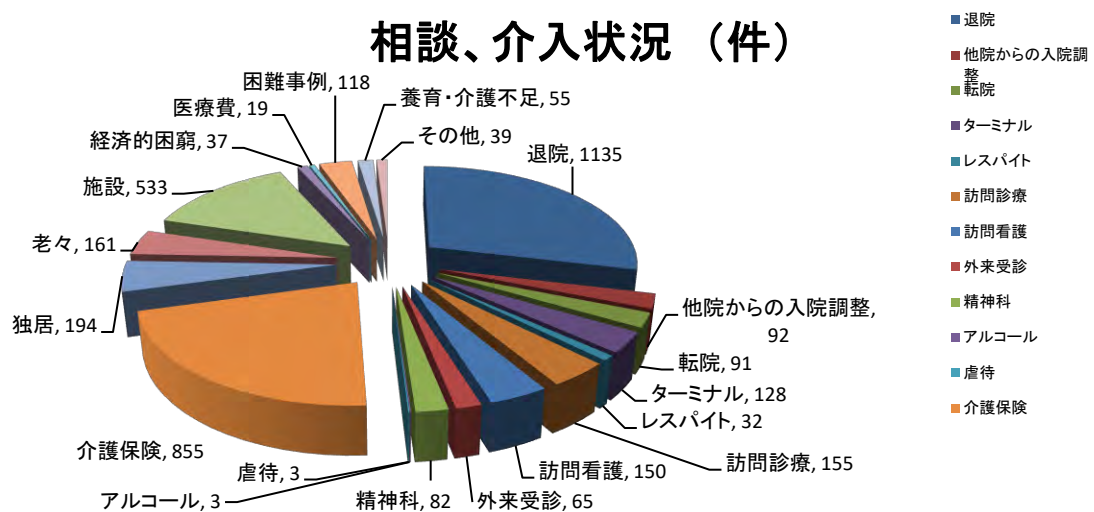
看取り内訳 (単位: 件)



イ 退院支援・調整

入院3日以内に行う院内外での多職種連携の継続と、院内部署別のカンファレンスを継続することによって情報管理の活用が高まった。また、地域医療科内に於いて困難事例検討会を継続したことで部署内のスキルも向上し、独居や老々世帯、医療依存度の高い症例であっても、本人・家族との面談、退院前訪問、ケア会議を経て訪問診療を導入するなど、地域医療へのシームレスな移行に繋がった。

相談、介入状況 (件)



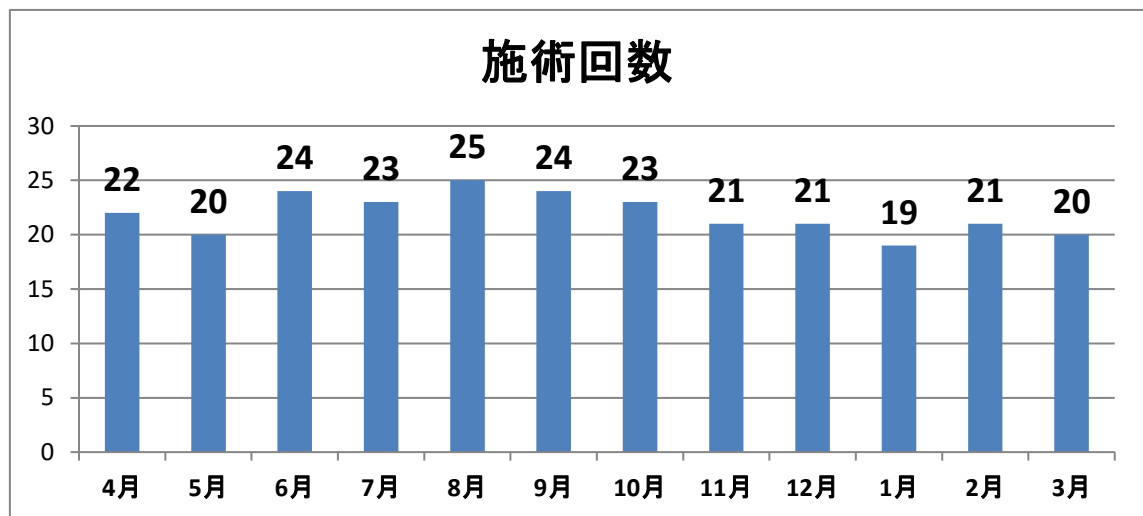
ウ リンパ浮腫外来

平成29年10月より3名体制でのリンパ浮腫ケアを提供することができた。術後二次的に起こるリンパ浮腫だけでなく、終末期に於いて発症したリンパ浮腫に関しても、緩和ケアの一環としてケアを導入し、最期まで自分らしく過ごせるお手伝いを担うことができた。リンパ浮腫ケアの受容が高くなり、ケアを提供する環境を外来、在宅、病棟など幅広く活動している。

リンパ浮腫外来

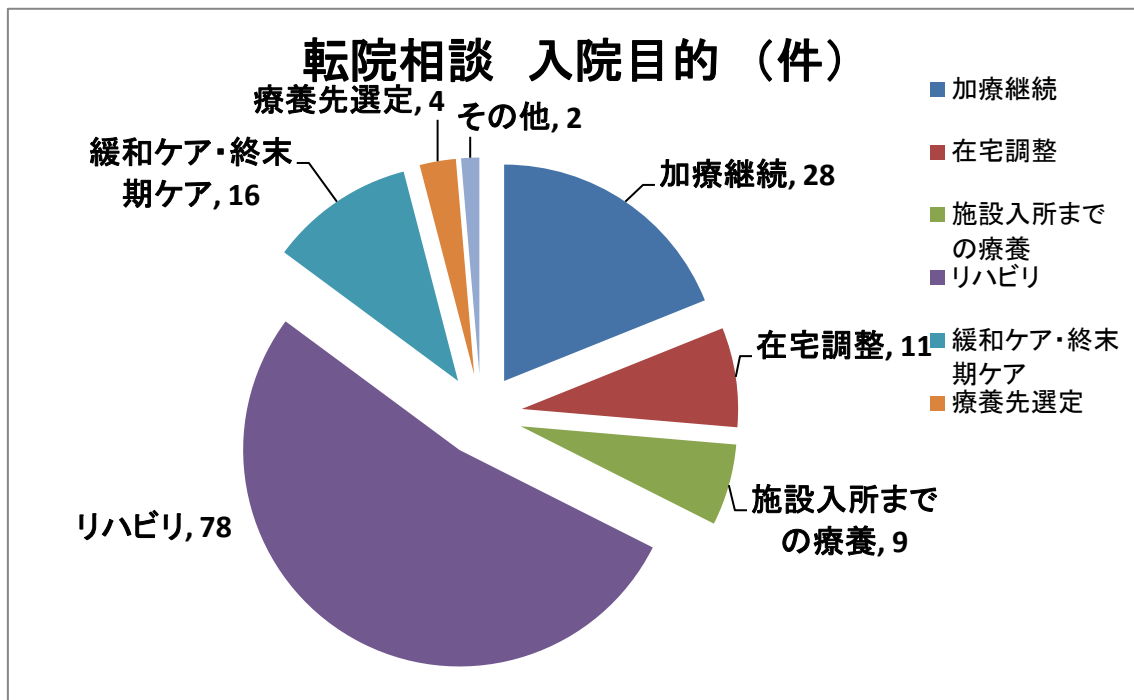
平成30年度年報

総患者数	総施術回数	施術回数			診療科			性別		部位								施術場所				終了順末					着衣のみ購入
		一人あたりの年間平均	最多者	最少者	内科	外科	婦人科	男性	女性	右上肢	左上肢	両上肢	右下肢	左下肢	両下肢	全身	顔面	外来	外来から在宅	在宅	病棟から在宅	転居	軽快	訪問リンパへ	死亡	その他	
14名	263回	18.6回	60回	2回	4	7	3	0	14	2	3	0	0	3	6	0	0	11	1	1	1	0	0	0	1	0	0



エ 転院相談・受入れ

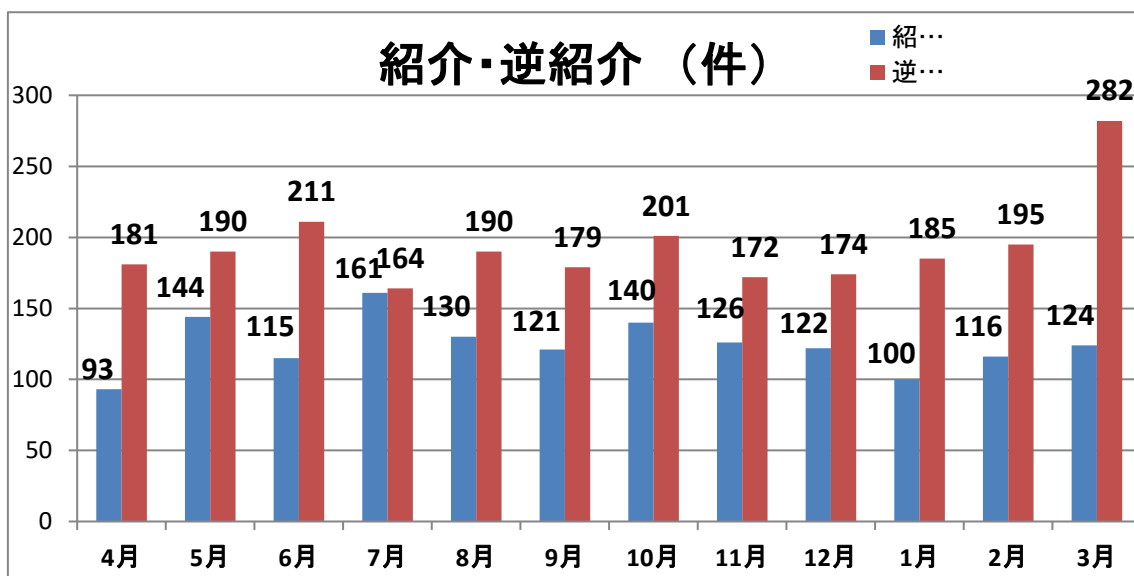
3次救急を中心とした他施設からの継続加療や、在宅調整、終末期による緩和ケア、施設待機、リハビリを必要としている方の転院相談が多く、シームレスな連携を実施し、スムーズな受入れに繋がった。なかでも、医業分業に伴い、地域連携における3次救急からの受け入れとして、加療継続や終末期による緩和ケアの件数が増加している。



オ レスパイト健診

家族を介護している介護者の健康を守るためのレスパイト検診が前年度と同様1件と少ない。介護者の健康維持のため、次年度はリーフレットを作成し配布するなど努力をしていく。「安心して介護に専念できる」レスパイト支援は、地域に定着しつつあり、介護者が自分のリズムを保ちながら介護に当たれるよう受入れ調整を図った。

カ 紹介・逆紹介



(6) 医療安全管理室



室長 大庭 信彰

○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

平成 30 年度の医療安全管理室は、「患者が安心して安全な医療を受けられるように環境を整え、「安心してかかる病院」として患者確保の基盤になる。」を目標として業務に取り組んだ。リスクマネジメント担当と感染管理担当の院内合同ラウンドを年 4 回実施し、評価結果を周知して業務改改善につなげることができた。また、職員の医療安全に対する意識及び知識を高めるため、全職員対象の研修の出席率向上に取り組み、一定の成果を上げることができた。

引き続きリスクマネジメントの視点と感染管理の視点を効果的に取り入れた多職種連携を具現化するための組織として、様々な課題に取り組んでいきたい。

ア ミーティングの開催

医療安全管理室ミーティングは、リスクマネジメント担当と感染管理担当それぞれの所掌事項に関する 1 か月の実績及び今後の予定を報告し、必要な情報共有及び協議を行う場である。このミーティングでの議論を踏まえ、医療安全管理室が所掌する感染対策委員会及びリスクマネジメント委員会において必要な協議調整を行う。各委員会で決定した事項がこのミーティング等を通じて医療安全管理室にフィードバックされ、院内の感染対策及びリスク管理についてトータルのマネジメントを行っていく。

イ ミーティングの概要

(ア) 第 1 回医療安全管理室ミーティング

a 開催日及び場所

平成 30 年 4 月 24 日 (火) 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・合同ラウンドについて
 - ・研修について
 - ・平成 29 年度感染防止対策加算及び医療安全対策加算の診療報酬について
 - ・平成 29 年度医療安全管理室の目標について
- リスクマネジメント担当からの報告

- ・リスクマネジメント担当のミーティング等について
- ・平成 29 年度のインシデント件数について
- ・アクシデントレポートの改正等について

●感染管理担当からの報告

- ・神奈川県 7 市公立病院感染管理交流会について
- ・結核の PCR 検査について

c 出席人数 8 人

(イ) 第 2 回医療安全管理室ミーティング

a 開催日及び場所

平成 30 年 5 月 22 日（火） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

●リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について

- ・合同ラウンドについて
- ・平成 29 年度の目標の振り返り及び平成 30 年度の目標について

●感染管理担当からの報告

- ・特になし

●リスクマネジメント担当からの報告

- ・平成 29 年度医療事故等の公表について
- ・医療安全研修について
- ・神奈川県 7 市公立病院医療安全管理者交流会について

c 出席人数 8 人

(ウ) 第 3 回医療安全管理室ミーティング

a 開催日及び場所

平成 30 年 6 月 26 日（火） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

●リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について

- ・合同ラウンドについて
- ・研修について
- ・リバイバルチームⅡについて

●リスクマネジメント担当からの報告

- ・医療安全対策地域医療加算について
- ・人事異動について
- ・転倒転落予防策について

●感染管理担当からの報告

- ・感染対策排気ユニット設置による陰圧室の整備について
- ・神奈川県7市公立病院感染管理交流会について

c 出席人数 9人

(エ) 第4回医療安全管理室ミーティング

a 開催日及び場所

平成30年7月24日(火) 三浦市立病院2階会議室

b 議事

●リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について

- ・研修について
- ・リバイバルチームⅡについて

●感染管理担当からの報告

- ・抗菌薬適正使用支援チームについて
- ・HIV検査について

●リスクマネジメント担当からの報告

- ・リスクマネジメント委員会における看護部会の会議結果報告について
- ・インシデント・アクシデント報告書の管理運用について
- ・救急カートの取り扱いについて

c 出席人数 8人

(オ) 第5回医療安全管理室ミーティング

a 開催日及び場所

平成30年8月28日(火) 三浦市立病院2階会議室

b 議事

●リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について

- ・合同ラウンドについて
- ・リバイバルチームⅡについて
- ・神奈川県自治体病院開設者協議会における研修について
- ・研修について

●リスクマネジメント担当からの報告

- ・医療安全地域連携加算に係る相互ラウンドについて
- ・転倒予防策について
- ・医療安全管理者研修について
- ・点滴等に関するリスク管理について

●感染管理担当からの報告

- ・抗菌薬適正使用支援チーム(AST)の進捗状況について
- c 出席人数 8人

(カ) 第6回医療安全管理室ミーティング

- a 開催日及び場所
平成30年9月25日(火) 三浦市立病院2階会議室
- b 議事
 - リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・合同ラウンドについて
 - ・リバイバルチームⅡについて
 - ・研修について
 - ・平成31年度新型インフルエンザ等対策医療機器整備費補助金について
 - 感染管理担当からの報告
 - ・地域連携相互評価及びカンファレンスについて
 - ・神奈川県7市公立病院感染管理交流会について
 - リスクマネジメント担当からの報告
 - ・医療安全地域連携加算に係る相互ラウンドについて
 - ・転倒予防策について
 - ・医療機器安全管理委員会について
- c 出席人数 7人

(キ) 第7回医療安全管理室ミーティング

- a 開催日及び場所
平成30年10月23日(火) 三浦市立病院2階会議室
- b 議事
 - リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・合同ラウンドについて
 - ・研修について
 - ・リバイバルチームⅡについて
 - リスクマネジメント担当からの報告
 - ・医療機器安全管理委員会について
 - ・転倒予防策について
 - ・無断離院対応マニュアルについて
 - 感染管理担当からの報告
 - ・針刺し切創報告について
- c 出席人数 8人

(ク) 第8回医療安全管理室ミーティング

a 開催日及び場所

平成30年11月27日(火) 三浦市立病院2階会議室

b 議事

● リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について

- ・ 研修について
- ・ 合同ラウンドについて
- ・ 平成29年度医療安全管理室年報について
- ・ 平成31年度医療器械・器具予算要求について

● リスクマネジメント担当からの報告

- ・ 医療安全地域連携相互評価について
- ・ 転倒予防策について
- ・ 医療安全管理者研修について

● 感染管理担当からの報告

- ・ 抗菌薬適正使用支援チームの活動について
- ・ インフルエンザの流行状況について

c 出席人数 7人

(ケ) 第9回医療安全管理室ミーティング

a 開催日及び場所

平成30年12月25日(火) 三浦市立病院2階会議室

b 議事

● リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について

- ・ 合同ラウンドについて
- ・ 研修について
- ・ 平成31年度医療器械・器具予算要求について
- ・ 医療安全管理室診療報酬月報について

● 感染管理担当からの報告

- ・ 陰圧環境の整備について
- ・ インフルエンザの流行状況について

● リスクマネジメント担当からの報告

- ・ 平成30年度転倒予防策について
- ・ バリアフリーアドバイザー使節派遣について
- ・ 平成30年度医療安全地域連携加算に係る相互評価について

c 出席人数 9人

(コ) 第 10 回医療安全管理室ミーティング

a 開催日及び場所

平成 31 年 1 月 22 日 (火) 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

● リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について

- ・ 研修について
- ・ 医療安全管理室診療報酬月報について

● リスクマネジメント担当からの報告

- ・ 院内暴力の発生状況について
- ・ 医療安全対策地域連携相互評価について
- ・ バリアフリーアドバイザー使節派遣について

● 感染管理担当からの報告

- ・ インフルエンザの流行状況について

c 出席人数 8 人

(サ) 第 11 回医療安全管理室ミーティング

a 開催日及び場所

平成 31 年 2 月 26 日 (火) 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

● リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について

- ・ 研修について
- ・ 合同ラウンドについて
- ・ 医療安全管理室診療報酬月報について
- ・ リバイバルチームⅡについて

● 感染管理担当からの報告

- ・ インフルエンザの流行状況について
- ・ 医療監視について
- ・ 病棟の検体保管場所について

● リスクマネジメント担当からの報告

- ・ 医療監視について
- ・ 院内暴力の対応について
- ・ バリアフリーアドバイザー使節派遣について
- ・ 転倒予防策について
- ・ 地域連携加算に係る相互評価について

c 出席人数 7 人

(シ) 第12回医療安全管理室ミーティング

a 開催日及び場所

平成31年3月26日(火) 三浦市立病院2階会議室

b 議事

● リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について

- ・ 合同ラウンドについて
- ・ 研修について
- ・ 医療安全管理室診療報酬月報について
- ・ 目標設定について
- ・ HIVの術前検査について

● リスクマネジメント担当からの報告

- ・ バリアフリーアドバイザー報告書について
- ・ 転倒予防策について
- ・ 院内暴力の対応について

● 感染管理担当からの報告

- ・ インフルエンザの流行状況について
- ・ 神奈川県7市公立病院感染管理交流会について
- ・ H31年度の年間計画の案について
- ・ ASTの活動報告書について
- ・ 地域連携加算に係る相互評価について

c 出席人数 9人

ウ リスクマネジメント業務

(ア) 医療安全講習会院内研修

日時	対象者	テーマ	参加人数
4月5日 5月10日	新人看護師	医療安全について① 医療安全について②	各6名
10月24日 27日	全職員	第1回医療安全講習会 患者・家族とのコミュニケーション ～基礎編・苦情対応編～	計91名
1月16日 1月23日	看護助手	医療安全について	計10名
3月12日 13日	全職員	第2回医療安全講習会 インシデント・アクシデント件数報告 チーム STEPPS コミュニケーション	計91名

(イ) インフォメーション

医療安全の観点から患者サポート担当者と連携して、医療相談やご意見（賞詞含む。）、苦情対応等の窓口となり、病院利用者の生の声を聞いて各部署と連絡調整を図り、適切な業務執行に寄与した。

(ウ) 医療安全ラウンド

週4日院内各所のラウンドを実施し、リスク回避等の助言を行った。

(エ) レポートについて

リスクマネジメント委員会、リスクマネジメント看護部会等を通じ、レポート作成の重要性を周知するとともに、各部署から提出されたレポートのチェックを行い、分析、対策及び再発防止についての指導及び助言を行い、再発防止対策の評価、修正を行った。

(オ) ADLと転倒に関する調査研究プロジェクトチーム

平成26年4月から転倒転落に関する調査研究を行い、平成28年度から転倒予防を目的とした取組を開始した。平成30年度においても「平成30年度転倒予防策実施プロジェクトチーム」を結成し下記の転倒予防策を実施し転倒予防に努めた。

内容
①評価の充実：認知機能低下患者の歩行分類を作成。
②環境面の改善：照明点灯時間の調整。（日照時間に合わせた照明点灯）
③環境面の改善：入院時に靴の使用を推奨する事とした。 ※入院時説明に靴の必要性が記載された書類を渡す事とした。
④環境面の改善：L字柵運用手順の情報周知、使用促しを行った。

エ 感染管理業務

(ア) 感染対策講習会 院内研修

日時	対象者	テーマ	参加人数
4月11日	新人看護師	標準予防策・感染経路別予防策	各6名
12日		留置針・真空管採血・翼状針	
18日		針刺し切創・職業感染対策	
19日		フォーリーカテ基礎/実技演習	

日時	対象者	テーマ	参加人数
6月15日 20日 21日	全職員	第1回 感染対策講習会 「抗菌薬とESBL産生菌について」 ※第1回AST研修会を兼ねる	40名 29名 38名 計107名
		確認テスト提出	80名 合計187名
		参加率	94.9%
10月29日 30日 31日 10月19日 (公開講座)	全職員	第2回 感染対策講習会 「インフルエンザについて」	23名 43名 25名 6名 計97名
		確認テスト提出	73名 合計170名
		参加率	90.4%
1月21日 23日	医師・薬剤師・看護師・臨床検査技師	第2回 AST研修会 「抗菌薬適正使用について」	23名 15名 計38名
		参加率	33.3%
3月20日 22日	看護助手	衛生管理のポイント・手指衛生等について	8名 8名 計16名
		参加率	61.5%

(イ) 感染対策公開講座

日時	テーマ	院外参加人数	院内参加人数	参加人数合計
10月19日	インフルエンザについて	8名	6名	14名
2月16日	疥癬について	3名	5名	8名

(ウ) 感染対策 健康宅配便

日時	テーマ	対象施設等	参加人数
10月25日	VRE・ESBL・ノロウイルスなどの感染症講座	サニーヒル横須賀	22名
11月20日	感染症対策の現地講習（施設の状況確認及び施設内巡視）	サニーヒル横須賀	
2月18日	ノロウイルスについて	パシフィック・ホスピタル	
			63名

(エ) コンサルテーション

依頼部署等	件数
2階病棟	3
3階病棟	2
手術室	1
外来	3
薬剤科	1
診療部（内科）	5
診療部（外科）	2
地域医療科	2
院外	40
計	59

(オ) 感染症患者報告（入院）

感染症名	報告数
結核	2
劇症型溶血連鎖球菌感染症	1
インフルエンザA	34
VRE（保菌）	12
結核（疑い）	4
带状疱疹	4
带状疱疹（疑い）	1
感染性胃腸炎	3
MDRP	2

疥癬	2
感染症名	報告数
疥癬（疑い）	2
病原性大腸菌（疑い）	1
アメーバ赤痢（疑い）	1
計	69

（カ）感染症患者報告（訪問診療/外来）

感染症名	報告数
病原性大腸菌 o-157VT2+	1
アメーバ赤痢	1
風疹	1
带状疱疹	30
疥癬	9
疥癬(疑い)	1
感染性胃腸炎	1
結核（疑い）	1
水痘（他院で診断）	1
計	46

（キ）感染症職員報告

感染症名	報告数
インフルエンザ A	21
感染性胃腸炎	2
風疹（疑い）	1
流行性角結膜炎（疑い）	1
計	25

（ク）感染対策排気ユニット（NR-600D）の設置

3階病棟の 308 号室に感染対策排気ユニットを設置し、空気感染対策が必要な患者管理を陰圧室で行うことができるようになった。

（ケ）演題発表

- a 平成 30 年 12 月 1 日（土）
第 20 回 神奈川看護学会

会場 パシフィコ横浜アネックスホール

演題 VREアウトブレイクを振り返る～医療機関から暮らしの場につな
ぐる感染対策～

演者 杉崎 絵美

3 看護部

(1) 看護部



看護部長 嘉山 静子

○活動状況

常勤看護師 79 名・非常勤看護師 20 名・看護助手 25 名の 124 名でスタートし、多くの新採用者を迎え、一人ひとりが輝いて実践でき「辞めない職場」を重点事項とした。

前年度、多くの人財が退職を選択しマグネットホスピタルに繋げることが出来なかった反省を踏まえ、3つの環境①言える環境（受け止める環境）②褒める環境（良いところを見つけ伸ばす）③認める環境（承認・成長を認める）を整え、一人ひとりの成長を受け止め承認できる体制を強化し辞めない職場づくりを中心に体制改善に力を注いだ結果、退職の選択者は減少し「心ある、あたたかい看護」の提供に近づけた。

今後も、質の良い看護の提供をめざし、永く働ける環境・最後まで全うできる職場環境・やりがいを持って働く「働きやすい職場」としていくために、一人ひとりが自信を持って「あたたかい看護」を提供していけるよう、人財の確保と育成が重要だと感じている。

(1) 平成 30 年度のトピックス

ア 「三浦ならではの」地域包括ケアシステムの構築

(ア) 地域包括ケア病床の在院日数・看護必要度・在宅復帰率などの適正運用・増床に向け十分な検討を重ね、平成 30 年 6 月より 28 床から 40 床に増床し稼働した。

ポストアキュート・サブアキュートの受け入れに対し速やかな対応を行い 40 床の有効活用に至っている。患者・家族の意思決定を大切に住み慣れた地域で安心して療養生活を送れる支援を継続していく。

(イ) 「時々入院ほぼ在宅」の方向性から、さらに「稀に入院ほぼ在宅」となり病院から在宅への移行は大きくなり地域で担う役割も多くなっている。地域に戻るまでの支援と地域での療養生活を安心して送れるように、地域連携の強化をはかりながら退院支援を行うことができた。

イ 病院相互連携研修

研修を通して、地域における看護の現状・人材育成・地域包括ケアシステムに関する課題について理解し、担当領域での活用に資することを目的に実施。平成 28 年度より実施し今年度で 3 年目となる。主に自部署のみの経験者を選考し実施しているが、他施設を知ることによって自部署を理解する機会となり自部署におけるマネジメント

に効果を得ている。

(ア) 職員交流研修受入れ

奈良県立病院機構奈良県西和医療センター 看護師長 7 名・主任 1 名

期 間：8 月 29 日～31 日 看護師長 2 名

9 月 5 日～7 日 看護師長 2 名

9 月 26 日～28 日 看護師長 1 名・主任看護師 1 名

10 月 10 日～12 日 看護師長 2 名

(イ) 職員交流派遣研修

派遣場所：奈良県立病院機構奈良県西和医療センター

派遣者：看護師長 2 名・看護主任 2 名

期 間：11 月 28 日～30 日 看護師長 1 名・主任看護師 1 名

12 月 5 日～7 日 看護師長 1 名・主任看護師 1 名

(2) 看護職員状況

ア 看護職人員確保（平成 30 年度）

（単位：人）

	看護師 常勤	看護師 非常勤	准看護師	看護助手 非常勤	合計
採用	7	7	0	6	20
退職	6	4	0	5	15

イ 職別構成（平成 30 年 4 月 1 日現在）

（単位：人）

区分	看護 部長	主幹	看護 師長	主任 看護師	看護師	准看護師	看護 助手	産休 育休	合計
職員	1	1	9	8	56	0	0	3	78
非常勤	0	0	0	0	11	8	25	0	44
計	1	1	9	8	67	8	25	3	122

ウ 年齢別構成（平成 30 年 4 月 1 日現在）常勤

（単位：人）

区分	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55 歳以上	平均年齢
看護師	10	12	3	10	7	21	7	8	43.4

(3) 看護部の目標と評価

ア 医療安全・接遇・倫理観

(ア) 安全・安楽な療養環境を整え、患者中心の看護の提供

転倒予防に関しては分析データをもとに他部署と情報の共有を継続し、患者に合わせた対策を実施する事で転倒リスク減少に繋がられた。安全・安楽な環境を整え患者中心の看護の実践を行うことができた。

(イ) 人権を尊重し、丁寧で品格のある対応を提供する

丁寧で心地よい対応を行いあたたかい看護の提供に近づくことが出来、賞詞も多く頂けるようになってきた。安全で安心できる療養環境を維持し、市民に必要とされる病院として継続していく。

イ 経営参画

(ア) 受入れ態勢の強化に努め予算目標達成に最善を尽くす

(イ) 多職種・多施設との連携を行い、地域とともに支え合う体制を整える

常にデータを把握し、経営目標値を維持していくよう受け入れ体制の強化を継続したが、予算目標には到達できない結果となった。経営に参画し安定した経営に繋げていくために継続してデータの見える化を行い、自分たちに課せられた役割を遂行して行くことで目標に近づけることが出来ると感じている。

ウ 人財育成・教育

(ア) 豊かな感性と根拠を持ち、看護職としてのキャリアアップとともに、医療の質の向上に努める

(イ) 「個」の力が最大限に発揮出来るよう教育体制を整え、成長を承認していく

教育システムをJNAラダーに合わせてレベルⅠ～Ⅴに変更した。教育体制の移行時期であったが、レベル変更に関しては順調に進めることが出来た。標準的指標に合わせてのラダーは実践においての質の向上と、スタッフ「個々」の意欲の向上・やりがいにつながったと感じている。

今後は評価の方法及び評価者の教育を進めていきたい。

(2) 2階病棟



看護師長 (H31. 3. 31 現在) 中條 郁代

○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

特色

H30 年 4 月 1 日	看護師長 1 名	主任看護師 1 名	看護師 15 名
	非常勤看護師 2 名	非常勤看護助手 5 名	
H31 年 3 月 31 日	看護師長 1 名	主任看護師 1 名	看護師 13 名
	非常勤看護師 2 名	非常勤看護助手 5 名	

外科系急性期病棟 42 床 (HCU 2 床)

入院対象は主に外科・整形外科の急性期・眼科手術目的(白内障)・短期滞在検査入院外科系疾患は主に消化器がん(胃癌・大腸癌)、肝胆膵系疾患、ヘルニア、乳癌、イレウス、外傷、急性腹症などであった。

今年度、大腸内視鏡検査入院は、約 294 名、化学療法(日帰り・2泊3日)は、215 名(H29・439 名)であり、化学療法においては前年度より 200 名以上の減少が見られた。整形外科入院 296 名中、大腿骨頸部・転子部骨折、胸腰椎圧迫骨折が大半を占める。前年度より入院数は、増加傾向に見られる。

眼科入院 452 名は、全て白内障手術目的であり前年度より 50 名以上増加にあった。内科(検査入院を除く)160 名の入院があり、前年度よりやや増加傾向にあった。

(2) 業務実績

H30 年度総入院数は、1,670 名(月平均患者数は 139 名)で、うち、外科系 762 名(45.63%)、整形外科 296 名(17.72%)、眼科 452 名(27.07%)、内科 160 名(9.58%)であった。そう入院患者数も前年度(1,767 名)より減少傾向にあった。

1,670 名中、100 歳以上 11 名(0.66%)、90 歳以上 107 名(6.41%)、80 歳以上 477 名(28.56%)、70 歳以上 661 名(39.58%)、60 歳以上 270 名(16.17%)であった。

昨年同様 60 歳以上が、1,526 名(91.38%)と大幅に占めており、昨年度とほぼ同様であり、その中でも 90 歳から 100 歳以上が、7%上昇しており、入院患者の高齢化は上昇の一途をたどっている。

手術後に措いては、回復後、自宅に帰宅できるケースも、家族背景や高齢化により自

宅への退院が、困難であるケースが増加傾向にある。また、在院日数も増加傾向にあり、今後は入院直後より退院に向け退院支援が不可欠である。

(単位：人)

区分	5歳 以上 20歳 未満	20歳 以上 30歳 未満	30歳 以上 40歳 未満	40歳 以上 50歳 未満	50歳 以上 60歳 未満	60歳 以上 70歳 未満	70歳 以上 80歳 未満	80歳 以上 90歳 未満	90歳 以上 100歳 未満	100歳 以上	計
内科	0	0	1	9	8	31	48	44	18	1	160
外科	4	5	7	41	33	148	312	184	25	3	762
整形外科	0	1	4	12	12	29	64	123	48	3	296
眼科	0	0	1	2	4	62	237	126	16	4	452
計	4	6	13	64	57	270	661	477	107	11	1,670

(3) 病棟目標評価

ア 安全・安楽な統一した看護・ケアを提供し、丁寧な対応に心がけます。

- ① 毎朝のチームカンファレンス・ワークシートを有効活用・
1回/週の定期的なカンファレンスを行い、患者情報を共有できる。
- ② 看護手順を使用し指導内容の統一を行う。
- ③ 医師とのカンファレンスを定期的に行なう。
- ④ ICに同席、サポートができる。

<評価>

定期的なカンファレンスを行う時間を取る事が出来なかった為、朝の申し送りを日勤者全員で聞く、その後チームリーダーと受持ち看護師でショートカンファレンスを行い情報共有、業務改善に繋げる事が出来た。また、日々の看護ケアに関してもカンファレンスを行うよう変化が見えてきた。

ワークシートが活用出来るようチーム内で情報をワークシートに記入、チェックを行いチームで活用、共有していく。

整形カンファレンスは、継続されている。

外科カンファレンスも毎週火曜日、医師・日勤看護師全員で行い情報共有を行う事ができるようになった。

イ 急性期病棟の責務を果たし、病棟運営に参画する。

- ① 各病棟内係における目標を達成する。
- ② 受け入れ態勢、ベットコントロールを確実にを行い、急性期病棟として緊急入院の受け入れ 100%を達成する。

<評価>

予約入院（眼科：白内障手術 外科：大腸内視鏡検査 化学療法 外科・整形外科：予定手術前入院）予約が重複した場合など今後も課題となる。

ウ 急性期看護師としてのキャリアアップを行う。

- ① 分散教育(外科・整形領域看護)を1回／月以上を行なう。
急性期看護における知識・技術の共有・向上に努める。
- ② 積極的に院内、院外研修に参加し（2回/年以上）知り得た知識を共有していく。

<評価>

昨年同様、各個人は、積極的に研修に参加する姿勢は見られ急性期看護の技術や知識を深めることは出来ていた。分散教育は毎月の実施は出来なかったが、研修に参加した内容を、病棟会議の時間を使い、分散教育で他のスタッフに伝達する事、情報を共有して学びを深めて行く事など評価はできる。

学びの共有は継続して行い、来年度は回数を定期的に増やすよう努力していく。
今年度は、2回／年、外科医師に研修を行って頂くことが出来た。
次年度は、回数を増して整形医師にも協力して頂き、病棟全体で知識が共有でき、キャリアアップして行ける事を望みたい。

(3) 3階病棟



看護師長（H31. 3. 31 現在） 舘林 美加子

○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

特色

内科系急性期病棟として常に入院を受け入れている。今年度は、VRE の感染者の発生は見られなかった。疾患は高齢者の尿路感染症・肺炎などの疾患が多くみられた。また、インフルエンザの流行があり、重篤な肺炎を併発する傾向も見られた。症状の落ち着いた患者は、院内での機能分化が定着しており地域包括ケア病床への移行ができています。

職員構成は看護師長 1 名 主任看護師 2 名 看護師 17 名 非常勤看護師 2 名
非常勤看護助手 5 名

病床数：47 床（HCU 2 床 個室 6 床 特別室 1 床 4 人部屋 40 床）

入院対象：急性期内科（24 時間救急患者入院対応）

ベットコントロールにて外科・整形患者の受入れも実施

看護方式：固定チームナースィング：A・B 2 チーム制、継続受け持ち看護方式を取り入れ、
準夜・深夜ともに看護師 3 名体制で質の高い看護を提供

(2) 業務実績

ア 入院患者の状況

区分	H30	
	入院患者数(人)	構成比(%)
内科	1, 019	88. 3%
外科	108	9. 4%
整形	12	1. 0%
眼科	15	1. 3%
合計	1, 154	100. 0%

イ 入院患者の年齢別状況

(単位：人)

区分	9歳 以下	10～ 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70～ 79歳	80～ 89歳	90～ 99歳	100歳 以上	合計
内科	0	2	6	5	23	34	83	174	371	189	4	891
外科	0	0	1	1	2	5	7	24	19	3	0	62
整形	0	0	0	1	0	0	3	6	7	0	1	18
合計	0	2	7	7	25	39	93	204	397	192	5	971

(ア) 主な疾患

肺炎・脳梗塞・心不全・糖尿病・尿路感染症・脱水・腎盂腎炎・肝機能障害・
肺癌・急性扁桃炎・肝癌・イレウス・胆石・胆のう炎

(イ) 対象手術

・MR I ポート挿入術・胃瘻造設術・大腸ポリープ切除術

ウ 平成 30 年度 3 階病棟看護目標

(ア) その時、その場で必要な知識・技術を習得し、自立した行動がとれる。

【評価】ひとり一人が自分で考えて行動できるようにするため、「自分ならどう
していくか」を考えさせ答えを誘導するように心がけた。その結果、自分自
身の考えを言える育成ができています。

(イ) ケアの受け手や周囲の人の意向を知り、安全な看護を提供する

【評価】患者の意見を取り入れて、生活の場を提供出来る環境づくりを行った。
そのためには、患者・家族と向き合いコミュニケーションを多くとるようにし
ている。それによって信頼関係ができていた。

(ウ) 業務改善に取り組み、超過勤務時間を減らす

【評価】急性期であり、重篤の患者が多いため業務改善出来ることは何か話し合い
進めて行った。しかし、昨年同様、時間外が他病棟に比べて多い結果となった。

(4) 4階病棟



看護師長（H31. 3. 31 現在） 原田 左和子

○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

特色

平成 30 年 4 月 1 日 看護師長 1 名 主任看護師 1 名
看護師 16 名（うち非常勤看護師 2 名）
看護助手 8 名

平成 31 年 3 月 31 日 看護師長 1 名 主任看護師 1 名
看護師 15 名（うち非常勤看護師 2 名）
看護助手 8 名

・慢性期病棟 47 床（うち地域包括ケア病床 40 床）

・4階病棟では、ポストアキュート・サブアキュート・在宅復帰支援・レスパイト入院等を受け入れ地域包括ケア病床を運営している。

(2) 統計

平成 30 年度総入院患者数は 514 名で、うち内科は 238 名（46.3%）、外科 16 名（3.1%）、整形外科は 260 名（50.6%）であった。入院患者は 70 歳以上が 86.2%以上を占め、地域包括ケア病床の占床率は 97.5%で前年と変わらず継続できた。在宅復帰率は 80.86%であり、その内訳は、自宅が 62.46%、施設（居住形態）が 19.74%であった。

3 月末日現在数（単位：人）

区分	20 ~29 歳	30 ~39 歳	40 ~49 歳	50 ~59 歳	60 ~69 歳	70 ~79 歳	80 歳 ~89 歳	90 歳 以上	合計
内科	1	1	1	6	24	55	101	49	238
外科	0	0	1	1	3	3	7	1	16
整形外科	0	1	4	8	20	59	115	53	260

(3) 病棟看護目標

ア 患者・家族が日常生活の場に安心して戻れるよう支援していきます。

- ・患者・家族の思いを大切にし、信頼関係の構築を行う

(評価)

患者・家族が住み慣れた場所へ戻れるよう、多職種との情報交換を密に連携を行う事で、スムーズな退院支援を行うことが出来た。患者・家族のニーズに沿った支援が出来るように心がけ、様々なケースにも対応することができ、常に患者の思いを考えた支援を提供することができた。

イ チーム力を向上させ、患者一人ひとりに合わせたプランの実践を行います

- ・患者の「個」を大切にし、患者中心の看護を提供する
- ・地域・多職種との連携を行い「患者ファースト」を実現する
- ・チーム力を向上することで、機能を最大限発揮できる

(評価)

患者・家族の思いに寄り添う看護を実践することが出来た。多職種とで連携は情報の共有を徹底したが、情報がうまく伝わらない事もあり、伝達方法や連絡方法の工夫などの必要があり今後の課題となった。患者の状態だけでなく家族背景からアプローチし退院後の生活も視野に入れた退院支援を行うことが出来た。病棟スタッフが中心となり「チームワーク」を発揮することを意識し「良い病棟づくり」に取り組むことができた。

- ・リスクを回避し患者が安全に過ごせるよう環境を整える。

(評価)

インシデント報告件数は 35 件で前年度 48 件より 13 件減少した。そのうちレベル 3 b は 1 件であった。項目別では転倒・転落に関連したインシデント数は 65.7% 薬剤関連のインシデントは 17.1%、チューブ類は 14.3%であった。転倒転落のインシデントの割合が多く骨折に繋がった 3 b が 1 件あった事からも、環境整備やベッドコントロールを行い転倒防止に努める。

ウ 地域包括ケア病床の充実と、地域との連携が出来る看護師の育成を行います。

- ・スタッフ一人ひとりが地域包括ケア病床を理解し、実践できる看護師の育成を行う。
- ・地域包括ケア病床の占床率 100%を目指します。

(評価)

スタッフが地域包括ケア病床についての勉強会を行い4階病棟が他セクションに発信し「地域包括とは」を伝えることができた。また、スタッフが自ら地域包括ケア病床を学び、コスト意識を持つことができたことで占床率アップにつながった。

4階病棟では、患者が可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしが続けられるように、多職種と協働しながら患者の在宅復帰を支援している。超高齢化が進んである中で患者・家族に寄り添った退院支援を行っていく必要がある。近年では「認知症」「老々介護」「独居」「経済困窮」等の問題を抱えている高齢者が多く、退院支援が困難な事例も多い。入院前まで独居が可能であったが、病状により自宅退院が困難になるケースが多く、様々な方向で退院支援を考えていく必要性がある。このように超高齢地域における問題点は多く、治療や安全など退院支援に弊害がある。これらの問題に関して、病院のみならず地域密着型を確立し、地域と連携を取りながら問題解決を図っていく必要がある。「三浦市ならでは」の地域包括システムを構築していくために、地域との連携のパイプを太く確実にし、安心して在宅に帰れる環境を地域と共に考えていく必要がある。地域に密着した看護を提供し、高齢者に優しい病棟を目指していきたい。

(5) 手術室



看護師長（H31. 3. 31 現在） 渡辺 みゆき

○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

看護目標及び評価

ア 患者・家族が安心して手術に臨めるような体制

(ア) 患者・家族・職員に笑顔であいさつをする。

- a 術前訪問から退出まで患者、家族に寄り添い少しでも手術に対する不安が軽減するように努める。
- b 術前訪問を行い、術前～術後を通しての不安の軽減がされたか改善点がないか検討する。

(イ) 他部門との情報共有

- a 術前訪問 100%維持と術前チェックリストでの再確認
- b 病棟看護師と手術患者の情報の交換・共有を図る。
- c 患者中心の看護が提供できる様、ミーティング時術前訪問による患者情報を、麻酔科・術者・スタッフ間で共有する。

(ウ) 手術が安全に遂行するよう点検・整備

- a 始業前・始業後チェックリストでダブルチェックをする。
- b 機材異常時、速やかに報告・対応する。

評価： 術前訪問時に、患者・家族に笑顔でのあいさつと、受け入れ時に安心できるように、術前訪問担当者が関わっていった。 術後訪問は出来るとき行っていたが、改善点等の検討まで行えず、来年度引き続きの課題とする。

急手術以外入院患者に対し 100%の術前訪問ができた。病棟看護師との連携も取れ、情報の交換・共有できた。

イ スタッフが安全・円滑に働ける職場環境を整える

- (ア) 手術が円滑に流れるようお互いが声を掛け合い、ミーティング時情報共有で、各人の動きがわかるようにする。
- (イ) コスト意識を持ち、材料費削減・材料の予備を最小限にとどめ無駄のない業務をする。

(ウ) 各人は年1回以上の研修に行き中材・手術室のキャリアアップをする。

評価： 看護師スタッフが2名増員され、眼科白内障手術患者の入院から手術、退院まで手術室スタッフで行なう事ができた。

また、時間の有効活用、事前のイメージトレーニングと、声の掛け合いにより安全な手術展開となった。

手術がない日は病棟他部署への応援体制を取り、病棟に人材を確保することで、病棟への貢献にもつながった。

各スタッフは外部研修に参加し、伝達講習したことで手術室内の質向上につながった。

(2) 業務実績

ア 手術室・中央材料室

(ア) 業務実績

平成30年度の手術件数は709件。内訳は外科123件 整形外科123件 眼科462件 内科1件 前年度より82件増であった。

今年度は、BISモニター・2室の生体モニター・バキューホーム（手術体位固定具）内視鏡下用把持鉗子5本が新しく購入された。

中央材料室では院内で使用する医療機器の洗浄から滅菌まで一括業務を行っている。また単包化により滅菌有効期限の延長が向上した。

生物学的モニタリングシステムを導入したことでより安全な手術を行える様になった。

職員構成は、看護師長1名、看護師4名、看護助手1名の6名体制であった。

日々医療機器・備品点検を行い安全に手術が行えるよう、また緊急手術にも備えている。術前訪問を実施し患者の不安軽減に努めている。術前訪問100%実施できている。

(イ) 手術件数

科別

(単位：件)

区分	外科	整形外科	眼科	内科	婦人科	その他	計
手術	112	117	460	0	0	0	689
緊急手術	11	6	2	1	0	0	20

年齢別

(単位：人)

区分	0～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計
外科	2	1	1	7	3	23	49	37	123
整形外科	0	1	2	7	10	13	22	68	123
眼科	0	0	1	2	4	64	239	152	462
内科	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計	2	2	4	16	17	100	310	257	709

(6) 外来



看護師長（H31. 3. 31 現在） 市川 夏実

○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

ア 診療科：内科（循環器科 呼吸器科 糖尿病） 外科 整形外科 眼科 耳鼻咽喉科 産婦人科 小児科 神経内科 脳神経外科 泌尿器科 皮膚科
内視鏡 フットケア外来 リンパ浮腫外来

イ 救急外来：24 時間体制（地域医療科・手術室・病棟師長の応援体制あり）

ウ 人員： 看護師長 1 名
主任看護師 1 名
看護師 8 名
非常勤看護師 5 名
非常勤准看護師 6 名
非常勤看護助手 8 名 （合計 27 名）

(2) 業務実績

ア 患者数 77,463 人／年
平均患者数 320 人／日

イ 健診業務：ドック
国保・なごみ・特定・一般健診
市職・船員・その他事業所等の健診
集団健診・施設への出張健診（はまゆう・マリーナヒルズ等）
土曜日健診（毎月第 2 土曜日）癌検診と国保等健診を行う。

ウ 予防注射：インフルエンザ（院内）
インフルエンザ（出張）
破傷風・HB ワクチン
肺炎球菌ワクチン

エ 平成 30 年度科別患者数

(単位：人)

区分	内科	神経 内科	外科	整形 外科	産婦 人科	小児科	眼科	耳鼻咽 喉科	脳神経 外科	泌尿 器科	皮膚科
4 月	2,489	141	591	1,357	106	139	477	315	148	239	257
5 月	2,609	141	608	1,455	128	171	529	341	130	260	251
6 月	2,476	166	598	1,441	141	171	565	280	158	237	283
7 月	2,577	153	717	1,530	121	168	509	237	144	246	313
8 月	2,542	155	643	1,531	156	187	539	249	163	270	360
9 月	2,226	140	564	1,368	92	167	438	223	139	213	231
10 月	2,719	149	674	1,616	174	226	375	402	162	303	311
11 月	2,550	153	645	1,444	129	265	513	278	169	216	315
12 月	2,390	161	587	1,307	44	243	509	226	145	225	259
1 月	2,740	160	551	1,363	99	296	420	224	137	249	245
2 月	2,431	156	556	1,302	94	210	469	283	113	274	281
3 月	2,344	156	558	1,397	104	168	489	321	135	245	300
計	30,093	1,831	7,292	17,111	1,388	2,411	5,832	3,379	1,743	2,977	3,406

オ フットケア外来

第 1, 2 木曜日、第 3 金曜日、第 4 火曜日の 3 日／月

H30 年度は 105 件であった。

(リンパ浮腫外来は、担当看護師 2 名が曜日・時間管理を行う)

カ 内視鏡

上部内視鏡 : 1,891 件／年

下部内視鏡 : 719 件／年

その他 (EVL・ステント留置・拡張ブジー) : 9 件／年

(3) 外来目標

「来て良かった」「また受診したい」といってもらえるような安全で思いやりのある看護を提供します。

ア 安全な看護の提供と心地よい対応をします

・マニュアルやルールを守り、お互いに声掛けや注意ができる環境をつくる。

- ・常に丁寧な言葉使いと会話はゆっくり話す事を心がける。
- ・身だしなみは、きちんと守る。

イ 他職種の専門性をお互いに尊重します

- ・他職種からの情報をもとに適切な対応をする。
- ・患者情報は、正確に病棟スタッフに伝える。

ウ 専門性を活かし自己啓発に努めます

- ・院外・院内研修は積極的に参加する。
- ・専門分野の分散勉強会を行う。

(7) 看護教育室



看護師長（H31. 3. 31 現在） 鈴木 三恵子

○活動内容

(1) 平成 30 年度のトピックス

ア 公開講座 5 コース

- (ア) 感染対策
- (イ) 褥瘡対策
- (ウ) リハビリテーション
- (エ) 糖尿病ケア
- (オ) 地域連携

(2) 業務実績

ア 院内研修

(ア) 新採用職員研修及び新人看護師研修

月 日	内 容	受講者
平成30年4月2日	・辞令交付式・オリエンテーション・職員紹介 ・看護部の理念・概要・体制・組織について ・新人の心構え等、6ヶ月の私へ、一年のスローガン ・公務員としての知識について ・倫理綱領 ・人事諸制度（給与）	各6名
3日	・人事諸制度（勤務・福利厚生） ・レポートの書き方について ・労働組合説明会 ・市の施設について（見学）	
5日	・医療安全について① ・口腔ケアについて ・総病院長講話 ・看護技術①	
6日	・市の防災について ・市の歴史等について（見学）	

月 日	内 容	受講者
平成30年 4 月 9 日	・健康管理・メンタルヘルス ・地方財政制度と本市の財政状況 ・看護必要度について ・個人情報と情報セキュリティ	
10日	・文書実務 ・フィジカルアセスメント ・接遇（マナーと実技）	
11日	・感染管理①標準予防策、感染経路別予防策について ・看護記録等について ・看護技術②	
12日	・感染管理②（留置針の使用方法、真空管採血、翼状針の使用方法） ・電子カルテの操作①	
13日	・静脈注射・注射点滴の概念①（血圧測定、筋肉注射、皮下注射） ・訪問診療 ・病棟見学	
16日	・輸液ポンプ・シリンジポンプ・モニターについて ・静脈注射・採血訓練② ・抗がん剤暴露について ・電子カルテの操作②	
17日	・オムツのあて方 ・地域医療科について ・訪問診療 ・病棟見学	
18日	・感染管理③針刺し切創・職業感染対策等 ・接遇マニュアルについてロールプレイング	
19日	・安全な薬剤管理について ・感染管理④フォリーカテーテルについて ・創傷ケア、エアーマットの使用方法について ・先輩の看護観から学ぶ	
20日	・静脈注射・採血訓練③最終テスト ・訪問診療 ・病棟見学	
		各 6 名

月 日	内 容	受講者
平成30年5月10日	・看護フェスティバル ・医療安全について② ・救急蘇生包法・AEDの使用方法 ・緩和ケア 看取りについて	各6名
6月1日	・課題提出	
6月13日	・3ヶ月フォローアップ研修 - 現在の思いについて - 夜勤のリーダーについて - 採血・ポンプ類再チェック - 急変時の看護 3ヶ月振り返り	
9月21日	・6ヶ月フォローアップ研修 - ナラティブ① - 看護過程の概念 6ヶ月の私へ - チーム力・6ヶ月振り返り	
12月5日	・9ヶ月フォローアップ研修 - 呼吸器の基礎知識 - 看護過程の展開 - 多重課題 挿管時の介助法 SBAR等について 9ヶ月振り返り	
平成31年3月6日	・12ヶ月フォローアップ研修 - ナラティブ② - 日勤のリーダー業務・役割について - 呼吸器について	
3月13日	課題提出	
3月20日	課題発表	

(イ) クリニカルラダー

レベル	月 日	内 容	受講者
I	平成30年6月14日	ケースレポート導入講義	各4名
	6月29日	企画書提出（初期計画）	

レベル	月 日	内 容	受講者
I	平成30年 6 月29日	メンバーシップについて	各 4 名
	12月20日	原稿提出・グループワーク	
	平成31年 2 月28日	原稿・パワーポイント提出①	
	3 月20日	原稿・パワーポイント提出②	
	3 月22日	ケーススタディ発表	
II	平成30年 6 月26日	再構成導入講義（ウェーデンバック臨床の本質）	各 10 名
	9 月28日	再構成課題レポート提出「自分の心に残っている場面について」	
	10月18日	再構成グループワーク	
	12月21日	課題レポート提出	
	平成31年 2 月22日	リーダーシップ（リーダー準備編）について	
III	平成30年 5 月30日	看護研究導入講義①	8 名
	6 月 6 日	看護研究導入講義②	11 名
	7 月 2 日	看護計画書提出	5 名
	9 月19日	看護理論・個別看護展開	6 名
	10月31日	個別看護展開課題提出	6 名
	11月21日	看護理論発表	6 名
	12月20日	ナラティブ	8 名
	平成31年 2 月 4 日	看護研究提出	3 名
	2 月 6 日	メンバー・リーダーシップ①	7 名
	3 月 4 日	看護研究再提出	3 名
	3 月14日	メンバー・リーダーシップ②	2 名
	3 月29日	看護研究発表	3 名
IV	平成30年 6 月13日	退院支援について導入講義	各 6 名
	9 月21日	ナラティブ（新人研修合同）	
	平成31年 1 月30日	退院前訪問を終えて（グループワーク）	
	2 月20日	トリアージについて（グループワーク）	
	3 月 1 日	課題提出	
	3 月 6 日	ナラティブ（新人研修合同）	
	3 月28日	院内防災訓練トリアージ	
V	平成30年 6 月22日	SWOT分析	各 4 名
	8 月31日	課題提出	
	9 月 7 日	課題発表 ディスカッション SWOT発表	
	11月29日	業務倫理 医療倫理①	

レベル	月 日	内 容	受講者
V	平成30年11月31日	業務倫理 医療倫理② グループワーク	各4名
管理 Ⅰ	平成30年6月4日	BSCについて	各4名
	7月2日	ベストプラクティスについて	
	8月22日	課題提出 BSC	
	平成31年2月4日	ベストプラクティス発表	
	3月4日	BSC評価会	
管理 Ⅱ	平成30年6月19日	管理指標 (Ma I N) について	各8名
	8月21日	課題提出 (Ma I N)	
	10月9日	労務管理について	
	平成31年3月5日	Ma I N報告会	

コ ー ス	日 程・内 容	受講者
実習指導者	平成31年2月14日 実習指導者の役割りについて	4名
チーム リーダー会	平成30年7月4日 各病棟スタッフ教育の問題点 9月12日 3年目までの看護師到達度・問題点 12月12日 平成30年度教育プログラム内容について	6名
平成31年度 プリセプター	平成31年3月26日 新人看護師の年間計画について 平成30年度プリセプターからの課題	8名

(ウ) 公開講座

コ ー ス	日 程	内 容	受講者
感染対策講座	平成30年10月19日	インフルエンザについて	14名
	平成31年2月22日	疥癬について	8名
褥瘡対策講座	平成30年10月24日	褥瘡発生後のケア「創の見方と創の管理について」	17名
	11月28日	褥瘡発生後のケア「ポジショニングについて」	4名
リハビリテー ション講座	平成30年11月20日	実技講習会「ベッド上起き上がりや乗移り等」	14名
	平成31年2月20日	事例検討会「ロールプレイを通じた多職種連携」	14名
糖尿病ケア 講座	平成30年9月18日	糖尿病患者の災害時の対応について	15名
地域連携	平成30年6月7日	事例検討会①「切れ目のない終末期療養支援とは」	37名
	12月13日	事例検討会②「一人暮らしの終末期在宅医療」	17名

(エ) 院内研修会・伝達講習会

月 日	研 修 内 容	受講者
平成30年4月16日	セーフスの使い方について	9名
4月16日	ストマ管理	7名
5月16日、23日	コルセットについて	25名
5月18日	急変時の看護	19名
6月15日、20日、21日	第1回感染対策講習会	107名
7月4日、11日、18日	エルネオパについて	38名
7月9日、12日	認知症患者の治療について	38名
7月25日	心不全の病態と治療を考える	39名
7月31日	テリボンについて	9名
8月9日	在宅呼吸器・トリロジー	12名
8月14日、29日	シダキュアスギ花粉舌下錠について	18名
10月5日、11月6日、12月7日	呼吸器勉強会	26名
9月20日	肺胞の仕組みと間質性肺炎について	9名
9月11日、11月27日	輸液の基礎経腸栄養のマネジメント	14名
9月26日、10月17日	第1回接遇研修会	45名
10月3日	リュープリン注射薬について	6名
10月23日	プロケアを体験しながら自分の技にしよう	10名
10月29日、30日、31日	第2回感染対策講習会	89名
10月24日、27日	第1回医療安全研修会	91名
11月13日	チェストドレーン挿入時の準備と介助について	17名
11月14日、19日	診療報酬について	23名
12月3日、平成31年2月4日	糖尿病の基礎について	8名
12月26日	NIPPVについて	10名
平成31年1月21日、23日	抗菌薬適正使用について	38名
2月4日	糖尿病の基礎について	8名
2月5日	舌と頬粘膜のケア	17名
2月7日、12日	フレイル・サルコペニア	26名
2月28日	地域包括ケア病床について	17名
3月1日	膵臓系疾患について	33名
3月12日、13日	第2回医療安全研修会	90名
3月7日、15日	第2回接遇研修会	42名

(オ) 看護助手研修

月 日	研 修 内 容	受講者
平成30年 8 月 8 日、15 日	ポジショニングについて	13 名
10月10日、17日	移乗動作について	16 名
11月 7 日、14日	接遇について	10 名
平成31年 1 月16日、23日	医療安全について	10 名
3 月20日、22日	感染対策について	16 名

イ 院外研修

(ア) 出張研修・参加状況

月 日	研 修 テ ー マ	開 催 場 所	受講者
平成30年 5 月29日	平成 30 年度 がんばれ新人ナース	神奈川県青少年センター	6 名
7 月31日、8 月 7 日 8 月27日	神奈川県看護職員認知症対応力向上研修	神奈川県総合医療会館 茅ヶ崎市コミュニティホール	1 名
8 月26日	重症・医療・看護必要度評価者院内指導者研修	関内新井ホール	1 名
5 月26日	第 68 回神奈川県国民健康保険団体連合会診療施設部会研修会	小田原市生涯学習センター けやき	11 名
10月 5 日、6 日	第 58 回国保地域医療学会	アスティとくしま	2 名
8 月 6 日～11月30日	看護実習指導者講習会	神奈川県立保健福祉大学	1 名
8 月 1 日～11月30日	看護実習指導者講習会	横浜市立大学	1 名
11月28日～30日 12月 5 日～7 日	相互派遣研修	奈良県西和医療センター	4 名
10月27日	神奈川県七市公立病院研修会	茅ヶ崎市役所分庁舎コミュニティホール	15 名

(イ) 神奈川県看護協会 教育研修A群～D群

研 修 テ ー マ	開 催 場 所	受講者
看護協会教育研修A群	神奈川県総合医療会館	7 名
看護協会教育研修B群	神奈川県総合医療会館	6 名
看護協会教育研修C群	神奈川県総合医療会館	6 名
看護協会教育研修D群	神奈川県総合医療会館	1 名

(ウ) 看護管理研修会

期 間	研 修 テ ー マ	開 催 場 所	受 講 者
平成30年 9 月15日	新たな看護を創る管理	横浜市立大学	1 名
平成30年11月26日～ 12月 7 日(全 7 日間)	医療安全管理者養成研修	神奈川県総合医療会館	1 名
9 月21日～ 3 月 2 日	認定看護管理者教育課程セ カンドレベル	国際医療福祉大学	1 名
4 月 7 日～ 9 月28日	認定看護管理者教育課程フ ァーストレベル	神奈川県立保健福祉大学	1 名
4 月26日～ 9 月 7 日	認定看護管理者教育課程フ ァーストレベル	神奈川県看護協会	1 名

(エ) 全国自治体病院協議会研修

期 間	研 修 テ ー マ	開 催 場 所	受 講 者
平成30年 9 月16日	重症度、医療、看護必要度評 価者養成研修会	東京「ベルサール九段」	1 名

(オ) 学会 研修会 シンポジウム等で講師等を行った職員

氏 名	所 属	学会等の名称	講演等のテーマ及び内容等の 概要
嘉山 静子	看護部	神奈川県看護協会認定看護管理者教育課程セ カンドレベル	演習指導者
		横須賀市立衣笠中学校 2 年総合学習	進路講座
		神奈川歯科大学短期大学部看護学科 1 年	人間関係論
		日本看護協会	J N A ラダー交流会
		神奈川県看護協会	J N A ラダー導入までの実際 と今後の課題
		兵庫県看護協会	看護師のクリニカルラダー活 用の実際

氏 名	所 属	学会等の名称	講演等のテーマ及び内容等の概要
嘉山静子 中川恵	看護部	健康宅配便	生活習慣病予防について
阿部久美子	看護部	神奈川県認知症介護基礎研修	講師
長島好美 岡野恵美	看護部	健康宅配便	褥瘡について（ポジショニング・処置・予防法等）
長島好美 伊東千瑞子	看護部	健康宅配便	褥瘡について（ポジショニング・処置・予防法等）

ウ 院内発表会

(ア) 新人看護師発表会

月 日	テ ー マ	発 表 者
平成31年 3 月20日	一年の振り返りと今後の課題	6 名

(イ) ラダーⅠ－Ⅱ ケースレポート発表会

月 日	所 属	発 表 者	テ ー マ
平成31年 3 月22日	2 階病棟	田村美樹	認知機能を有する高齢者に対する術後離床とその関わり
	3 階病棟	濱内あゆみ	膵臓癌ターミナル期の看護
	3 階病棟	渡辺真琴	寝たきり患者における褥瘡ケアの取り組み
	4 階病棟	木村愛	住み慣れた自宅へ退院するための病棟看護師の役割 ～患者を支える家族との情報共有の重要性～

(ウ) ラダーⅡ 看護研究発表会

月 日	所 属	発 表 者	テ ー マ
平成31年 3 月29日	3 階病棟	伊東千瑞子	タクティールケアの実践による効果
	4 階病棟	宮村純子	排泄行動の自立は在宅復帰のための第一要因となりうるか～事例からの検討～
	4 階病棟	蛭田千香子	身体拘束削減に向けての意識調査

(エ) 看護研究 院外発表

月 日	開 催 地	テ ー マ	発表者
平成30年 5月26日	第 68 回神奈川県国民健康 保険団体連合会 診療施設部会研究報告	看護処置コスト漏れに関する実態 調査	渡辺みゆき
10月 5 日、6 日	第 58 回全国国保地域医療 学会	看護処置コスト漏れに関する実態 調査	渡辺みゆき
11月17日	第 36 回 神奈川県看護協会 横須賀支部 看護・介護実践 報告会	看護処置コスト漏れに関する実態 調査	渡辺みゆき
12月 1 日	第 20 回看護学会	VRE アウトブレイクを振り返る ～医療機関から暮らしの場につな げる感染対策～	杉崎絵美

エ 職場体験

月 日	体 験 者 数
平成30年 5月24日、25日	長井中学校 5 名
11月27日、28日	衣笠中学校 4 名
平成31年 1月17日、18日	初声中学校 2 名
1 月23日、24日	三崎中学校 2 名
2 月6 日、7 日	南下浦中学校 3 名

オ 1日看護体験

月 日	体 験 者 数
平成30年 7月25日	高校生 8 名
7 月26日	高校生 9 名
7 月27日	高校生 10 名

カ 神奈川歯科大学短期大学部看護学科実習

実 習 内 容	実 習 期 間	受 入 人 数
老年看護学実習Ⅲ	平成30年 8月27日～9月 7 日（8日間）	3 名
基礎看護学実習Ⅰ	10月22日～10月25日（4日間）	8 名
基礎看護学実習Ⅱ	平成31年 1月15日～1月25日（7日間）	12 名

4 事務局



(1) 総務課

総務課長（H31. 3. 31 現在） 矢尾板 昌克

○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

ア 経営状況

入院収益が2年連続して前年度を上回った。しかしながら、経費等の費用の増加と外来収益の減少などから、経常損益は赤字を計上することになった。

イ リバイバルチームⅡの結成

黒字経営に向けて、平成 29 年度に策定した新たな三浦市立病院改革プランの下、経営改善に取り組んできたが、本年度は更にボトムアップからの経営改善を図るため、各セクションの若手・中堅職員により構成されたプロジェクトチーム「リバイバルチームⅡ」が6カ月間の時限で結成された。チームの職員は元より職場からも提案を出し合い、相互調整、協力を図りながら経営改善に取り組んだ。提案数は132件、達成できた提案は40件となった。未達成の案件については、現在も引き続き関係セクションで達成に向けて取り組むとともに、進行管理を行っている。

(2) 業務実績

ア 経理

(ア) 業務実績

本年度の事業収益は、2,627,904,979 円で、これに対して事業費用は、2,665,053,837 円となり、収入、支出差引き 37,148,858 円の赤字である。

事業収益 2,627,904,979 円の内容は、医業収益 2,512,900,888 円、医業外収益 114,607,346 円、特別利益 396,745 円である。

一方、事業費用 2,665,053,837 円の内容は、医業費用 2,524,631,868 円、医業外費用 126,828,505 円、特別損失 13,593,464 円である。

(イ) 事業収益に関する事項

区分	平成 30 年度
医業収益	2,512,900,888 円

区分	平成 30 年度
医業外収益	114,607,346 円
特別利益	396,745 円
事業収益	2,627,904,979 円

(ウ) 事業費用に関する事項

区分	平成 30 年度
医業費用	2,524,631,868 円
医業外費用	126,828,505 円
特別損失	13,593,464 円
事業費用	2,665,053,837 円

イ 工事等

(ア) 業務実績

改良工事は、三浦市立病院屋上防水改修工事、三浦市立病院火災通報装置及び非常放送設備更新工事を行った。

医療機器等については、核磁気共鳴断層撮影装置、X線骨密度測定装置、婦人科用超音波画像診断装置等の整備を図った。

(イ) 改良工事の概況

工事名	工事費 (円)	竣工年月日	契約の相手方
三浦市立病院火災通報装置及び非常放送設備更新工事	9,957,600	平成 31 年 3 月 27 日	ホーチキ (株) 横浜支店
三浦市立病院屋上防水改修工事	34,687,440	平成 31 年 3 月 29 日	平成ケンソー (株)

(ウ) 器械備品取得の概況 (1,000,000 円以上)

購入年月日	品名	金額 (円)	購入先
平成 30 年 11 月 9 日	婦人科用超音波画像診断装置	2,099,520	協和医科器械 (株) 横浜支店
平成 30 年 12 月 20 日	簡易陰圧装置購入	1,218,240	協和医科器械 (株) 横浜支店

購入年月日	品名	金額（円）	購入先
平成 30 年 12 月 26 日	手術室用ベッドサイドモニター 2	1,389,128	アルフレッサ（株）横須賀支店
平成 31 年 1 月 17 日	ベッドバンウォッシャー（3階病棟用）	1,387,800	クラウメド（株）横須賀営業所
平成 31 年 3 月 29 日	核磁気共鳴断層撮影装置	119,988,000	エム・シー・ヘルスケア（株）
平成 31 年 3 月 29 日	X線骨密度測定装置	10,800,000	エム・シー・ヘルスケア（株）

(2) 医事課



医事課長（H31. 3. 31 現在） 石塚 真司

○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

ア みうら市民健康大学オープンキャンパスの開催

平成 27 年度から毎年、市内外の介護事業所等とみうら市民健康大学オープンキャンパス実行委員会を組織し、平成 30 年度も YMC A 三浦ふれあいの村で「測る・学ぶ・遊ぶ・食べる・笑う」をテーマに「三浦市民健康大学オープンキャンパス」を開催した。90 名の方が市内・市外から参加された。

イ 健診業務（土曜健診に向けて）

毎月第 2 土曜日に実施している土曜健診の実施回数は、平成 30 年度においては全 9 回となった。実受験者数は 103 件で、そのうちドック受診件数は 45 件となった。

ウ ふるさと納税制度を活用した人間ドックと脳ドック

ふるさと納税制度の活用として、ドック 2 種類を返礼品として平成 29 年に登録した。一つはふるさとで脳ドックを受診してもらうための「ふるさとで脳ドック」と、もう一つは人間ドックに脳ドックの併診をセットにした「ふるさとでセットドック」の 2 種類を登録した。「ふるさとで脳ドック」については、22 件の受検があり、「ふるさとでセットドック」は 13 件の受検があった。

(2) 業務実績

ア 健康診断

(ア) 三浦市集団健診

本年度は、三浦合同庁舎、南下浦市民センター及び初声市民センターの各会場に赴き、三浦市国民健康保険の特定健診を実施した。

三浦合同庁舎 6 回、南下浦市民センター 3 回及び初声市民センター 3 回合計 12 回実施し、延べ 1, 117 名の方が受診した。

(イ) 出張健診

市内医療介護福祉関係施設 2 施設で実施し、延べ 379 人の方が受診し入居者の方々と勤務されている方々を効率的に健診は受けられるよう配慮して実施した。

(ウ) 出張予防接種

インフルエンザ予防接種について官庁 1 施設、103 名の出張予防接種を実施した。

イ 施設基準

平成 30 年度中届出した施設基準

- (ア) 基本診療料 地域包括ケア入院医療管理料 1 「変更」
- (イ) 基本診療料 医療安全対策加算 1 「変更」
- (ウ) 基本診療料 機能強化加算 「新規」
- (エ) 基本診療料 退院支援加算 1 「変更」
- (オ) 基本診療料 療養環境加算 「変更」
- (カ) 基本診療料 抗菌薬適正使用支援加算 「新規」
- (キ) 特掲診療料 糖尿病透析予防指導管理料 「辞退」

(3) 栄養課



栄養課長（H31. 3. 31 現在） 矢尾板 昌克

○活動状況

(1) 平成 30 年度のトピックス

前年度から人員及び給食業務委託体制に変更はなかった。平成 30 年 4 月から、入院時食事療養費の患者負担が増額したことで、患者満足度の低下がないよう、給食業務委託会社及び多職種と連携し食事内容の充実を図った。日々の嗜好調査に加え、食事に関するアンケート調査を実施し、献立の改善に取り組んだ。

(2) 業務実績

ア 栄養食事指導実績数表

(単位：件)

年度 区分		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
入院患者		53	96	92
外来患者		80	113	139
合計		133	209	231

イ 年度別食数表

(単位：食)

年度 区分		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
患者給食 数	一般食	73,365	73,498	78,103
	特別食	21,574	19,347	23,024
	経管栄養	2,496	3,262	3,855
	小計	97,435	96,107	104,982
患者外給食数		2,286	2,274	2,280
合計		99,721	98,381	107,262

ウ 平成 30 年度 月別食数表

(単位：食)

区分 月	患者給食数				患者外 給食数	合計
	一般食	特別食	経管栄養	小計		
4 月	6,066	1,647	414	8,127	180	8,307
5 月	6,966	1,922	240	9,128	186	9,314
6 月	6,294	1,333	221	7,848	193	8,041
7 月	7,542	1,817	199	9,558	222	9,780
8 月	7,020	2,401	226	9,647	198	9,845
9 月	6,140	1,988	320	8,448	188	8,636
10 月	6,177	1,890	531	8,598	196	8,794
11 月	5,548	1,723	400	7,671	187	7,858
12 月	6,609	1,941	294	8,844	186	9,030
1 月	7,324	1,984	387	9,695	186	9,881
2 月	6,307	2,006	291	8,604	172	8,776
3 月	6,110	2,372	332	8,814	186	9,000
合計	78,103	23,024	3,855	104,982	2,280	107,262

Ⅲ 委員会の状況

1 三浦市立病院リスクマネジメント委員会



委員長 小澤 幸弘（総病院長）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

委員会は、次に掲げる事項を所掌し、必要な施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施を行う。

- ア 医療事故防止対策に関すること。
- イ 医療事故の分析及び再発防止策に関すること。
- ウ 訴訟及び和解に関すること。
- エ その他医療事故に関すること。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第１回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 4 月 24 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・ リスクマネージャーの変更について報告
 - ・ 事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
 - ・ アクシデントレポートの改定と運用法の変更について協議
- c 参加人数 11 名

イ 第２回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 5 月 22 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・ 事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
 - ・ 医療事故等の一括公表について協議
- c 参加人数 12 名

ウ 第3回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成30年6月26日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
 - ・FAX誤送信予防について協議
- c 参加人数 12名

エ 第4回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成30年7月24日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
 - ・インシデント/アクシデント報告書及び分析シートの運用について協議
 - ・救急カートについて周知
- c 参加人数 14名

オ 第5回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成30年8月28日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
 - ・MRI問診票について協議
 - ・病棟臨時点滴マニュアルについて協議
- c 参加人数 13名

カ 第6回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成30年9月25日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- c 参加人数 13名

キ 第7回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成30年10月23日 三浦市立病院会議室

- b 活動内容
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
 - ・ADLと転倒転落防止策に関する調査研究に関する報告
- c 参加人数 13名

ク 第8回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成30年11月27日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
 - ・平成30年度第1回医療安全管理研修について報告
- c 参加人数 11名

ケ 第9回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成30年12月25日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
 - ・バリアフリーアドバイザーの派遣について報告
 - ・平成30年度医療安全に係わる地域連携加算に伴う相互チェックについて
- c 参加人数 12名

コ 第10回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成31年1月22日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- c 参加人数 12名

サ 第11回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成31年2月26日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- c 参加人数 12名

シ 第12回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成31年3月26日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
 - ・バリアフリーアドバイザーによる調査結果について報告
 - ・院内暴力対策ポスター掲示について協議
- c 参加人数 11名

② 研修

ア 第1回 院内研修

- a 開催日時及び場所
平成30年11月8日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
テーマ「患者・家族とのコミュニケーション」
講師 SOMPO リスクマネジメント株式会社 大賀裕典さん
- c 参加人数 151名

イ 第2回 院内研修

- a 開催日時及び場所
平成31年3月12日 三浦市立病院会議室
平成31年3月13日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
テーマ チーム医療について「言いたいことが」言える環境の重要性
講師 医療安全管理室職員 竹内晃雄
- c 参加人数 143名

③ その他の活動

当院における、平成 30 年度のインシデント数は下記のとおりです。

平成 30 年度 月別 インシデント事例及びアクシデント報告数

レベル	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0		1	2	4	7	5	3	2	6	2		2	34
1	8	5	11	11	6	8	9	9	6	4	10	4	91
2	6	2	1	3	4	7	6	3	8	3	6	6	55
3a	3				1			2				1	7
3b	1				1	1		1		1			5
4a													0
4b													0
5													0
合計	18	8	14	18	19	21	18	17	20	10	16	13	192

平成 30 年度 分類別 インシデント事例及びアクシデント報告数

事象区分／レベル	レベル								合計	構成比	備考
	0	1	2	3a	3b	4a	4b	5			
転倒転落	6	43	7	3	3				62	32.3%	
薬品・輸血	10	10	18	1					39	20.3%	
チューブ類管理	2	4	19	2	1				28	14.6%	
療養関連	2	5	4		1				12	6.3%	
診療情報管理	8	6							14	7.3%	
リハビリ	1	2	4						7	3.6%	
検査		3		1					4	2.1%	
オーダー・指示出し等		6							6	3.1%	情報伝達も含む
無断離院		3	2						5	2.6%	
院内感染		5							5	2.6%	針刺しも含む
治療・処置・手術・麻酔	2	2	1						5	2.6%	
医療機器		1							1	0.5%	
対応・接遇	1	1							2	1.0%	
その他	2								2	1.0%	
合計	34	91	55	7	5	0	0	0	192	100.0%	

当院における、インシデント・アクシデントのレベル分類基準

(レベル 0 ～レベル 3 a = インシデントとし、レベル 3 b ～レベル 5 はアクシデントとする。)

レベル	傷害の内容		
	傷害の	傷害の	具体的な内容
	継続性	程度	
レベル 0	—	—	エラーや医薬品、医療用具等の不具合が見られたが、患者には実施はされなかった。
レベル 1	なし	—	患者への実害は、無かった場合。(何らかの影響の可能性は、否定できない)
レベル 2	一過性	軽度	処置や治療は行わなかった場合。(患者観察の強化、V S の軽度変化等)
レベル 3a	一過性	中等度	簡単な治療等の条件が生じた場合。(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤投与等)
レベル 3b	一過性	高度	濃厚な処置や治療を要した場合。(V S の高度変化、手術、入院日数延長、骨折等)
レベル 4a	永続的	軽度～中等度	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害等は伴わない場合。
レベル 4b	永続的	中等度～高度	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害等が伴う場合。
レベル 5		死亡	事故が死因となった場合。(原疾患の自然経過によるものを除く)

* V S = バイタルサイン (血圧・心拍数・体温・呼吸数・意識レベル)

2 三浦市立病院感染対策委員会（I C C）



委員長 小澤 幸弘（総病院長）

○活動状況

（1）設置目的

当委員会は、医療安全管理室が所掌し、医療関連感染に対する感染防止対策に関し、組織を横断して行うべき施策の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施のため設置されているが、院内にとどまらず地域の感染防止対策にも注力し、次に掲げる任務を遂行している。

- ア 院内感染発生時及び発生が疑われる際の患者への対応に関すること。
- イ 院内感染の発生原因の分析、改善策の立案、実施及び見直し並びに病院職員に対する周知に関すること。
- ウ 地域の医療機関、保健福祉施設等からの医療関連感染に関する支援に関すること。
- エ 感染対策チーム（I C T）への助言及び支援に関すること。
- オ その他感染対策に関すること。

当委員会の下部組織として、医療関連感染対策上の実践チームである感染対策チーム（I C T）及び臨床現場の役割モデルとしての感染対策リンクナース会を設置し、院内感染対策や職業感染防止などに関連する知識、技術等の職員への周知を実施している。

（2）活動実績

① 委員会の開催

ア 第1回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成30年4月6日（金） 三浦市立病院2階会議室

b 議事

- ・M一覧/VRE検出経過/インフルエンザ
- ・抗MRSA薬品使用患者リスト/抗インフルエンザ薬使用人数/使用制限抗菌薬リスト/抗生剤使用量
- ・感染症患者/職員報告
- ・感染管理情報（針刺し切創）
- ・VRE入院時検査の縮小について
- ・結核患者接触者リスト及び結核の接触者健康診断について

- ・手指消毒薬使用状況報告
- ・携帯用手指消毒薬について
- ・施設基準等に係る適時調査の結果について
- ・平成 29 年度第 2 回感染対策講習会参加状況報告
- ・平成 29 年度感染管理報告

c 出席人数 8 人

イ 第 1 回感染対策委員会臨時会

a 開催日及び場所

平成 30 年 4 月 13 日（金） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- ・結核の接触者健康診断について

c 出席人数 11 人

ウ 第 2 回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成 30 年 5 月 8 日（火） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- ・M一覧/VRE 検出経過
- ・抗MRSA薬品使用患者リスト/使用制限抗菌薬リスト/抗生剤使用量
- ・感染症患者/職員報告
- ・感染管理情報（劇症型溶血生連鎖球菌感染症）
- ・結核患者接触者リスト及び結核の接触者健康診断について
- ・急性弛緩性麻痺に関する感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令の施行等について
- ・携帯用手指消毒薬について
- ・手指消毒薬使用状況報告
- ・三浦市立病院感染管理体制組織図の一部改正について
- ・感染防止対策加算診療報酬報告

c 出席人数 8 人

エ 第 3 回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成 30 年 6 月 1 日（金） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- ・M一覧/VRE 検出経過

- ・抗MRSA薬品使用患者リスト/使用制限抗菌薬リスト/抗生剤使用量
- ・感染症患者/職員報告
- ・結核の接触者健康診断について
- ・ESBL産生菌マニュアルの策定について
- ・ルビスタの代替品の提案について
- ・手指消毒薬使用状況報告
- ・薬剤耐性（AMR）アクションプランの実施に関する研究について
- ・感染対策講習会について

c 出席人数 9名

オ 第4回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成30年7月10日（火） 三浦市立病院2階会議室

b 議事

- ・M一覧/VRE検出経過
- ・抗MRSA薬品使用患者リスト/使用制限抗菌薬リスト/抗生剤使用量
- ・感染症患者/職員報告
- ・結核の接触者健康診断について
- ・感染対策排気ユニット設置による空気感染患者用病室の整備について
- ・手指消毒薬使用状況報告
- ・感染対策講習会について

c 出席人数 9名

カ 第5回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成30年8月3日（金） 三浦市立病院2階会議室

b 議事

- ・M一覧/VRE検出経過
- ・抗MRSA薬品使用患者リスト/使用制限抗菌薬リスト/抗生剤使用量
- ・感染症患者/職員報告
- ・抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の設置及び同チーム設置に伴う関係規定の整備等について
- ・医療従事者のためのワクチンガイドライン第2版を根拠としたワクチン接種勧奨対象者への追記次項について
- ・手指消毒薬使用状況報告
- ・院内感染防止対策に関する取組事項の掲示について

- ・ 個人防護具の単回使用について
- ・ 二類感染症患者療養環境特別加算について

c 出席人数 8名

キ 第6回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成30年9月11日（火） 三浦市立病院2階会議室

b 議事

- ・ M一覧/VRE検出経過
- ・ 抗MRSA薬品使用患者リスト/使用制限抗菌薬リスト/抗生剤使用量
- ・ 感染症患者/職員報告
- ・ 平成31年度新型インフルエンザ等対策医療機器整備費補助金について
- ・ 手指消毒薬使用状況報告

c 出席人数 7名

ク 第7回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成30年10月5日（金） 三浦市立病院2階会議室

b 議事

- ・ M一覧/VRE検出経過
- ・ 抗MRSA薬品使用患者リスト/使用制限抗菌薬リスト/抗生剤使用量
- ・ 感染症患者/職員報告
- ・ 感染管理情報（風しん）
- ・ 手指消毒薬使用状況報告
- ・ 医療機器機種選定委員会報告
- ・ 公開講座、感染対策講習会及び地域連携相互評価について

c 出席人数 7名

ケ 第8回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成30年11月8日（木） 三浦市立病院2階会議室

b 議事

- ・ M一覧/VRE検出経過
- ・ 抗MRSA薬品使用患者リスト/使用制限抗菌薬リスト/抗生剤使用量
- ・ 感染症患者/職員報告
- ・ 感染管理情報（針刺し切創）

- ・感染管理情報（結核）
 - ・結核の接触者健康診断について
 - ・入院患者における超音波ネブライザーの見直しについて
 - ・手指消毒薬使用状況報告
 - ・公開講座及び感染対策講習会について
- c 出席人数 8名

コ 第9回感染対策委員会

- a 開催日及び場所
平成30年12月7日（金）
- b 議事
- ・M一覧/VRE検出経過
 - ・抗MRSA薬品使用患者リスト/使用制限抗菌薬リスト/抗生剤使用量
 - ・感染症患者/職員報告
 - ・感染管理情報（針刺し切創）
 - ・結核の接触者健康診断について
 - ・手指消毒薬使用状況報告
 - ・平成29年度三浦市立病院感染対策委員会年報について
 - ・新型インフルエンザ等対策机上訓練について
 - ・感染対策講習会について
- c 出席人数 10名

サ 第10回感染対策委員会

- a 開催日及び場所
平成31年1月10日（木）
- b 議事
- ・M一覧/VRE検出経過
 - ・抗インフルエンザ薬使用人数・抗MRSA薬品使用患者リスト/使用制限抗菌薬リスト/抗生剤使用量
 - ・感染症患者/職員報告
 - ・インフルエンザ情報の掲示について
 - ・結核の接触者健康診断について
 - ・流行性角結膜炎（EKC）マニュアルの策定について
 - ・多剤耐性緑膿菌（MDRP）マニュアルの策定について
 - ・MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）感染症マニュアルの改訂について

- ・手指消毒薬使用状況報告
 - ・抗菌薬適正使用支援チーム（ＡＳＴ）研修会について
 - ・合同カンファレンス、横須賀市院内感染対策ネットワーク定例会、地域連携相互評価等について
- c 出席人数 9名

シ 第2回感染対策委員会臨時会

- a 開催日及び場所
平成31年1月21日（月）
- b 議事
- ・インフルエンザの流行に伴う対応について
- c 出席人数 8名

ス 第11回感染対策講習会

- a 開催日及び場所
平成31年2月5日（火）
- b 議事
- ・M一覧/VRE検出経過
 - ・抗インフルエンザ薬使用人数・抗MRSA薬品使用患者リスト/使用制限抗菌薬リスト/抗生剤使用量
 - ・感染症患者/職員報告
 - ・結核の接触者健康診断の結果について
 - ・インフルエンザの発生状況等について
 - ・インフルエンザマニュアルの改訂について
 - ・手指消毒薬使用状況報告
 - ・抗菌薬適正使用支援チーム（ＡＳＴ）研修会について
- c 出席人数 9名

セ 第12回感染対策講習会

- a 開催日及び場所
平成31年3月5日（火）
- b 議事
- ・M一覧/VRE検出経過
 - ・抗インフルエンザ薬使用人数・抗MRSA薬品使用患者リスト/使用制限抗菌薬リスト/抗生剤使用量
 - ・感染症患者/職員報告

- ・インフルエンザの発生状況等について
- ・平成 30 年度医療法第 25 条第 1 項に基づく立入検査について
- ・平成 30 年度 B 型肝炎ワクチン接種報告及び平成 30 年度流行性ウイルス性疾患ワクチン接種報告
- ・手指消毒薬使用状況報告
- ・健康宅配便及び公開講座について

c 出席人数 9 名

② 研修

ア 院内全体研修等

a 平成 30 年 6 月 15 日（金）、20 日（水）及び 21 日（木）

「平成 30 年度 第 1 回 感染対策講習会」

対象者：病院職員

テーマ：「抗菌薬と E S B L 産生菌について」

※第 1 回 A S T 研修会と兼ねて開催

講師：I C T 島崎時朗、長谷川澄子、杉崎絵美

参加者：187 名

b 平成 30 年 10 月 29 日（月）、30 日（火）及び 31 日（水）

「平成 30 年度 第 2 回 感染対策講習会」

対象者：病院職員

テーマ：「インフルエンザについて」

講師：I C T 島崎時朗、長谷川澄子、杉崎絵美

参加者：170 名

c 平成 31 年 1 月 21 日（月）及び 23 日（水）

「平成 30 年度 第 2 回 A S T 研修会」

対象者：医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師

テーマ：「抗菌薬適正使用について」

講師：太陽ファルマ株式会社 担当者

参加者：38 名

イ 感染対策公開講座

a 平成 30 年 10 月 19 日（金）

テーマ：「インフルエンザについて」

参加者：14 名（院内 6 名・院外 8 名）

- b 平成 31 年 2 月 22 日（金）
テーマ：「疥癬について」
参加者：8 名（院内 5 名・院外 3 名）

ウ 感染対策出張講座（健康宅配便）

- a 平成 30 年 10 月 25 日（木） 会場：サニーヒル横須賀
対象者：病院職員
テーマ：「VRE・ESBL・ノロウイルスなどの感染症講座」
参加者：22 名
- b 平成 30 年 11 月 20 日（火） 会場：サニーヒル横須賀
対象者：施設職員
実施内容：感染症対策の実地講習（施設の状況確認及び施設内巡視）
- c 平成 31 年 2 月 18 日（月） 会場：パシフィック・ホスピタル
対象者：病院職員及び委託職員
テーマ：「ノロウイルスについて」
参加者：63 名

③ その他の活動

ア 感染防止対策カンファレンス

- a 平成 30 年 5 月 11 日（金）「ICT 合同カンファレンス」
会場：横須賀共済病院
参加施設：横須賀共済病院、湘南病院、自衛隊横須賀病院、聖ヨゼフ病院、
パシフィック・ホスピタル、神奈川歯科大学附属病院、三浦市立病
院
- b 平成 30 年 7 月 6 日（金）「ICT 合同カンファレンス」
会場：横須賀共済病院
参加施設：横須賀共済病院、湘南病院、自衛隊横須賀病院、聖ヨゼフ病院、
パシフィック・ホスピタル、神奈川歯科大学附属病院、三浦市立病
院
- c 平成 30 年 9 月 7 日（金）「ICT 合同カンファレンス」
会場：横須賀共済病院

参加施設：横須賀共済病院、湘南病院、自衛隊横須賀病院、聖ヨゼフ病院、
パシフィック・ホスピタル、神奈川歯科大学附属病院、三浦市立病
院

d 平成 30 年 11 月 2 日（金）「I C T 合同カンファレンス」

会場：横須賀共済病院

参加施設：横須賀共済病院、湘南病院、自衛隊横須賀病院、
パシフィック・ホスピタル、神奈川歯科大学附属病院、三浦市立病
院

e 平成 31 年 1 月 11 日（金）「I C T 合同カンファレンス」

会場：横須賀共済病院

参加施設：横須賀共済病院、湘南病院、自衛隊横須賀病院、聖ヨゼフ病院、
パシフィック・ホスピタル、神奈川歯科大学附属病院、三浦市立病
院

f 平成 30 年 2 月 26 日（月）「感染防止対策カンファレンス」

会場：三浦市立病院

参加施設：パシフィック・ホスピタル、三浦市立病院

g 平成 30 年 3 月 12 日（月）「感染防止対策カンファレンス」

会場：パシフィック・ホスピタル

参加施設：パシフィック・ホスピタル、三浦市立病院

イ 地域連携相互評価

a 平成 30 年 11 月 2 日（金）「感染防止対策地域連携相互評価」

会場：横須賀共済病院

評価施設：三浦市立病院

b 平成 30 年 11 月 9 日（金）「感染防止対策地域連携相互評価」

会場：三浦市立病院

評価施設：横須賀共済病院

ウ サーベイランス

a 厚生労働省サーベイランス事業（J A N I S）全入院患者部門

目的：本サーベイランスの目的は、全入院患者を対象として主要な薬剤耐性菌

による感染症患者の発生率に関するデータを継続的に収集・解析し、
医療機関における薬剤耐性菌感染症の発生状況を明らかにすることである。

2018 年 薬剤耐性菌感染症患者及び罹患率（‰）

区分	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
感染症患者数	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0
MRSA	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0
VRE	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
MDRP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
PRSP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
VRSA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
MDRA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
MRSA 罹患率(‰)	0.00	2.91	2.80	0.00	0.00	0.00	0.00	2.94	0.00	2.70	0.00	0.00
自施設 年間罹患率(‰)	1.40											
対象医療機関全体 MRSA 年間罹患率(‰)	4.57											

感染症患者数＝（新規感染症患者数）＋（継続感染症患者数）

罹患率（‰）＝（新規感染症患者数）÷（総入院患者数－継続感染症患者数）×1000

対象医療機関 MRSA 罹患率（‰）は、集計対象医療機関数（2017 年年報）217 件の罹患率（‰）

b 厚生労働省サーベイランス事業（JANIS）SSI 部門

目的：本サーベイランスの目的は、術後に発生する手術部位感染（SSI）の
リスク因子ごとの発生率やその原因菌に関するデータを継続的に収集・
解析し、医療機関における SSI の発状況を明らかにすることである。

2018 年 手術件数及び SSI 発生率

手術手技 コード	手術手技	自施設		対象医療機関	
		SSI 件数/ 手術件数	SSI 発生率	SSI 件数/ 手術件数	SSI 発生率
APPY	虫垂の手術	1/2	50.0	616/13,688	4.5
CHOL	胆嚢手術	0/1	0.0	855/29,509	2.9
COLO	大腸手術	1/10	10.0	5,109/48,104	10.6

手術手技 コード	手術手技	自施設		対象医療機関	
		SSI 件数/ 手術件数	SSI 発生率	SSI 件数/ 手術件数	SSI 発生率
GAST-D	幽門側胃切除	0/3	0.0	556/9,479	5.9
GAST-T	胃全摘	0/1	0.0	521/4,667	11.2
GAST-O	胃手術	0/1	0.0	373/5,210	7.2
HER	ヘルニア手術	0/3	0.0	133/18,613	0.7
REC	直腸手術	0/1	0.0	2,325/17,370	13.4
SB	小腸手術	0/1	0.0	1,033/7,859	13.1
FX	骨折の観血的整復術	1/46	2.2	144/22,019	0.7
KPRO	人工膝関節	0/6	0.0	70/11,203	0.6

対象医療機関は、2018年1月1日～12月31日における集計対象医療機関802件のSSI発生率(%)

SSI発生率(%) = (集計対象医療機関のSSI件数合計) ÷ (集計対象医療機関の手術件数合計) × 100

c 厚生労働省サーベイランス事業(JANIS)検査部門

目的：本サーベイランスの目的は、細菌検査により各種検体から検出される主要な細菌の分離頻度及びその抗菌薬感受性を継続的に収集・解析し、医療機関における主要菌種・主要薬剤耐性菌の分離状況を明らかにすることである。

2018年 特定の耐性菌の分離患者数及び分離率

区分/全体の分離率	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
MRSA (全体：9.87%)	6人 9.38%	4人 7.55%	6人 9.09%	7人 11.11%	8人 10.67%	4人 8.70%	1人 2.08%	13人 19.40%	3人 6.25%	6人 7.89%	2人 3.33%	4人 6.06%
VRSA (全体：0.00%)	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%
VRE (全体：0.01%)	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%
PRSP (全体：0.38%)	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	1人 1.59%	1人 1.33%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	1人 2.08%	1人 1.32%	0人 0.00%	1人 1.52%
MDRP (全体：0.07%)	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%
MDRA (全体：0.00%)	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%

区分/全体の分離率	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
CRE (全体：0.13%)	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%
カルバペネム耐性 緑膿菌 (全体：1.07%)	1人 0.00%	1人 1.56%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	2人 2.99%	1人 2.08%	2人 2.63%	0人 0.00%	1人 1.52%
第三世代セファロ ス ポリン耐性肺炎桿菌 (全体：0.48%)	1人 1.56%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	1人 1.52%
第三世代セファロ ス ポリン耐性大腸菌 (全体：3.03%)	0人 0.00%	1人 1.89%	3人 4.55%	4人 6.35%	4人 5.33%	3人 6.52%	0人 0.00%	5人 7.46%	1人 2.08%	2人 2.63%	3人 5.00%	2人 3.03%
フルオロキノロン耐性 大腸菌 (全体：6.91%)	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%

分離率（％）＝（対象菌の分離患者数）÷（検体提出患者数）×100

対象医療機関分離率（％）は、2018年1月～12月における全集計対象医療機関のうち200床未満である

613施設の分離率（％）

全体の分離率（％）＝（集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計）÷（集計対象医療機関の検体提出患者数合計）×100

2018年 主要菌の分離患者数と分離率

区分/全体の分離率	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
<i>S. aureus</i> (全体：17.33%)	14人 21.88%	10人 18.87%	11人 16.67%	13人 20.63%	13人 17.33%	7人 15.22%	5人 10.42%	17人 25.37%	6人 12.50%	11人 14.47%	8人 13.33%	12人 18.18%
<i>S. epidermidis</i> (全体：2.37%)	0人 0.00%	1人 1.89%	0人 0.00%	0人 0.00%	1人 1.33%	0人 0.00%	0人 0.00%	2人 2.99%	0人 0.00%	2人 2.63%	1人 1.67%	0人 0.00%
<i>S. pneumoniae</i> (全体：1.28%)	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	1人 1.59%	1人 1.33%	0人 0.00%	1人 2.08%	0人 0.00%	2人 4.17%	1人 1.32%	0人 0.00%	3人 4.55%
<i>E. faecalis</i> (全体：4.56%)	2人 3.03%	2人 3.13%	1人 1.52%	3人 4.67%	2人 2.67%	1人 2.17%	2人 4.17%	2人 2.99%	0人 0.00%	2人 2.63%	3人 5.00%	1人 1.52%
<i>E. faecium</i> (全体：1.52%)	1人 1.56%	1人 1.89%	2人 3.03%	1人 1.59%	2人 2.67%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	1人 1.52%
<i>E. coli</i> (全体：16.56%)	7人 10.94%	10人 18.87%	8人 12.12%	11人 17.46%	12人 16.00%	7人 15.22%	4人 8.33%	11人 16.42%	5人 10.42%	7人 9.21%	8人 13.33%	8人 12.12%
<i>K. pneumoniae</i> (全体：7.48%)	8人 12.50%	3人 5.66%	3人 4.55%	3人 4.76%	6人 8.00%	3人 6.52%	5人 10.42%	6人 8.96%	7人 14.58%	9人 11.84%	9人 15.00%	7人 10.61%
<i>Enterobacter. spp</i> (全体3.37%)	1人 1.56%	0人 0.00%	8人 12.12%	4人 6.35%	5人 6.67%	5人 10.87%	2人 4.17%	4人 5.97%	2人 4.17%	4人 5.26%	3人 5.00%	3人 4.55%

区分/全体の分離率	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
<i>S. marcescens</i> (全体 : 1.94%)	1人 1.56%	1人 1.89%	0人 0.00%	0人 0.00%	1人 1.33%	2人 4.35%	2人 4.17%	1人 1.49%	1人 2.08%	1人 1.32%	1人 1.67%	1人 1.52%
<i>P. aeruginosa</i> (全体 : 9.41%)	7人 10.94%	3人 5.66%	6人 9.09%	5人 7.94%	3人 4.00%	5人 10.87%	3人 6.25%	7人 10.45%	8人 16.67%	5人 6.58%	5人 8.33%	5人 7.58%
<i>Acinetobacter</i> ssp. (全体 : 1.10%)	1人 1.56%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	1人 1.33%	0人 0.00%	0人 0.00%	0人 0.00%	1人 2.08%	0人 0.00%	4人 6.67%	0人 0.00%

分離率 (%) = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

対象医療機関分離率 (%) は、2018 年 1 月～12 月における全集計対象医療機関のうち 200 床未満である
613 施設の分離率 (%)

全体の分離率 (%) = (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出
患者数合計) × 100

エ インフルエンザの流行に伴う面会制限の基準の作成

例年、冬季を中心に流行する季節性インフルエンザについて、早期対応の徹底を行うことによって院内での感染拡大を防止する目的で、面会制限の基準を作成し運用を開始した。

3 三浦市立病院褥瘡対策委員会



委員長 石田 良太（医師）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

褥瘡の予防等に関し、三浦市立病院において組織を横断して行うべき施策等の立案、意見調整、審議決定、情報の共有及び実施のため、三浦市立病院褥瘡対策委員会を設置する。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第１回「褥瘡対策委員会」

a 開催日時及び場所

平成 30 年 5 月 1 日 三浦市立病院地下食堂

b 活動内容

褥瘡委員会 30 年度目標

- ・褥瘡管理の意識を高める

(創の管理・体圧分散寝具・ポジショニングそれぞれ効果的に実施・使用されているか評価)

(各病棟において、褥瘡患者・褥瘡予防対策患者のカンファレンスを行ない褥瘡回診対象患者を選出し、褥瘡管理意識が高められるよう関わる)

- ・褥瘡回診の実施
- ・公開講座の実施

c 参加人数 7 名

イ 第２回「褥瘡対策委員会」

a 開催日時及び場所

平成 30 年 6 月 6 日 三浦市立病院地下食堂

b 活動内容

- ・褥瘡回診の実施（第 1・3 火曜日）16：00～16：30
- ・病院全体への勉強会の実施
- ・公開講座 10/24 創について 11/28 外部へ依頼（モルテン又はケープ）
- ・弾性ストッキング・弾包について

c 参加人数 9名

ウ 第3回「褥瘡対策委員会」

a 開催日時及び場所

平成30年7月3日 三浦市立病院地下食堂

b 活動内容

- ・はまゆう荘での勉強会について（講師、長島、岡野）
- ・褥瘡回診について
- ・血栓予防コスト漏れが多い。弾性ストッキングによる褥瘡のリスク
- ・褥瘡ドレッシング剤のサンプル使用し評価する

c 参加人数 7名

エ 第4回「褥瘡対策委員会」

a 開催日時及び場所

平成30年9月4日 三浦市立病院地下食堂

b 活動内容

- ・褥瘡発生率の上昇がある（3階病棟）
- ・エアマットの使用状況→各階の状況の把握
- ・公開講座

c 参加人数 5名

オ 第5回「褥瘡対策委員会」

a 開催日時及び場所

平成30年10月2日 三浦市立病院地下食堂

b 活動内容

- ・枕・クッションについて（使用状況の確認）
- ・弾性ストッキング（ショート丈）導入について
- ・エアマットについて

c 参加人数 6名

カ 第6回「褥瘡対策委員会」

a 開催日時及び場所

平成30年11月6日 三浦市立病院地下食堂

b 活動内容

- ・褥瘡発生状況報告（院内の褥瘡発生が増加している）
- ・スキンテアに対して試供品の保湿剤の使用と評価

- ・弾性ストッキングは従来のものの採用継続
- c 参加人数 5名

キ 第7回「褥瘡対策委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 12 月 4 日 三浦市立病院地下食堂
- b 活動内容
 - ・エアマット 3 台デモ機導入（ケーブ）
（ラグーナ・ネクサス R・トライセル E）
 - ・マットレスパッド 2 台のデモ機（ケーブ）
（ホスピタルマットレス・ミルフィ）
 - ・各セクションデモ機の使用状況
- c 参加人数 4名

ク 第8回「褥瘡対策委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 31 年 1 月 8 日 三浦市立病院地下食堂
- b 活動内容
 - ・エアマットの使用状況
 - ・体交枕の評価
 - ・ベータール（保湿剤）評価
 - ・ケアの実際はどうか
- c 参加人数 5名

ケ 第9回「褥瘡対策委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 31 年 3 月 5 日 三浦市立病院地下食堂
- b 活動内容
 - ・エアマットについて
 - ・褥瘡ラウンド
 - ・保湿剤につて
- c 参加人数 6名

褥瘡持ち込みと褥瘡院内発生数・率

(単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
褥瘡持ち込み	4	3	3	6	8	8	9	4	6	7	4	5
褥瘡院内発生	3	2	2	4	3	4	4	6	2	0	1	1
合計	7	5	5	10	11	12	13	10	8	7	5	6
病床数全体	110.5	115.6	105.4	118.5	121.5	119.5	112.6	108.5	116.2	120.1	118.1	117.6
持ち込み率	2.59%	2.7%	3.2%	4.86%	6.2%	6.7%	7.5%	3.4%	5.0%	5.5%	3.5%	3.6%
発生率	29.6%	1.9%	2.0%	2.9%	2.4%	3.6%	3.6%	5.7%	1.8%	0%	1%	0.3%

褥瘡持ち込み率 平均 4.5%

褥瘡発生率 平均 2.3%

② 研修

ア 第1回 施設へ向けた研修

a 開催日時及び場所 はまゆう荘

平成30年8月8日

b 活動内容

テーマ「褥瘡勉強会」

講師 長島 岡野

イ 第2回 院内全体研修

a 開催日時及び場所 はまゆう荘

平成30年8月22日

b 活動内容

テーマ「褥瘡勉強会」

講師 長島

ウ 第1回 公開講座

a 開催日時及び場所

平成30年10月24日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

テーマ「創について」

講師 長島 好美

エ 第2回 公開講座

a 開催日時及び場所

平成30年11月28日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

テーマ「ポジショニングについて」

講師 ケープ 担当者

③ その他

各病棟 褥瘡患者の回診

エアマットレスの使用状況の確認

a 開催日

第1・3火曜日 16:00～16:30

b 場所

各病棟

c 活動内容

(a) 褥瘡のある患者の回診を行い、適切な治療が行われること。

(b) 記録を残し、情報を共有すること。

d 参加人数

医師 1名 看護師（各部署）

4 三浦市立病院接遇向上委員会



委員長 渡辺 みゆき（看護師長）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

（設置）

接遇の向上に関し、三浦市立病院において組織を横断して行うべき施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施のため、三浦市立病院接遇向上委員会を設置する。

（所掌事項）

委員会は、次に掲げる事項を所掌し、必要な審議、決定、情報交換及び施策を行う。

- ア 相手を大切に思う心を表す対応に関すること。
- イ 表情、言葉づかい、身だしなみ及び態度に関すること。
- ウ 信頼、安心感、納得及び癒しを満たす対応に関すること。
- エ 質の高いサービスに関すること。
- オ 接遇研修に関すること。
- カ その他接遇に関すること。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第１回「接遇向上委員会」

a 開催日及び場所

平成 30 年 4 月 18 日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

前年度の反省会

各班からの報告

「三浦市立病院やさしい接遇マニュアル」改定案について審議

c 参加人数 6 名

イ 第２回「接遇向上委員会」

a 開催日及び場所

平成 30 年 5 月 16 日 三浦市立病院会議室

- b 活動内容
今年度の班分けについて(アンケート班・ポスター班・チェックリスト班)
司会・書記について
院内ラウンドについて
第1回目院内接遇研修について：内容検討
- c 参加人数 5名

ウ 第3回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成30年6月20日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
接遇ラウンドの報告
各班からの報告 年間目標発表
上半期接遇チェックリスト内容の検討
- c 参加人数 6名

エ 第4回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成30年7月18日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
院内ラウンドの報告・各班からの報告
上半期院内接遇自己チェックリストの配布
院内接遇研修のテーマについての報告
- c 参加人数 6名

オ 第5回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成30年9月19日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
各班からの報告
上半期院内接遇自己チェックリスト集計・結果報告
- c 参加人数 5名

カ 第6回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成30年10月17日 三浦市立病院会議室

- b 活動内容
各班からの報告
接遇委員会後に院内研修 1 回目②
- c 参加人数 7 名

キ 第 7 回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成 30 年 11 月 21 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
接遇ラウンド報告・各班の活動報告
第 2 回目院内接遇研修について：内容検討
- c 参加人数 7 名

ク 第 8 回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成 30 年 12 月 19 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
各班の活動報告
患者満足度アンケート回収率 UP について検討
病棟ナースステーションテーブル配置変更
- c 参加人数 6 名

ケ 第 9 回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成 31 年 1 月 16 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
各班の活動報告
全職員対象の職員間接遇の調査について
患者満足度アンケート配布の仕方の調査
- c 参加人数 4 名

コ 第 10 回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成 31 年 2 月 20 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
各班の活動報告

下半期院内接遇自己チェックリスト配布
患者満足度アンケート配布の仕方・依頼について
患者満足度アンケート回収 BOX について

c 参加人数 5 名

サ 第 11 回「接遇向上委員会」

a 開催日及び場所

平成 31 年 3 月 20 日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

各班の活動報告

下半期院内接遇自己チェックリスト集計・結果報告

院内接遇自己チェックリスト結果の発表の場について

c 参加人数 5 名

② 研修

ア 第 1 回①「苦情に対する事例検討」

a 開催日及び場所

平成 30 年 9 月 26 日 三浦市立病院会議室

b 講師

三浦市立病院接遇向上委員（接遇マネージャー）

渡辺みゆき

c 参加人数 26 名

イ 第 1 回②「苦情に対する事例検討」

a 開催日及び場所

平成 30 年 10 月 17 日 三浦市立病院会議室

b 講師

三浦市立病院接遇向上委員（接遇マネージャー）

渡辺みゆき

c 参加人数 19 名

ウ 第 2 回①「信頼関係を築く言葉づかい」

a 開催日及び場所

平成 31 年 3 月 7 日 三浦市立病院会議室

b 講師

三浦市立病院接遇向上委員（接遇マネージャー）

渡辺みゆき

c 参加人数 21 名

エ 第2回②「信頼関係を築く言葉づかい」

a 開催日及び場所

平成 31 年 3 月 15 日 三浦市立病院会議室

b 講師

三浦市立病院接遇向上委員（接遇マネージャー）

渡辺みゆき

c 参加人数 21 名

5 三浦市立病院NST委員会



委員長 和田 博雄（医師）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

栄養管理を症例個々や各疾患治療に応じて適切に実施すること等に関し、三浦市立病院において組織を横断して行うべき施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施のため、三浦市立病院NST委員会を設置する。

委員会は、次に掲げる事項を所掌し、必要な施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施を行う。

- ① 適切な栄養管理法の選択に関すること。
- ② 適切かつ質の高い栄養管理の提供に関すること。
- ③ 早期栄養障害の発見及び早期栄養療法の開始に関すること。
- ④ 栄養療法による合併症の予防に関すること。
- ⑤ 疾患罹患率及び死亡率の減少に関すること。
- ⑥ 病院スタッフへの栄養管理に関する知識の啓蒙及び修得に関すること。
- ⑦ 医療安全管理の確立及びリスクの回避に関すること。
- ⑧ 栄養素材及び資材の適正使用による経費削減に関すること。
- ⑨ 在院日数の短縮及び入院費の節減に関すること。
- ⑩ 在宅治療症例の再入院及び重症化の抑制に関すること。
- ⑪ その他栄養管理に関すること。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第１回「NST向上委員会」

a 開催日時及び場所

平成30年5月8日 三浦市立病院地下1階DPC室

b 活動内容

・平成30年度NST委員会目標

1. NST対象患者の測定の実施をスタッフに浸透させ、関心を高めることにつなげる

NST対象アセスメント・NST回診に関する対応方法について、可視化していく

2. 摂食嚥下に関して、各セクションごとに勉強会リスト検索し、勉強会内容

を検討

3. 勉強会の開催（年2回）

c 参加人数 8人

イ 第2回「NST 向上委員会」

a 開催日時及び場所

平成30年6月12日 地下食堂

b 活動内容

- ・IN Body について
- ・院内研修を年2回実施予定
- ・栄養アセスメント表の変更について

c 参加人数 8名

ウ 第3回「NST 向上委員会」

a 開催日時及び場所

平成30年7月10日 地下食堂

b 活動内容

- ・ラコール試飲
- ・委員会の日程及び役割分担について
- ・院内研修について
- ・身体測定について

c 参加人数 7名

エ 第4回「NST 向上委員会」

a 開催日時及び場所

平成30年10月9日 地下食堂

b 活動内容

- ・研修について（日程等）
- ・回診について

c 参加人数 5名

オ 第5回「NST 向上委員会」

a 開催日時及び場所

平成30年11月13日 地下食堂

b 活動内容

- ・勉強会について

- ・回診について
- ・来年度 IN BODY の検討
- c 参加人数 7名

カ 第6回「NST 向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 12 月 11 日 地下食堂
- b 活動内容
 - ・勉強会について
 - ・算定について
- c 参加人数 7名

キ 第7回「NST 向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 31 年 2 月 12 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
 - ・第一回アボットジャパンの勉強会
 - ・アディポメーターの活用について
 - ・I n b o d y について
 - ・嚥下コストもれについて
- c 参加人数 7名

ク 第8回「NST 向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 11 月 7 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
ご意見箱、待ち時間統計、みうら市民まつり、ハートフルマーケットについての協議
- c 参加人数 9名

ケ 第9回「NST 向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 31 年 3 月 12 日 地下食堂
- b 活動内容
 - ・嚥下造影について（問題点・必要性・今後）
 - ・第二回アボットジャパンの勉強会

- c 参加人数 7名

② 研修

ア 第1回 院内研修

- a 開催日時及び場所
平成30年9月11日 三浦市立病院 2階会議室
- b 活動内容
「やさしく学ぶための輸液・栄養の第一歩」
「経腸栄養のリスクマネジメント」
講師：大塚製薬
- c 参加人数 8人

イ 第2回 院内研修

- a 開催日時及び場所
平成30年11月27日 三浦市立病院 2回会議室
- b 活動内容
「やさしく学ぶための輸液・栄養の第一歩」
「経腸栄養のリスクマネジメント」
講師：大塚製薬
- c 参加人数 6人

ウ 第3回 院内研修

- a 開催日時及び場所
平成31年2月7日 三浦市立病院 2階会議室
- b 活動内容
「サルコペニア」
講師：アボットジャパン
- c 参加人数 9名

エ 第4回 院内研修

- a 開催日時及び場所
平成31年2月12日 三浦市立病院 2回会議室
- b 活動内容
「サルコペニア」
講師：アボットジャパン
- c 参加人数 17人

6 三浦市立病院CS向上委員会



委員長 五味 潤 一三（診療支援部長）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

Customer Satisfaction つまり、顧客満足を追求・実践することを目的として設置されている。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第１回「CS向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 4 月 3 日 三浦市立病院副院長室
- b 活動内容
待ち時間統計、市民健康大学オープンキャンパスについての協議
- c 参加人数 7 人

イ 第２回「CS向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 5 月 1 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
待ち時間統計、院内での携帯電話使用についての協議
- c 参加人数 8 名

ウ 第３回「CS向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 6 月 5 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
待ち時間統計、みうら市民まつり、リバイバルチームⅡ、苦情報告についての協議
- c 参加人数 9 名

エ 第４回「CS向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 7 月 3 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
待ち時間統計、外来待合室の写真展示についての協議
- c 参加人数 9 名

オ 第 5 回「C S 向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 8 月 7 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
待ち時間統計、ご意見箱についての協議及び外来待合室の写真展示の報告
- c 参加人数 6 名

カ 第 6 回「C S 向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 9 月 4 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
待ち時間統計、みうら市民まつり、リバイバルチームⅡについての協議及びみうら市民健康大学オープンキャンパスの協力依頼
- c 参加人数 8 名

キ 第 7 回「C S 向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 10 月 2 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
待ち時間統計、みうら市民まつり、世界糖尿病デーについての協議
- c 参加人数 8 名

ク 第 8 回「C S 向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 11 月 6 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
待ち時間統計、みうら市民まつり、世界糖尿病デーについての協議
- c 参加人数 8 名

ケ 第 9 回「C S 向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 12 月 4 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
待ち時間統計についての協議及びみうら市民まつり、健康宅配便の報告
- c 参加人数 9 名

コ 第 10 回「C S 向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 31 年 1 月 8 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
待ち時間統計、ハートフルマーケット、患者満足度アンケートについての協議
- c 参加人数 8 名

サ 第 11 回「C S 向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 31 年 2 月 5 日 資料配布による開催
- b 活動内容
待ち時間統計、患者満足度アンケートについての協議
- c 参加人数 6 名

シ 第 12 回「C S 向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 31 年 3 月 5 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
健康宅配便、患者満足度アンケートについての協議
- c 参加人数 8 名

② 健康宅配便、ヘルスチェックキャラバン

ア 第 1 回「健康宅配便」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 7 月 15 日 海外会館
- b 活動内容
生活習慣病について
- c 参加人数 30 人

イ 第 2 回「健康宅配便」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 8 月 8 日 特別養護老人ホームはまゆう
- b 活動内容
褥瘡について（ポジショニング・処置・予防法）
- c 参加人数 36 人

ウ 第 3 回「健康宅配便」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 8 月 22 日 特別養護老人ホームはまゆう
- b 活動内容
褥瘡について（ポジショニング・処置・予防法）
- c 参加人数 29 人

エ 第 4 回「健康宅配便」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 10 月 25 日 サニーヒル横須賀
- b 活動内容
感染症予防対策についての講習（ノロウイルス・VRE 他）
- c 参加人数 22 名

オ 第 5 回「健康宅配便」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 10 月 28 日 尾上町自治会館
- b 活動内容
日常生活における健康への取組み
- c 参加人数 30 人

カ 第 1 回「ヘルスチェックキャラバン」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 11 月 4 日 三浦 YMC A グローバルエコヴィレッジ
- b 活動内容
三浦市民健康大学オープンキャンパス ヘルスチェック等
- c 参加人数 90 名

キ 第 2 回「ヘルスチェックキャラバン」みうら市民まつり

- a 開催日時及び場所

平成 30 年 11 月 18 日 潮風アリーナ

b 活動内容

ボールプール、頸動脈エコー、ヘルスチェック、コスプレ撮影等

ク 第 6 回「健康宅配便」

a 開催日時及び場所

平成 30 年 11 月 20 日 サニーヒル横須賀

b 活動内容

感染症対策の実地講習（施設の状況確認及び施設内巡視）

c 参加人数 2 名

ケ 第 7 回「健康宅配便」

a 開催日時及び場所

平成 31 年 2 月 18 日 パシフィックホスピタル

b 活動内容

ノロウイルスについての研修会

c 参加人数 63 名

コ その他「頸動脈超音波検査」

a 開催日時及び場所

平成 31 年 3 月 27 日 三浦市合同庁舎

b 活動内容

健康教育「糖尿病について知ろう」の後援会前に、出席者全員に頸動脈超音波検査を実施して、簡易的な検査説明を行う。

c 参加人数 50 名

③ その他

ア 外来待合室の写真展示

a 開催日時及び場所

平成 30 年 7 月 1 日から 7 月 31 日 内科外来待合室

b 展示内容

三浦で働く人をクローズアップした作品の展示

イ 随時活動している内容として、1 階玄関ロビーの生け花、市内小中学校児童・生徒の作品を 9 月から 3 月まで内科待合に展示している。

7 三浦市立病院糖尿病疾病管理委員会



委員長 小澤 幸弘（総病院長）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

地域が一体となった糖尿病の重症化及び合併症の予防等に関し、三浦市立病院において組織を横断して行うべき施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施のため、三浦市立病院糖尿病疾病管理委員会を設置した。

委員会は、次に掲げる事項を所掌し、必要な施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施を行う。

- ①糖尿病のミニマムデータセットを活用した糖尿病疾病診療体制の構築に関すること。
- ②診療所からの検体検査業務受託により得たデータに基づく当該診療所との糖尿病疾病診療に係る連携に関すること。
- ③その他地域が一体となった糖尿病疾病管理に関すること。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第１回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 4 月 17 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
臨床検査科、外来、フットケア外来、リハビリテーション科、栄養課、病棟、薬剤科、放射線科等各部門からの報告
- c 参加人数 13 名

イ 第２回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 5 月 15 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
臨床検査科、外来、フットケア外来、栄養課、病棟、薬剤科等各部門からの報告
- c 参加人数 13 名

ウ 第3回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成30年6月19日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

臨床検査科、外来、フットケア外来、病棟、薬剤科、放射線科等各部門からの報告

c 参加人数 13名

エ 第4回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成30年7月17日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

臨床検査科、フットケア、外来、栄養課、病棟、薬剤科、放射線科等各部門からの報告

c 参加人数 14名

オ 第5回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成30年8月21日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

臨床検査科、外来、フットケア外来、栄養課、病棟、薬剤科等各部門からの報告

c 参加人数 12名

カ 第6回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成30年9月18日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

臨床検査科、外来、フットケア外来、リハビリテーション科、栄養課、病棟、薬剤科、放射線科等各部門からの報告

c 参加人数 14名

キ 第7回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成30年10月16日 三浦市立病院2階会議室

- b 活動内容
臨床検査科、フットケア外来、外来、病棟、栄養科、薬剤科等各部門からの報告
- c 参加人数 11 名

ク 第 8 回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 11 月 20 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
臨床検査科、フットケア外来、外来、病棟、薬剤科等各部門からの報告
- c 参加人数 8 名

ケ 第 9 回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 12 月 18 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
臨床検査科、外来、フットケア外来、リハビリテーション科、病棟、放射線科等各部門からの報告
- c 参加人数 13 名

コ 第 10 回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 31 年 1 月 15 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
臨床検査科、外来、フットケア外来、病棟等各部門からの報告
- c 参加人数 8 名

サ 第 11 回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 31 年 3 月 19 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
臨床検査科、外来、フットケア外来、栄養課、病棟、リハビリテーション科等各部門からの報告
- c 参加人数 11 名

③ その他イベント

ア 第1回「糖尿病教室」

- a 開催日時及び場所
平成30年8月2日 三浦市立病院内科眼科待合室
- b 活動内容
リハビリテーション科が担当し、「糖尿病と運動」をテーマに講演会を開催した。
- c 参加人数 約5人

イ 第2回「糖尿病教室」

- a 開催日時及び場所
平成30年8月16日 三浦市立病院内科眼科待合室
- b 活動内容
栄養科が担当し、「糖尿病と食事」をテーマに講演会を開催した。
- c 参加人数 約5人

ウ 第3回「糖尿病教室」

- a 開催日時及び場所
平成30年8月23日 三浦市立病院内科眼科待合室
- b 活動内容
看護部が担当し、「糖尿病と日常生活」をテーマに講演会を開催した。
- c 参加人数 約5人

エ 第4回「糖尿病教室」

- a 開催日時及び場所
平成30年8月30日 三浦市立病院内科眼科待合室
- b 活動内容
看護部が担当し、「糖尿病とフットケア」をテーマに講演会を開催した。
- c 参加人数 約5人

オ 第5回「糖尿病教室」

- a 開催日時及び場所
平成30年9月6日 三浦市立病院内科眼科待合室
- b 活動内容
薬剤科が担当し、「糖尿病と薬」をテーマに講演会を開催した。
- c 参加人数 約5人

カ 世界糖尿病デーイベント（ライトアップ）

a 開催日時及び場所

平成 30 年 11 月 13 日から 15 日 日没から 20 時まで

b 活動内容

世界糖尿病デーに合わせ、糖尿病の治療及び予防の啓発として三浦市立病院の建物の一部を世界糖尿病デーのシンボルカラーであるブルーにライトアップした。

キ 世界糖尿病デーイベント（糖尿病に関連した健康チェック）

a 開催日時及び場所

平成 30 年 11 月 14 日 三浦市立病院 1 階玄関ロビー

b 活動内容

世界糖尿病デーに合わせ、糖尿病の治療及び予防の啓発として院内で血糖・血圧測定、フットケア相談、栄養相談、お薬相談を開催した。

c 参加人数 約 90 人

8 三浦市立病院薬事委員会



委員長 堀内 俊治（医師）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

- ア 院内における医薬品の適正な管理及び運用に関すること。
 - イ 医薬品の採用及び削除に関すること。
 - ウ 使用医薬品の適正な使用方法（厚生労働省発行の医薬品副作用情報の伝達等）に関すること。
 - エ その他薬剤業務に関すること。
- 以上について必要な施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施を行う。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 平成 30 年度第 1 回「薬事委員会」

a 開催日及び場所

平成 30 年 4 月 20 日（金） 三浦市立病院地下食堂兼会議室

b 活動内容

委員の紹介

新規採用薬及び削除薬の検討により診療の向上及び在庫管理に資すること。

各科定数配置薬、配置数の見直しにより診療の向上及び在庫管理に資すること。

経営効果向上目的による後発品への切り替え。

c 参加人数

5 名（欠席者：1 名）

イ 平成 30 年度第 2 回「薬事委員会」

a 開催日及び場所

平成 30 年 7 月 27 日（金） 三浦市立病院地下食堂兼会議室

b 活動内容

新規採用薬及び削除薬の検討により診療の向上及び在庫管理に資すること。

各科及び救急カートの定数配置薬、配置数の見直しによる診療の向上及び

在庫管理に資すること。

経営効果向上目的による後発品への切り替え。

新規採用薬の適正な管理及び運用に資すること

c 参加人数

6名

ウ 平成30年度第3回「薬事委員会」

a 開催日及び場所

平成30年10月26日（金） 三浦市立病院地下食堂兼会議室

b 活動内容

新規採用薬及び削除薬の検討により診療の向上及び在庫管理に資すること。

各科及び救急カートの定数配置薬、配置数の見直しによる診療の向上及び在庫管理に資すること。

経営効果向上目的による後発品への切り替え。

c 参加人数

5名（欠席者：1名）

エ 平成30年度第4回「薬事委員会」

a 開催日及び場所

平成31年1月25日（金） 三浦市立病院地下食堂兼会議室

b 活動内容

新規採用薬及び削除薬の検討により診療の向上及び在庫管理に資すること。

c 参加人数

5名（欠席者：1名）

（単位：品目）

平成30年度採用・削除状況				
区分	内用	注射	外用	計
新規採用	8	5	3	16
削除	5	1	1	7
新規準採用	12	0	3	15
平成31年3月31日 採用状況				
区分	内用	注射	外用	計
採用薬品数	489(43)	344(44)	186(19)	1,019(106)
準採用薬品数	538(14)	6	181(14)	725(28)

（ ）は後発品

9 三浦市立病院情報処理委員会



委員長 木谷 勇一（診療部長）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

（設置）

I C Tに関し、三浦市立病院において組織を横断して行うべき施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施のため、三浦市立病院情報処理委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事項）

委員会は、次に掲げる事項を所掌し、必要な施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施を行う。

- ア 病院業務医療情報システムの運用等に関すること。
- イ 診療録に関すること。
- ウ 画像記録に関すること。
- エ 諸記録に関すること。
- オ 疾病分類に関すること。
- カ その他診療録、院内の情報処理に関すること。

平成 26 年 5 月 15 日改正

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第 1 回「情報処理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 4 月 19 日 D P C 室
- b 活動内容
 - ・電気設備点検について
 - ・ホームページ監視結果について
- c 参加人数：9 名

イ 第 2 回「情報処理委員会」

- a 開催日時及び場所

平成 30 年 5 月 16 日 D P C 室

b 活動内容

- ・電気設備点検について
- ・共有フォルダについての注意事項
- ・ホームページ監視結果について

c 参加人数：12 名

ウ 第 3 回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成 30 年 6 月 21 日 D P C 室

b 活動内容

- ・診療情報提供書の統一について
- ・電子カルテ掲示板の活用について
- ・電子カルテの閲覧について
- ・I p a d の使用について
- ・ホームページ運用部会の設置について

c 参加人数：11 名

エ 第 4 回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成 30 年 7 月 18 日 D P C 室

b 活動内容

- ・造影剤検査問診票について
- ・診療報酬に関すること
- ・ホームページ監視結果について
- ・I p a d について

c 参加人数：12 名

オ 第 5 回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成 30 年 8 月 15 日 D P C 室

b 活動内容

- ・予約枠について
- ・舌下免疫療法外来について
- ・ホームページ監視結果について
- ・診療報酬に関すること

c 参加人数：11 名

カ 第6回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成 30 年 9 月 19 日 D P C 室

b 活動内容

- ・ 枠の変更について
- ・ 指示簿一括止めについて
- ・ ホームページ監視結果について

c 参加人数：9 名

キ 第7回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成 30 年 10 月 17 日 D P C 室

b 活動内容

- ・ H I V 検査結果等のカルテ記載について
- ・ ポケットチャートの不具合について
- ・ 指示簿一括止めについて
- ・ ホームページ監視結果について
- ・ 予約枠について

c 参加人数：9 名

ク 第8回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成 30 年 11 月 21 日 D P C 室

b 活動内容

- ・ 予約枠の自動更新について
- ・ M R I 問診票について
- ・ 緩和ケアの予約枠について
- ・ ホームページ監視結果について
- ・ 電子カルテのバージョンアップについて

c 参加人数：11 名

ケ 第9回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成 30 年 12 月 19 日 D P C 室

- b 活動内容
 - ・電子カルテのバージョンアップについて
 - ・元号変更対応について
 - ・他院へのMR I 依頼の流れについて
 - ・ホームページ監視結果について
- c 参加人数：13 名

コ 第10回「情報処理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成31年1月16日 DPC室
- b 活動内容
 - ・代行入力承認ビューアについて
 - ・共有フォルダの整理とバックアップについて
 - ・ホームページ監視結果について
 - ・終夜睡眠ポリグラフィー検査について
 - ・元号変更対応について
- c 参加人数：12 名

サ 第11回「情報処理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成31年2月20日 DPC室
- b 活動内容
 - ・ホームページ監視結果について
 - ・看護プロファイルの利用者権限について
 - ・代行入力承認の文書設定について
 - ・共有フォルダ使用量整理について
- c 参加人数 12 名

シ 第12回「情報処理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成31年3月20日 DPC室
- b 活動内容
 - ・ホームページ監視結果について
 - ・ノートパソコンのバッテリー充電制御機能アップデートの時期について
 - ・元号変更について
- c 参加人数 9 名

Ⅳ 経営状況

1 決算概要

(1) 経常収益比較

○事業収益に関する事項

区 分		平成30年度	平成29年度	比 較	
				増 減	増減比率
医 業 収 益	入 院 収 益	円 1,576,768,387	円 1,483,283,270	円 93,485,117	% 6.3
	外 来 収 益	610,906,388	620,026,322	△ 9,119,934	△ 1.5
	そ の 他 医 業 収 益	151,477,113	145,361,853	6,115,260	4.2
	他 会 計 負 担 金	173,749,000	176,532,000	△ 2,783,000	△ 1.6
医 業 外 収 益	受 取 利 息 配 当 金	4,366	3,921	445	11.3
	他 会 計 負 担 金	62,593,000	62,622,000	△ 29,000	△ 0.0
	患 者 外 給 食 収 益	0	6,120	△ 6,120	皆減
	長 期 前 受 金 戻 入	21,436,617	20,419,561	1,017,056	5.0
	そ の 他 医 業 外 収 益	30,573,363	32,735,354	△ 2,161,991	△ 6.6
特 別 利 益		396,745	0	396,745	皆増
事 業 収 益		2,627,904,979	2,540,990,401	86,914,578	3.4

○事業費用に関する事項

区 分		平成30年度	平成29年度	比 較	
				増 減	増減比率
医 業 費 用	給 与 費	円 1,562,217,175	円 1,568,158,087	円 △ 5,940,912	% △ 0.4
	材 料 費	286,122,716	317,841,922	△ 31,719,206	△ 10.0
	経 費	445,490,593	433,128,638	12,361,955	2.9
	減 価 償 却 費	197,655,897	190,169,102	7,486,795	3.9
	資 産 減 耗 費	6,320,111	4,564,592	1,755,519	38.5
	研 究 研 修 費	26,825,376	26,022,510	802,866	3.1
医 業 外 費 用	支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	42,405,926	44,999,336	△ 2,593,410	△ 5.8
	患 者 外 給 食 材 料 費	29,000	31,900	△ 2,900	△ 9.1
	貸 倒 引 当 金 繰 入 額	14,060,000	20,014,650	△ 5,954,650	△ 29.8
	雑 損 失	70,333,579	64,070,296	6,263,283	9.8
特 別 損 失		13,593,464	8,096,601	5,496,863	67.9
事 業 費 用		2,665,053,837	2,677,097,634	△ 12,043,797	△ 0.4

(2) 損益計算書

平成30年度三浦市病院事業損益計算書

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

(単位:円)

1	医	業	収	益			
(1)	入	院	収	益	1,576,768,387		
(2)	外	来	収	益	610,906,388		
(3)	そ	の	他	医	業	収	益
(4)	他	会	計	負	担	金	
					<u>173,749,000</u>	2,512,900,888	
2	医	業	費	用			
(1)	給		与	費	1,562,217,175		
(2)	材		料	費	286,122,716		
(3)	経			費	445,490,593		
(4)	減	価	償	却	費	197,655,897	
(5)	資	産	減	耗	費	6,320,111	
(6)	研	究	研	修	費	<u>26,825,376</u>	<u>2,524,631,868</u>
	医	業	損	失			11,730,980
3	医	業	外	収	益		
(1)	受	取	利	息	配	当	金
(2)	他	会	計	負	担	金	
(3)	長	期	前	受	金	戻	入
(4)	そ	の	他	医	業	外	収
					<u>30,573,363</u>	114,607,346	
4	医	業	外	費	用		
(1)	支	払	利	息	及	び	企
(2)	患	者	外	給	食	材	料
(3)	貸	倒	引	当	金	繰	入
(4)	雑		損		失		
					<u>70,333,579</u>	<u>126,828,505</u>	<u>△ 12,221,159</u>
	経	常	損	失			23,952,139
5	特	別	利	益			
(1)	固	定	資	産	売	却	益
(2)	そ	の	他	特	別	利	益
					<u>74,595</u>	396,745	
6	特	別	損	失			
(1)	過	年	度	損	益	修	正
(2)	そ	の	他	特	別	損	失
					<u>9,724,323</u>	<u>13,593,464</u>	<u>△ 13,196,719</u>
	当	年	度	純	損	失	37,148,858
	前	年	度	繰	越	欠	損
						金	<u>877,479,208</u>
	当	年	度	未	処	理	欠
						損	金
							<u><u>914,628,066</u></u>

(3) 貸借対照表

平成30年度三浦市病院事業貸借対照表

(平成31年3月31日)

(単位：円)

資 産 の 部			
1	固 定 資 産		
(1)	有 形 固 定 資 産		
	イ 土 地	34,032,902	
	ロ 建 物	1,979,777,995	
	建物減価償却累計額	<u>△705,425,681</u>	1,274,352,314
	ハ 建物附属設備	1,718,486,153	
	建物附属設備減価償却累計額	<u>△640,439,817</u>	1,078,046,336
	ニ 構 築 物	28,538,421	
	構築物減価償却累計額	<u>△18,836,902</u>	9,701,519
	ホ 器 械 備 品	1,331,274,568	
	器械備品減価償却累計額	<u>△969,758,195</u>	361,516,373
	ヘ 車 両	9,732,619	
	車両減価償却累計額	<u>△8,048,061</u>	1,684,558
	ト リ ー ス 資 産	4,531,000	
	リース資産減価償却累計額	<u>△4,403,950</u>	127,050
	有形固定資産合計		2,759,461,052
(2)	無 形 固 定 資 産		
	イ 電 話 加 入 権	443,100	
	無形固定資産合計		443,100
(3)	投 資 そ の 他 の 資 産		
	イ 長 期 貸 付 金	41,800,000	
	貸倒引当金	<u>△32,000,000</u>	9,800,000
	投資その他の資産合計		9,800,000
	固 定 資 産 合 計		2,769,704,152
2	流 動 資 産		
(1)	現 金 預 金		581,664,712
(2)	未 収 金		
	イ 医 業 未 収 金	386,853,564	
	貸倒引当金	<u>△8,394,241</u>	378,459,323
	ロ 医 業 外 未 収 金	71,251,536	71,251,536
	ハ そ の 他 未 収 金		154,546,639
	未 収 金 合 計		604,257,498
(3)	貯 蔵 品		10,520,288
(4)	前 払 費 用		1,007,300
(5)	そ の 他 流 動 資 産		1,471,940
	流 動 資 産 合 計		<u>1,198,921,738</u>
	資 産 合 計		<u><u>3,968,625,890</u></u>

(単位：円)

		負債の部	
3	固定負債		
(1)	企業債		
	イ 建設改良費等の財源に充てるための企業債	<u>2,210,787,690</u>	2,210,787,690
	企業債合計		
(2)	引当金		
	イ 退職給付引当金	<u>141,460,000</u>	
	引当金合計		<u>141,460,000</u>
	固定負債合計		2,352,247,690
4	流動負債		
(1)	企業債		
	イ 建設改良費等の財源に充てるための企業債	<u>187,477,773</u>	187,477,773
	企業債合計		
(2)	未払金		
	イ 医業未払金	136,825,442	
	ロ 医業外未払金	2,297,603	
	ハ その他未払金	<u>186,186,718</u>	
	未払金合計		325,309,763
(3)	前受金		4,272,292
(4)	引当金		
	イ 賞与引当金	78,399,000	
	ロ 法定福利費引当金	<u>14,323,000</u>	
	引当金合計		92,722,000
(5)	預り金		<u>12,457,935</u>
	流動負債合計		622,239,763
5	繰延収益		
(1)	長期前受金		
	イ 受贈財産評価額	1,720,452	
	ロ 寄附金	30,104,856	
	ハ 国庫補助金	174,199,093	
	ニ 県補助金	26,024,191	
	ホ 市補助金	<u>64,919,637</u>	
	長期前受金合計		296,968,229
(2)	収益化累計額		<u>△186,072,921</u>
	繰延収益合計		110,895,308
	負債合計		<u>3,085,382,761</u>
		資本の部	
6	資本金		
(1)	固有資本金		67,852,672
(2)	繰入資本金	<u>1,730,018,523</u>	
	資本金合計		1,797,871,195
7	剰余金		
(1)	欠損金		
	イ 当年度未処理欠損金	<u>914,628,066</u>	
	欠損金合計		<u>914,628,066</u>
	剰余金合計		<u>△914,628,066</u>
	資本合計		<u>883,243,129</u>
	負債資本合計		<u>3,968,625,890</u>

2 三浦市立病院改革プラン及び実施状況

プランの名称	三浦市立病院改革プラン				
策定日	平成 29年 10月				
対象期間	平成 29年度 ～ 平成 32年度				
医療機能等に係る目標	H28年度 実績値	H29年度 目標値	H30年度 目標値	H31年度 目標値	H32年度 目標値
救急患者数(人)	4,270	4,380	4,410	4,440	4,470
転院受入件数(件)	114	120	132	132	132
訪問診療件数(件)	1,197	1,200	1,200	1,200	1,200
院内リハビリテーション件数(件)	26,372	27,000	30,327	30,327	30,327
訪問リハビリテーション件数(件)	1,565	1,650	2,475	3,300	3,300
退院支援実施患者数* ¹ (人)	750	832	847	862	877
介護連携指導実施患者数* ² (人)	1,280	1,410	1,425	1,440	1,455
退院後訪問* ³ (件)	0	12	24	36	36
注 表中の人数及び件数は、年間延べ数である。 *¹ 退院支援とは、病棟に専任で配置されている退院支援及び地域連携業務に専従する職員が次に掲げる支援を行うことをいいます。当該支援を行った場合、退院時に退院支援加算として算定できます。 (1) 入院後3日以内に患者の状況を把握して退院困難な要因を有している患者を抽出する。 (2) 原則として入院後7日以内に当該患者及び家族と病状や退院後の生活も含めた話し合いを行うとともに、関係職員と連携し、同日以内に退院支援計画の作成に着手する。 (3) 退院支援計画について、関係職員とのカンファレンスを経て、当該患者及び家族に文書で当該患者及び家族に文書で交付を行い、説明する。 *² 介護連携指導とは、入院中の患者に対して、医師又は医師の指示を受けた看護師、社会福祉士等が介護支援専門員と共同して、患者の心身の状況等を踏まえて導入が望ましいと考えられる介護サービス、退院後に利用可能な介護サービス等の情報提供を行うことをいいます。当該指導を行った場合、入院中2回に限り、介護連携指導料として算定できます。 *³ 退院直後の不安定な時期に集中して看護師が在宅等に外向くことで安定した在宅療養への移行及び継続を促進することができます。訪問を行った場合、退院1か月以内に5回まで退院後訪問指導料として算定できます。					
経営指標に関する数値目標	H28年度 実績値	H29年度 目標値	H30年度 目標値	H31年度 目標値	H32年度 目標値
経常損益(千円)	△39,496	577	31,303	63,621	72,400
経常収支比率(%)	98.4	100	101.1	102.2	102.6
医業収支比率(%)	97.6	99.4	102.3	103.8	104.4
職員給与費対医業収益比率(%)	52.7	51.8	50.7	50.7	50.9
1日当たり入院患者数(人)	111.0	114.0	128.0	128.0	128.0
入院診療単価(円)	33,321	36,779	33,750	33,750	33,750
病床利用率(%)	81.6	83.8	94.1	94.1	94.1
常勤医師数(人)	15	17	17	17	17

三浦市立病院改革プランー平成29年度～平成32年度ー目標達成状況【平成30年度】

(1) 医療機能等に係る目標

目標	H30数値目標	H30実績	達成状況	備考
a 救急患者数	4,410人	4,756人	達成	
b 転院受入件数	132件	129件	未達成	
c 訪問診療件数	1,200件	1,057件	未達成	
d 院内リハビリテーション件数	30,327件	26,890件	未達成	
e 訪問リハビリテーション件数	2,475件	1,533件	未達成	
f 退院支援実施患者数	847人	887人	達成	
g 介護連携指導実施患者数	1,425人	1,247人	未達成	
h 退院後訪問	24件	2件	未達成	

(2) 経営指標に関する数値目標

目標	H30数値目標	H30実績	達成状況	備考
a 経常損益	31,303千円	△23,953	未達成	
b 経常収支比率	101.1%	99.1%	未達成	
c 医業収支比率	102.3%	98.8%	未達成	
d 職員給与費対医業収益比率	50.7%	51.9%	未達成	
e 1日当たり入院患者数	128人	121.5人	未達成	退院患者数を含む。
f 入院診療単価	33,750円	35,554円	達成	退院患者数を含む。
g 病床利用率	94.1%	89.3%	未達成	退院患者数を含む。
h 常勤医師数	17人	16人	未達成	

3 財務分析

※数値は決算統計から

単位(千円)

区分	年度 ↑ = 改善 ↓ = 悪化	H29 7 期 7 期	H30 11 期 3 期	算式 H26から (会計基準見直し後)	説明
(1) 固定資産構成比率	(%) 前年比 ↑	74.5 ↑	69.8 ↑	固 定 資 産 総 資 産 × 100	総資産中の固定資産(企業内に長期的に滞留させ短期間に回収されない資産)が、どのくらいの割合かを 示す指標で、数値が高いほど、現金等の流動資産が少 ないことを示す。
(2) 固定比率 (100以下が理想)	(%) 前年比 ↑	312.6 ↑	278.6 ↑	固 定 資 産 資本金 + 剰余金 + 評価差額等 + 繰延収益 × 100	固定資産は、自己資本(自己資本金 + 剰余金)から調 達されるべきするという企業財政上の原則から、100% 以下が理想である。 固定資産に投資した資金が返済義務のない自己資本 でどれだけまかなわれているかを見るための指標。
(3) 固定資産 対 長期資本比率	(%) 前年比 ↓	87.1 ↓	82.8 ↑	固 定 資 産 資本金 + 剰余金 + 評価差額等 + 固定負債 + 繰延収益 × 100	固定資産がどのような財源で構成されているかを判 断するための指標であり、数値は低いほど良い。この 数値は100%以下であることが要求され、100%を超える 場合は、不良債務が発生していることを意味する。 (この場合不良債務は健全化法上の不良債務)
(4) 流動比率	(%) 前年比 ↓	176.5 ↓	192.7 ↑	流 動 資 産 流 動 負 債 × 100	数値が100%以上であると、短期的な支払能力が支払 義務をまかなって余りあるということで、支払余力が あると推測することができる。
(5) 当座比率 (厳性試験比率)	(%) 前年比 ↓	174.1 ↓	190.6 ↑	現 金 預 金 + (未収金 - 貸倒引当金) 流 動 負 債 × 100	短期債務に対応すべき現金預金及び容易に現金化し うる未収金が十分であるかを示す。 当座比率は分子に棚卸資産等のすぐに換金できない 資産を含めない点で流動比率とは異なり、流動比率より 厳密な短期的な支払能力を示す指標となる。数値は 100%以上が望ましい。
(6) 自己資本構成比率	(%) 前年比 ↑	23.8 ↑	25.0 ↑	資本金 + 剰余金 + 評価差額等 + 繰延収益 負 債 資 本 合 計 × 100	総資本(負債資本合計)と自己資本(自己資本金 + 剰 余金)の関係を示す。 (1) 固定負債構成比率が小であり、 <u>(6) 自己資本構成 比率</u> が大であるほど、経営の安定度は大きいと言え る。 自己資本比率が高い(総資本に占める自己資本の割 合が多い)ほどその企業は返済不要の資本を元手に事 業を行っているため経営が安定します。
(7) 自己資本回転率	(%) 前年比 ↑	2.7 ↑	2.6 ↓	医 業 収 益 (期首自己資本 + 期末自己資本) × 1/2	回転率が高ければ、収益の源である医業収益が、投 下された自己資本と比較して大きく、自己資本が効率 良く使われていることを示します。 ただし、急成長している場合、短期借入金などに 頼って売上が増え、回転率が上昇したり、業績が悪 化している場合、自己資本の減少と売上の減少が同時 に起こり回転率が悪化しない場合もあるので注意が必 要。その他の指標と組み合わせて見る必要がある。
(8) 経常収支比率	(%) 前年比 ↓	95.2 ↓	99.1 ↑	経 常 収 益 経 常 費 用 × 100	経常費用に対する経常収益の割合で、数値は高いほ ど良い。
(9) 医業収支比率	(%) 前年比 ↓	94.7 ↓	98.8 ↑	医 業 収 益 医 業 費 用 × 100	医業費用に対する医業収益の割合で、数値は高いほ ど良い。
(10) 平均給与	(千円) 前年比 ↓	6,778 ↓	6,851 ↓	職 員 給 与 費 職 員 数	労働生産性を示す指標。数値は低いほど良い。
(11) 労働生産性	(千円) 前年比 ↑	17,866 ↑	16,777 ↑	医 業 収 益 職 員 数	労働生産性を示す指標。数値は高いほど良い。
(12) 労働分配率	(%) 前年比 ↑	37.9 ↑	36.5 ↑	職 員 給 与 費 医 業 収 益 × 100	労働生産性を示す指標。数値は低いほど良い。
(13) 流動資産回転率	(回) 前年比 ↑	2.6 ↑	2.3 ↓	医 業 収 益 (期首流動資産 + 期末流動資産) × 1/2	流動資産回転率が高ければ高いほど、流動資産が効 率的に売上高に貢献していることになります。この回 転率が低くなる要因としては、滞留在庫や滞留債権の 増加などが考えられます。
(14) 職員給与費比率	(%) 前年比 ↓	54.4 ↓	51.9 ↑	医 業 収 益 職 員 給 与 費	労働生産性を示す指標。数値は低いほど良い。

V 各種統計資料

1 入院患者数実績

(単位：人)

科目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	後期	合計
内科	H30	1,771	1,837	1,432	2,044	1,964	1,740	10,788	2,003	1,790	1,933	2,008	1,537	1,779	11,050	21,838
	H29	1,617	1,709	1,396	1,788	1,738	1,911	10,159	1,933	1,681	1,761	1,873	1,518	2,004	11,070	21,229
	比較	154	128	36	256	226	△ 171	629	70	109	172	135	△ 281	△ 225	△ 20	609
神経内科	H30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外科	H30	603	563	434	357	563	599	3,119	447	557	396	423	366	358	2,547	5,666
	H29	503	445	476	555	714	505	3,198	314	601	658	799	580	573	3,525	6,723
	比較	100	118	△ 42	△ 198	△ 151	94	△ 79	133	△ 44	△ 262	△ 376	△ 214	△ 215	△ 978	△ 1,057
整形外科	H30	899	1,201	1,179	1,230	1,209	1,015	6,733	1,024	884	1,244	1,281	1,332	1,477	7,242	13,975
	H29	770	889	858	666	747	793	4,723	682	876	840	852	1,097	1,180	5,527	10,250
	比較	129	312	321	564	462	222	2,010	342	8	404	429	235	297	1,715	3,725
産婦人科	H30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児科	H30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科	H30	13	14	15	17	14	16	89	14	22	14	14	13	17	94	183
	H29	5	15	13	20	13	14	80	12	15	12	8	12	13	72	152
	比較	8	△ 1	2	△ 3	1	2	9	2	7	2	6	1	4	22	31
耳鼻咽喉科	H30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	H30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳神経外科	H30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	H30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	H30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	H30	3,286	3,615	3,060	3,648	3,750	3,370	20,729	3,488	3,253	3,587	3,726	3,248	3,631	20,933	41,662
	H29	2,895	3,058	2,743	3,029	3,212	3,223	18,160	2,941	3,173	3,271	3,532	3,507	3,770	20,194	38,354
	比較	391	557	317	619	538	147	2,569	547	80	316	194	△ 259	△ 139	739	3,308
累計	H30	3,286	6,901	9,961	13,609	17,359	20,729	24,217	27,470	31,057	34,783	38,031	41,662			
	H29	2,895	5,953	8,696	11,725	14,937	18,160	21,101	24,274	27,545	31,077	34,584	38,354			
	比較	391	948	1,265	1,884	2,422	2,569	3,116	3,196	3,512	3,706	3,447	3,308			
合(退院患者数)	退院	213	220	250	212	239	217	1,351	233	239	219	217	204	224	1,336	2,687
	H30	3,499	3,835	3,310	3,860	3,989	3,587	22,080	3,721	3,492	3,806	3,943	3,452	3,855	22,269	44,349
診療日数	H30	30	31	30	31	31	30	183	31	30	31	31	28	31	182	365
	H29	30	31	30	31	31	30	183	31	30	31	31	28	31	182	365
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1日者平均数	H30	110	117	102	118	121	112	113	113	108	116	120	116	117	115	114
	H29	97	99	91	98	104	107	99	95	106	106	114	125	111	105	105
	比較	13	18	11	20	17	5	14	18	2	10	6	△ 9	△ 5	4	9
新生児	H30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均在院数	新入院	204	234	241	229	227	211	1,346	246	225	227	226	197	212	1,339	2,681
	退院	213	220	250	212	239	217	1,351	233	239	219	217	204	224	1,336	2,687
	H30	17.0	17.4	14.0	18.7	17.4	17.4	16.9	16.2	15.1	17.3	18.6	17.9	18.5		17.1
平日	H29	16.2	13.7	11.9	12.8	12.4	12.4	12.4	11.8	11.8	14.9	16.8	17.7	17.1		14.0
	比較	0.8	3.7	2.1	6.0	4.6	5.0	3.8	3.7	3.3	2.4	1.8	0.2	1.4		3.1
短期滞在患者数	H30	30	38	54	51	35	41	249	49	33	30	43	37	43	235	484
	H29	30	38	54	51	35	41	249	49	33	30	43	37	43	235	484

2 外来患者数実績

(単位：人)

科目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	後期	合計
内 科	H30	2,504	2,601	2,469	2,667	2,602	2,236	15,079	2,699	2,561	2,456	3,196	2,404	2,366	15,682	30,761
	H29	2,438	2,555	2,524	2,607	2,662	2,487	15,273	2,603	2,528	2,667	2,934	2,633	2,700	16,065	31,338
	比較	66	46	△ 55	60	△ 60	△ 251	△ 194	96	33	△ 211	262	△ 229	△ 334	△ 383	△ 577
神 経 内 科	H30	131	127	157	134	145	122	816	129	141	136	132	125	127	790	1,608
	H29	145	138	157	124	140	127	831	133	136	115	133	114	147	778	1,609
	比較	△ 14	△ 11	0	10	5	△ 5	△ 15	△ 4	5	21	△ 1	11	△ 20	△ 12	△ 3
外 科	H30	608	662	625	749	649	589	3,882	665	625	571	586	542	571	3,560	7,442
	H29	639	718	739	781	889	712	4,478	677	741	690	652	647	712	4,119	8,597
	比較	△ 31	△ 56	△ 114	△ 32	△ 240	△ 123	△ 596	△ 12	△ 116	△ 119	△ 66	△ 105	△ 141	△ 559	△ 1,155
整 形 外 科	H30	1,708	1,847	1,805	1,896	1,855	1,687	10,798	2,012	1,850	1,688	1,581	1,468	1,640	10,239	21,037
	H29	2,113	2,139	2,178	2,095	2,126	1,943	12,594	2,047	2,059	1,962	1,821	1,725	1,913	11,527	24,121
	比較	△ 405	△ 292	△ 373	△ 199	△ 271	△ 256	△ 1,796	△ 35	△ 209	△ 274	△ 240	△ 257	△ 273	△ 1,288	△ 3,084
産 婦 人 科	H30	102	115	113	100	129	75	634	140	98	16	53	50	67	424	1,058
	H29	98	125	143	123	151	111	751	184	120	148	113	129	125	819	1,570
	比較	4	△ 10	△ 30	△ 23	△ 22	△ 36	△ 117	△ 44	△ 22	△ 132	△ 60	△ 79	△ 58	△ 395	△ 512
小 児 科	H30	131	156	162	166	165	155	935	226	289	200	147	127	147	1,278	2,213
	H29	148	72	70	118	200	175	783	200	229	223	265	221	161	1,205	1,988
	比較	△ 17	84	92	48	△ 35	△ 20	152	△ 7	77	14	24	△ 21	△ 14	73	225
眼 科	H30	451	510	546	492	521	428	2,948	391	497	510	414	438	481	2,731	5,679
	H29	500	502	542	491	559	419	3,013	383	548	528	408	477	449	2,793	5,806
	比較	△ 49	8	4	1	△ 38	9	△ 65	8	△ 51	△ 18	6	△ 39	32	△ 62	△ 127
耳 鼻 咽 喉 科	H30	303	327	273	222	237	209	1,571	385	270	211	218	244	326	1,654	3,225
	H29	232	269	250	208	218	236	1,413	234	242	229	272	266	266	1,509	2,922
	比較	71	58	23	14	19	△ 27	158	151	28	△ 18	△ 54	△ 22	60	145	303
麻 酔 科	H30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳 神 経 外 科	H30	159	134	158	149	164	146	910	169	174	139	142	107	141	872	1,782
	H29	163	149	172	153	153	169	959	152	173	151	143	129	151	899	1,858
	比較	△ 4	△ 15	△ 14	△ 4	11	△ 23	△ 49	17	1	△ 12	△ 1	△ 22	△ 10	△ 27	△ 76
泌 尿 器 科	H30	234	248	230	230	260	203	1,405	296	223	211	250	236	202	1,418	2,823
	H29	198	249	246	246	271	222	1,432	246	276	247	224	213	263	1,469	2,901
	比較	36	△ 1	△ 16	△ 16	△ 11	△ 19	△ 27	50	△ 53	△ 36	26	23	△ 61	△ 51	△ 78
皮 膚 科	H30	204	225	256	278	312	215	1,490	254	289	227	226	244	273	1,513	3,003
	H29	219	255	301	261	260	244	1,540	239	184	224	168	186	221	1,222	2,762
	比較	△ 15	△ 30	△ 45	17	52	△ 29	△ 50	15	105	3	58	58	52	291	241
合 計	H30	6,535	6,962	6,794	7,083	7,039	6,065	40,468	7,333	6,954	6,388	7,087	6,068	6,341	40,161	80,629
	H29	6,893	7,171	7,322	7,207	7,629	6,845	43,067	7,098	7,156	7,170	7,133	6,740	7,108	42,405	85,472
	比較	△ 358	△ 219	△ 528	△ 124	△ 590	△ 780	△ 2,599	235	△ 202	△ 782	△ 46	△ 682	△ 767	△ 2,244	△ 4,843
累 計	H30	6,535	13,487	20,281	27,364	34,403	40,468	47,801	54,755	61,143	68,230	74,288	80,629			
	H29	6,893	14,064	21,386	28,593	36,222	43,067	50,165	57,321	64,491	71,624	78,364	85,472			
	比較	△ 358	△ 577	△ 1,105	△ 1,229	△ 1,819	△ 2,599	△ 2,364	△ 2,566	△ 3,348	△ 3,394	△ 4,076	△ 4,843			
平 日	H30	6,439	6,815	6,698	6,910	6,885	5,911	39,658	7,228	6,844	6,187	6,685	5,922	6,230	39,096	78,754
診 療 日 数	H30	20	21	21	21	23	18	124	22	21	19	19	19	20	120	244
	H29	20	20	22	20	22	20	124	21	20	20	19	19	21	120	244
	比較	0	1	△ 1	1	1	△ 2	0	1	1	△ 1	0	0	△ 1	0	0
平 日 日 数	H30	20	21	21	21	23	18	124	22	21	19	19	19	20	120	244
	H29	20	20	22	20	22	20	124	21	20	20	19	19	21	120	244
	比較	0	1	△ 1	1	1	△ 2	0	1	1	△ 1	0	0	△ 1	0	0
1 日 平 均 患 者 数	H30	327	331	324	337	306	337	326	333	331	336	373	319	317	335	330
	H29	345	359	333	360	347	342	347	338	358	359	375	355	338	353	350
	比較	△ 18	△ 28	△ 9	△ 23	△ 41	△ 5	△ 21	△ 5	△ 27	△ 23	△ 2	△ 36	△ 21	△ 18	△ 20
1 日 平 均 患 者 数 (平 日)	H30	322	325	319	329	299	328	320	329	326	326	352	312	312	326	323
	H29	345	359	333	360	347	342	347	338	358	359	375	355	338	353	350
	比較	△ 23	△ 34	△ 14	△ 31	△ 48	△ 14	△ 27	△ 9	△ 32	△ 33	△ 63	△ 43	△ 26	△ 27	△ 27

3 救急患者数実績

(1) 集計期間 平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

(2) 区分 休日：日曜日、国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日、
12 月 29 日から翌年の 1 月 3 日までの日
平日：休日以外の日

(3) 男女別 (単位：人)

区分	男	女	合 計
休日	721	688	1,409
平日	1,545	1,802	3,347
合計	2,266	2,490	4,756

(4) 年齢別 (単位：人)

区分	0～9	10～19	20～59	60～	合 計
休日	24	74	608	703	1,409
平日	52	111	878	2,306	3,347
合計	76	185	1,486	3,009	4,756

(5) 地域別 (単位：人)

区分	三 浦 市	横 須 賀 市	県 内 (除： 三浦・横須賀)	県 外	合 計
休日	1,194	67	0	148	1,409
平日	2,888	192	0	267	3,347
合計	4,082	259	0	415	4,756

(6) 科別患者数 (単位：人)

区分	内科	外科	整形 外科	脳神経 外科	産婦 人科	小児科	眼科	耳鼻咽 喉科	泌尿 器科	皮膚科	その他	合 計
休日	1,037	219	143	4	0	0	0	0	2	4	0	1,409
平日	2,211	472	628	7	1	1	2	0	15	4	6	3,347
合計	3,248	691	771	11	1	1	2	0	17	8	6	4,756

(7) 来院手段別患者数

(単位：人)

区分	救 急 車	パ ト カ ー	そ の 他	合 計
休日	200	0	1,209	1,409
平日	824	0	2,523	3,347
合計	1,024	0	3,732	4,756

(8) 時間帯別患者数

(単位：人)

区分	17～18	18～22	22～24	0～6	6～8	8～8：30	8：30～9	9～17	合 計
休日	77	171	47	51	101	60	67	835	1,409
平日	206	625	138	165	104	48	62	1999	3,347
合計	283	796	185	216	205	108	129	2,834	4,756

(9) 処置状況

(単位：人)

区分	外 来	入 院	他医療機関紹介	そ の 他	合 計
休日	1,254	137	2	16	1,409
平日	2,441	785	12	109	3,347
合計	3,695	922	14	125	4,756

VI スタッフ一覧

平成 31 年 3 月 31 日現在

総 病 院 長 小 澤 幸 弘

(薬 剤 科)

【診 療 部】

診 療 部 長 木 谷 勇 一

科 長 今 村 里 絵

主 任 薬 剤 師 福 本 哲 也

薬 剤 師 加 藤 慈

薬 剤 師 長 谷 川 澄 子

薬 剤 師 太 田 健 介

薬 剤 師 高 梨 生 彬

(内 科)

医 長 齊 藤 真

担 当 医 長 兒 玉 康 史

担 当 医 長 兒 玉 末

担 当 医 長 堀 内 俊 治

担 当 医 長 森 琢 磨

医 師 井 上 哲 兵

(リハビリテーション科)

技 師 長 清 水 隆 人

主 任 技 師 藤 井 伸 行

理 学 療 法 士 藤 田 千 穂

作 業 療 法 士 後 藤 健 太 郎

理 学 療 法 士 重 枝 利 佳

理 学 療 法 士 鈴 木 和 美

理 学 療 法 士 池 田 正 孝

理 学 療 法 士 浅 田 浩 宜

作 業 療 法 士 竹 内 晃 雄

理 学 療 法 士 吉 田 朱 里

理 学 療 法 士 林 賢 治

理 学 療 法 士 押 越 里 枝

理 学 療 法 士 斗 賀 佳 典

理 学 療 法 士 中 嶋 直 樹

理 学 療 法 士 田 中 舞

(外 科)

医 長 和 田 博 雄

医 師 村 川 正 明

(整 形 外 科)

科 部 長 内 川 健

医 長 石 田 良 太

担 当 医 長 堀 口 元

(産 婦 人 科)

科 部 長 大 庭 信 彰

(小 児 科)

科 部 長 五 味 渕 一 三

(眼 科)

医 師 望 月 至

(放 射 線 科)

主 任 技 師 加 藤 静

診 療 放 射 線 技 師 月 松 望 由 紀

診 療 放 射 線 技 師 加 藤 大 己

診 療 放 射 線 技 師 齋 藤 正 樹

【診 療 支 援 部】

診 療 支 援 部 長 五 味 渕 一 三

(臨 床 検 査 科)

技 師 長 鈴 木 正 芳

主 任 技 師	島 崎 時 朗	看 護 師	山 崎 渚
臨 床 檢 査 技 師	渡 邊 真 由	看 護 師	藤 平 麻 衣 子
臨 床 檢 査 技 師	足 立 直 彦	看 護 師	一 山 春 花
		看 護 師	関 本 藍
(地 域 医 療 科)		看 護 師	鳴 海 芽 衣
科 長	嘉 山 静 子	看 護 師	飯 島 悠 介
担 当 医 長	兒 玉 末	看 護 師	氏 家 弘 之
担 当 看 護 師 長	中 川 恵	看 護 師	大 久 保 博 子
主 任 看 護 師	石 川 智 子	看 護 師	田 村 美 樹
看 護 師	益 島 美 帆	看 護 師	梶 間 琴 乃
主 任 社 会 福 祉 士	安 藤 麻 由 美	看 護 師	佐 藤 愛 美
社 会 福 祉 士	井 戸 友 美	看 護 師	福 岡 妙 子
		看 護 師	塩 瀬 裕 利 恵
(医 療 安 全 管 理 室)			
室 長	大 庭 信 彰	(3 階 病 棟)	
医 長	和 田 博 雄	看 護 師 長	舘 林 美 加 子
主 幹	今 村 里 絵	主 任 看 護 師	長 田 泰 代
主 幹	鈴 木 正 芳	主 任 看 護 師	長 谷 川 嘉 寛
次 長	矢 尾 板 昌 克	看 護 師	萩 原 京 子
担 当 看 護 師 長	鈴 木 三 恵 子	看 護 師	竹 内 馨
担 当 看 護 師 長	山 本 浩 文	看 護 師	瀬 古 澤 和 子
担 当 看 護 師 長	杉 崎 絵 美	看 護 師	高 橋 さ つ き
主 任 技 師	島 崎 時 朗	看 護 師	崎 山 美 緒
薬 剤 師	長 谷 川 澄 子	看 護 師	石 塚 仁
作 業 療 法 士	竹 内 晃 雄	看 護 師	高 橋 宏 美
		看 護 師	松 崎 彩
【看 護 部】		看 護 師	伊 東 千 瑞 子
看 護 部 長	嘉 山 静 子	看 護 師	伊 藤 愛
主 幹	中 條 郁 代	看 護 師	本 沢 志 織
		看 護 師	福 島 智 子
(2 階 病 棟)		看 護 師	一 條 生 久
看 護 師 長	中 條 郁 代	看 護 師	荏 原 千 織
主 任 看 護 師	中 尾 裕 子	看 護 師	渡 辺 真 琴
看 護 師	鈴 木 雪 江	看 護 師	濱 内 あ ゆ み
看 護 師	大 林 嬢 子	看 護 師	佐 藤 優 介
看 護 師	長 島 好 美	看 護 師	阿 部 久 美 子

(4 階 病 棟)				看 護 師	立 川 弥 主 子
看 護 師 長	原 田 左 和 子	看 護 師	益 島 美 帆	看 護 師	小 杉 将
主 任 看 護 師	下 里 未 来	(看 護 教 育 室)			
看 護 師	森 和 代	看 護 師 長	鈴 木 三 惠 子	看 護 師 長	山 本 浩 文
看 護 師	宮 村 純 子	看 護 師 長	杉 崎 絵 美	看 護 師 長	山 本 浩 文
看 護 師	大 井 雪 子	看 護 師 長	杉 崎 絵 美	看 護 師 長	山 本 浩 文
看 護 師	脇 本 共 子	【事 務 局】			
看 護 師	水 野 美 樹	事 務 局 長	佐 藤 安 志	事 務 局 長	佐 藤 安 志
看 護 師	原 か お り	(総 務 課)			
看 護 師	石 渡 綾 子	課 長	矢 尾 板 昌 克	課 長	矢 尾 板 昌 克
看 護 師	岡 野 恵 美	主 査	木 賀 恵 子	主 査	木 賀 恵 子
看 護 師	蛭 田 千 香 子	主 任 事	南 雄 大	主 任 事	南 雄 大
看 護 師	木 村 愛	主 任 事	齋 藤 俊	主 任 事	齋 藤 俊
看 護 師	神 田 尚 代	(医 事 課)			
看 護 師	森 谷 多 香 子	課 長	石 塚 真 司	課 長	石 塚 真 司
(手 術 室)				主 査	梅 木 麗 香
看 護 師 長	渡 辺 み ゆ き	主 事	三 堀 美 香	主 事	三 堀 美 香
看 護 師	松 井 紀 子	(栄 養 課)			
看 護 師	三 浦 朋 夏	課 長	矢 尾 板 昌 克	課 長	矢 尾 板 昌 克
看 護 師	渡 辺 俊 孝	主 査	嘉 山 有 太	主 査	嘉 山 有 太
看 護 師	高 橋 愛 海	主 事	深 瀬 理 子	主 事	深 瀬 理 子
(外 来)				(栄 養 課)	
看 護 師 長	市 川 夏 実	課 長	矢 尾 板 昌 克	課 長	矢 尾 板 昌 克
看 護 師 長	中 川 恵	主 任 栄 養 士	嘉 山 有 太	主 任 栄 養 士	嘉 山 有 太
主 任 看 護 師	山 崎 静 枝	管 理 栄 養 士	深 瀬 理 子	管 理 栄 養 士	深 瀬 理 子
主 任 看 護 師	石 川 智 子	管 理 栄 養 士	深 瀬 理 子	管 理 栄 養 士	深 瀬 理 子
看 護 師	君 島 直 美	管 理 栄 養 士	深 瀬 理 子	管 理 栄 養 士	深 瀬 理 子
看 護 師	上 田 み ど り	管 理 栄 養 士	深 瀬 理 子	管 理 栄 養 士	深 瀬 理 子
看 護 師	大 竹 民 子	管 理 栄 養 士	深 瀬 理 子	管 理 栄 養 士	深 瀬 理 子
看 護 師	岸 田 美 智 子	管 理 栄 養 士	深 瀬 理 子	管 理 栄 養 士	深 瀬 理 子
看 護 師	高 杉 有 希 子	管 理 栄 養 士	深 瀬 理 子	管 理 栄 養 士	深 瀬 理 子
看 護 師	田 中 絵 利 香	管 理 栄 養 士	深 瀬 理 子	管 理 栄 養 士	深 瀬 理 子
看 護 師	大 倉 三 佳	管 理 栄 養 士	深 瀬 理 子	管 理 栄 養 士	深 瀬 理 子

VII 編集後記

振り返りますと、平成 30 年度も当院にとって激動の 1 年であったと感じています。1 日当たり約 330 人の外来患者さん、約 114 人の入院患者さんに安全で質の高い医療を提供する日々の努力のほか、経営改善を図るため各職員の若手・中堅職員により構成されたプロジェクトチーム「リバイバルチームⅡ」が結成されました。チームや職場から様々な提案を出し合い経営改善に向けて、職員が一丸となりました。

「本年報の拙い編集作業の経験を活かし、より良い年報の作成に傾注すること」をお約束いたしますので、引き続きご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ですが、乱筆、乱文、乱調をお詫び申し上げ、編集後記といたします。

三浦市立病院年報委員会

委 員 長	佐 藤 安 志 (事 務 局 長)
副 委 員 長	嘉 山 静 子 (看 護 部)
委 員	長 谷 川 澄 子 (薬 剤 科)
	藤 井 伸 行 (リハビリテーション科)
	加 藤 大 己 (放 射 線 科)
	足 立 直 彦 (臨 床 検 査 科)
	石 塚 真 司 (総 務 課)
	南 雄 大 (総 務 課)
	見 上 正 行 (医 事 課)

三浦市立病院年報 第 31 号

発 行 日	2020 年 2 月
編 集 発 行	〒238－0222 神奈川県三浦市岬陽町 4 番 33 号 三浦市立病院年報委員会
電 話	046－882－2111
F A X	046－881－7527
発 行 責 任 者	事務局長 佐藤 安志